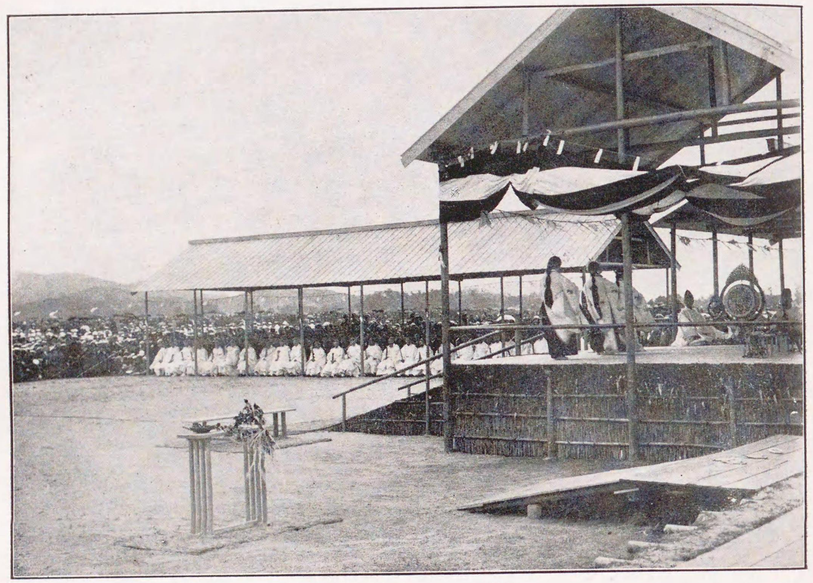
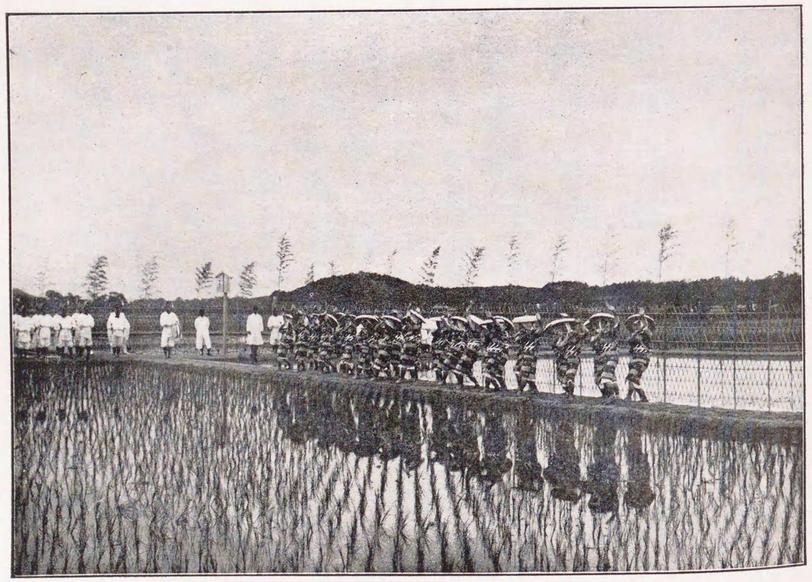
始植記念田畑



倭　舞　（巫子舞）



田　植　踊

宴會場

赤十字社救護所

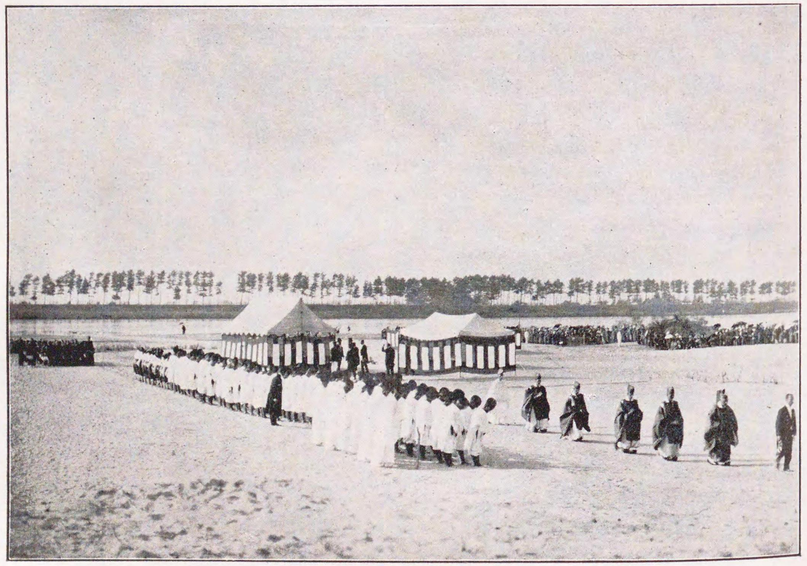
奧輝野星　補典掌

景全場祭祭鎭地

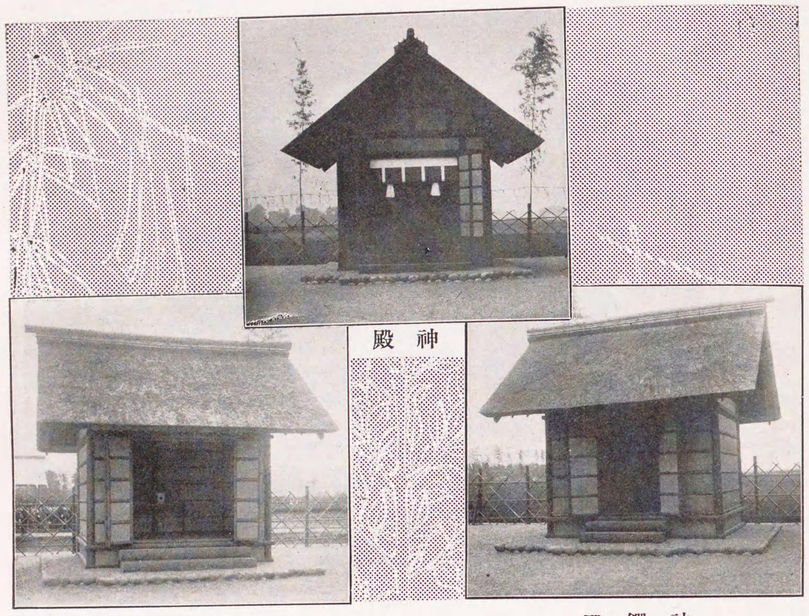
掌典　子爵　典河鰭公篤

齋田と農業
悠紀齋田之經過
悠紀齋田記念寫眞帖
上卷

大祓式場



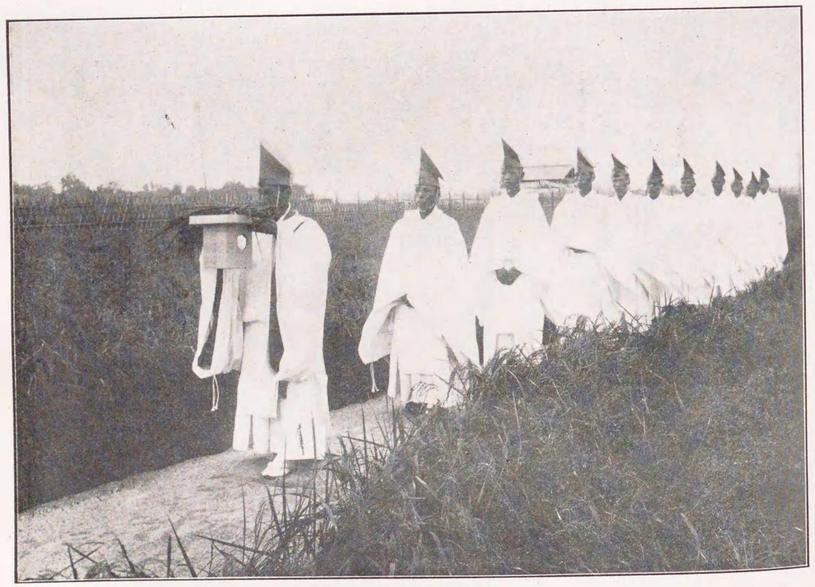
勅使退下



殿 神

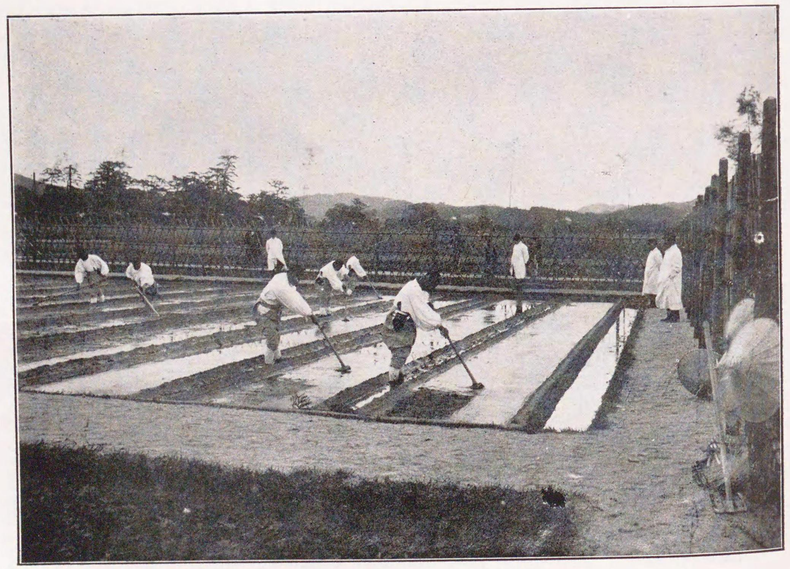
殿 實 稻

殿 饌 神

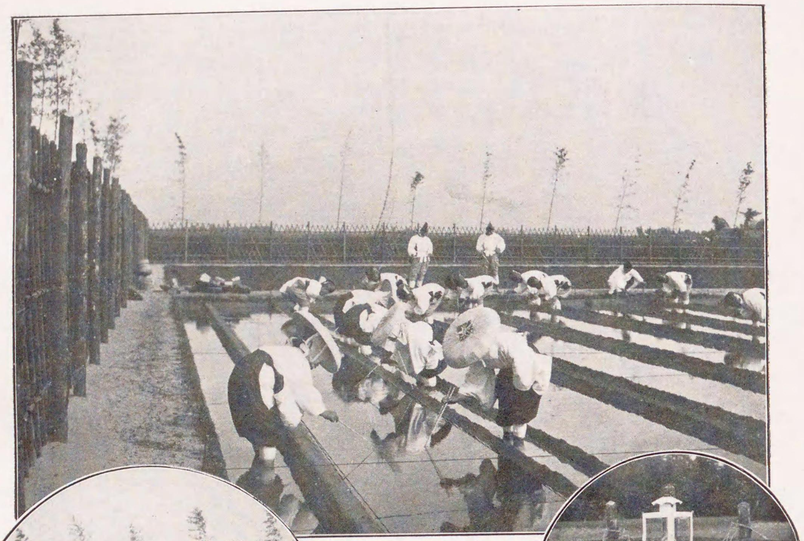


拔 穗 狀 況

種　　撰

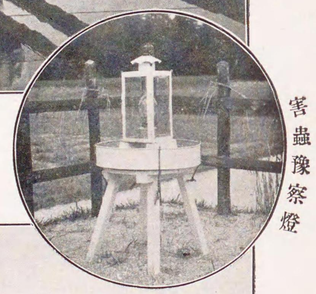


地　整　代　苗



播種

害蟲驅除



害蟲豫察燈

苗代全景

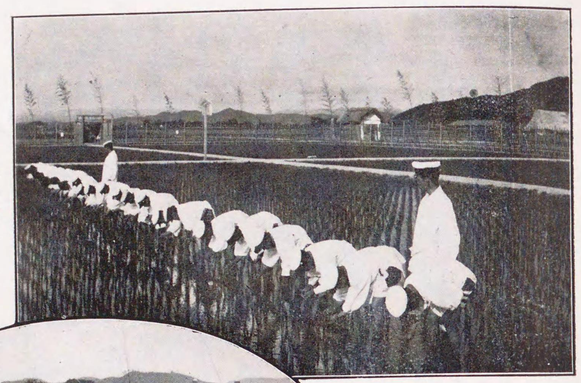
地整田本

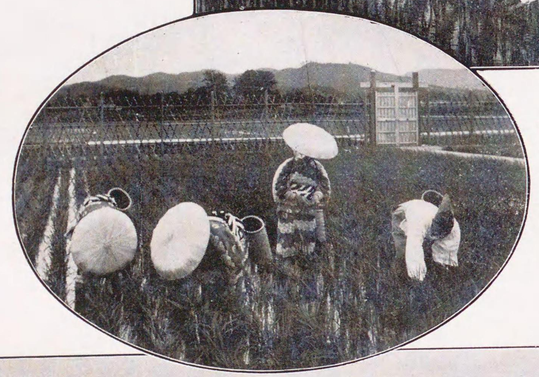
肥　　施

リ　取　苗

植　田

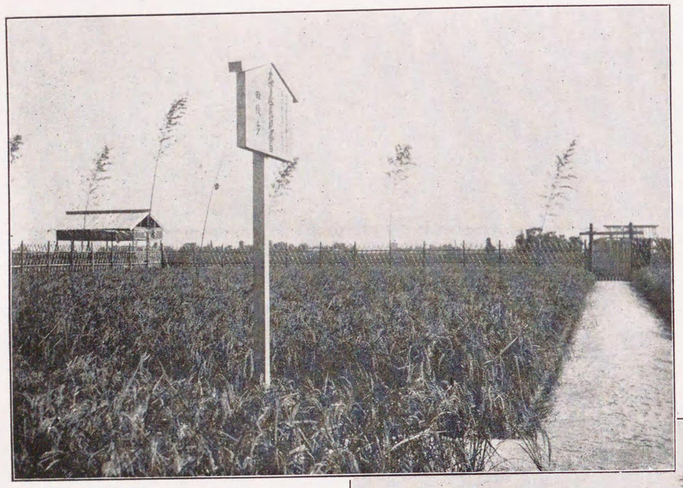
螟卵採取



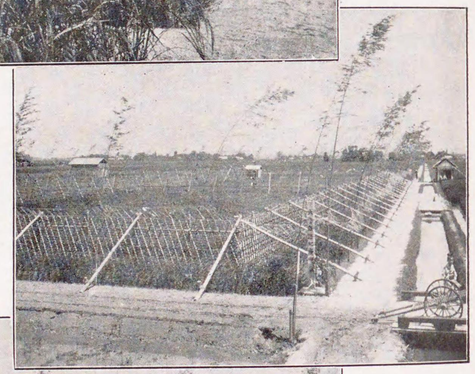


被害茎切取

取　草　田

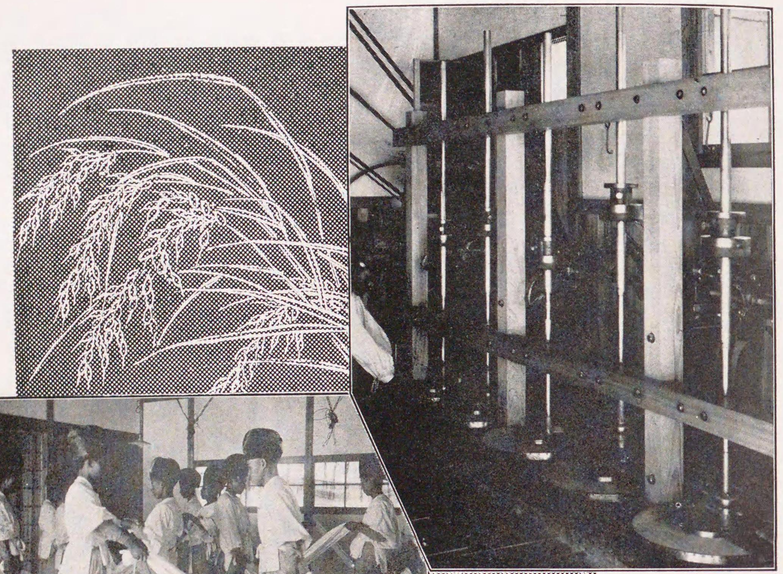


登熟

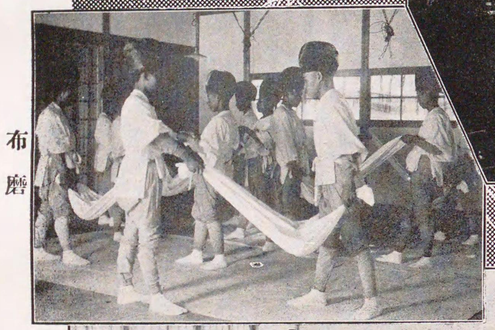


防風設備

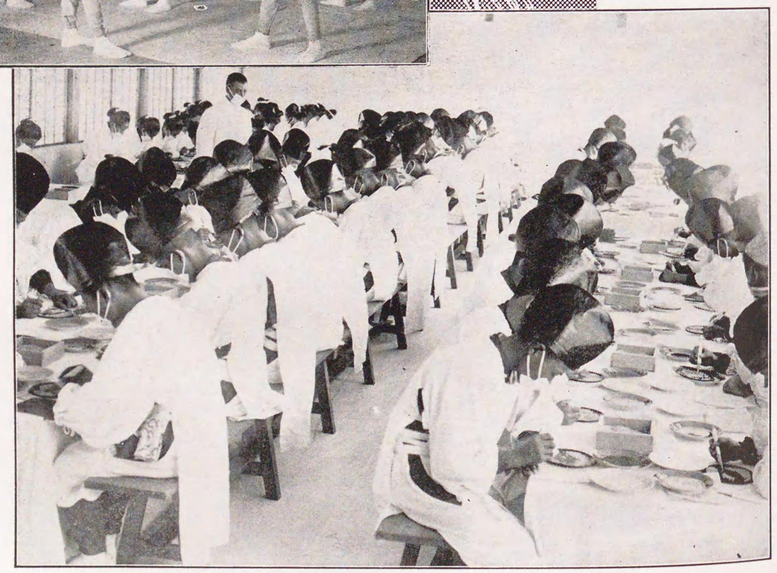
収穫



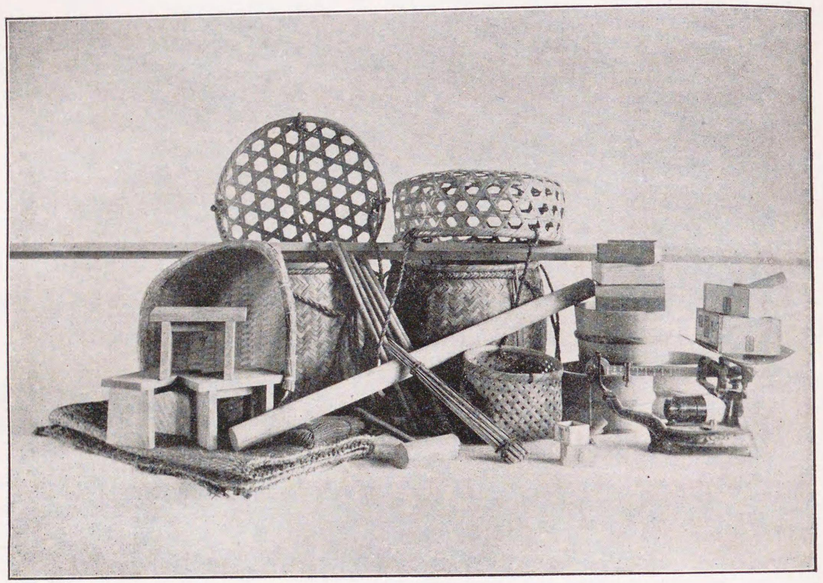
精搗



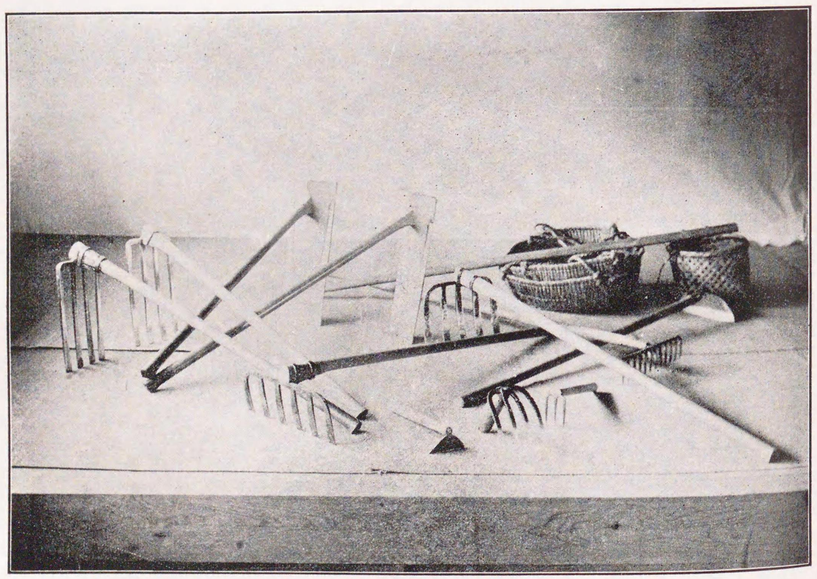
布磨



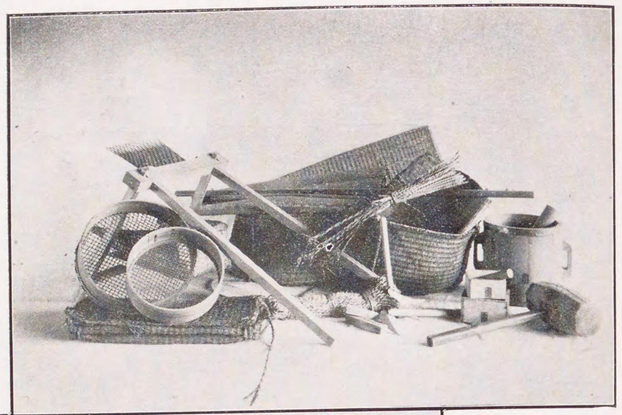
別撰



具農用代苗

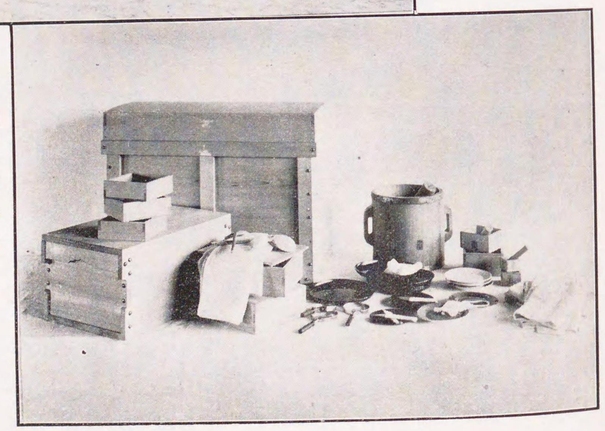


具農用田本



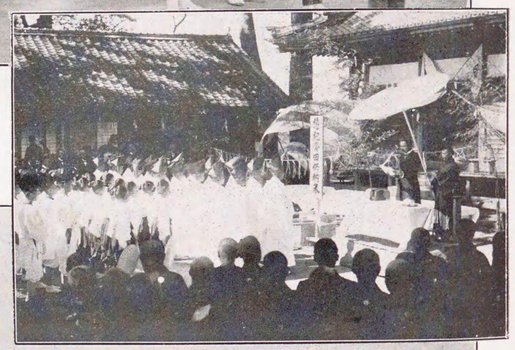
收穫用器具

收穫用器具納入

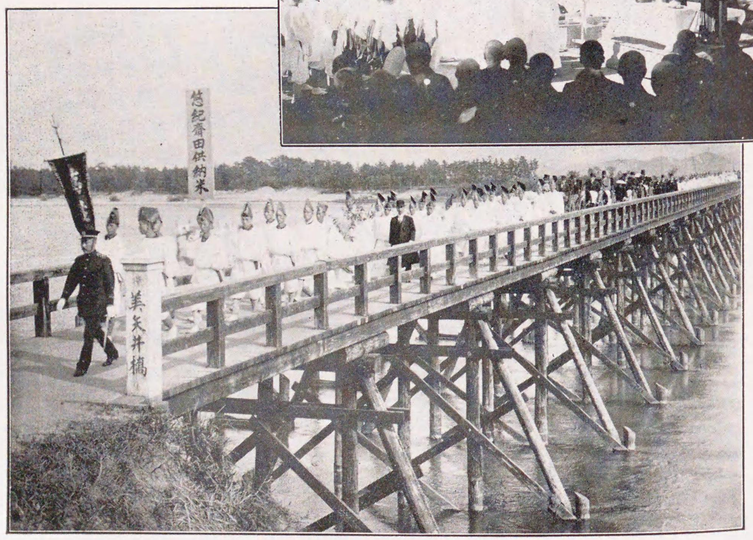


撰米用器具

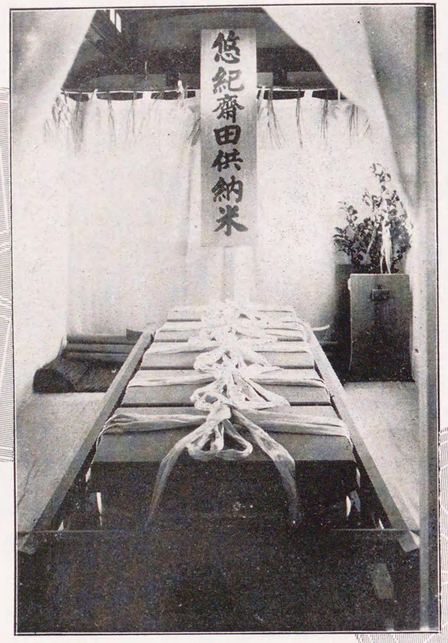
發出米納供



知事挨拶

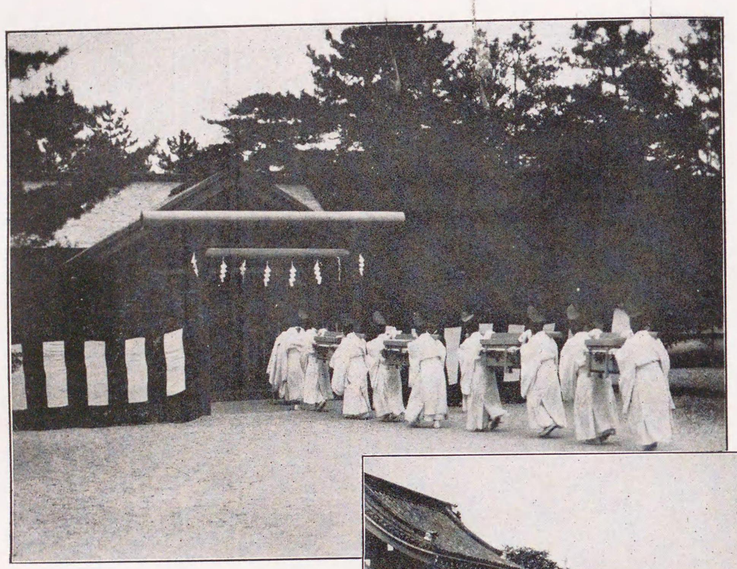


美矢井橋行列



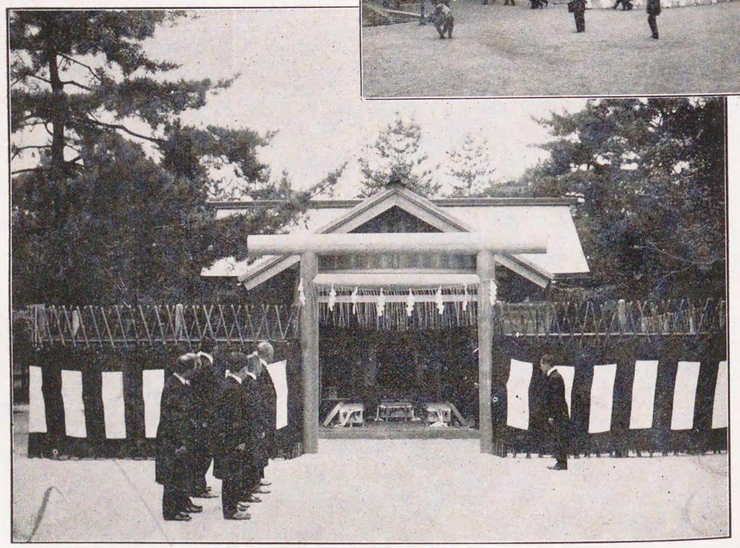
車中ノ供納米

輸送車

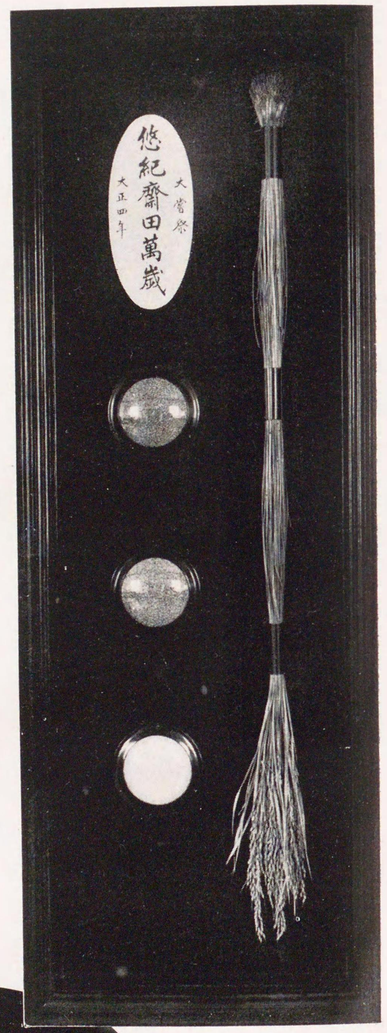


齋庫搬入

清所門著



供納式



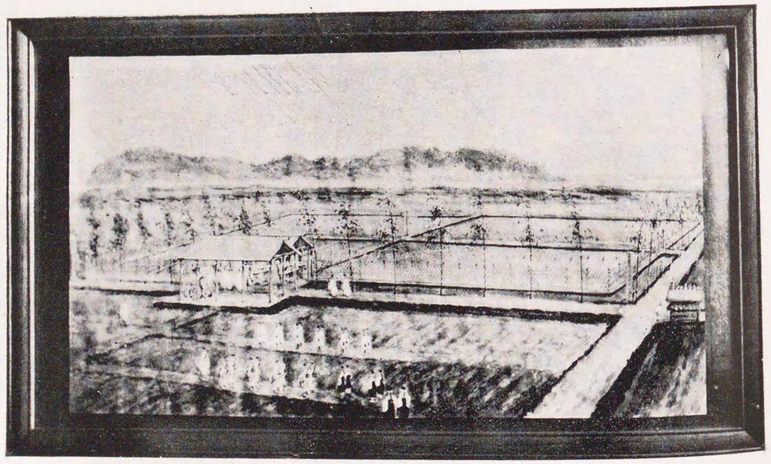
本標米納供及稻田齋

型模田齋

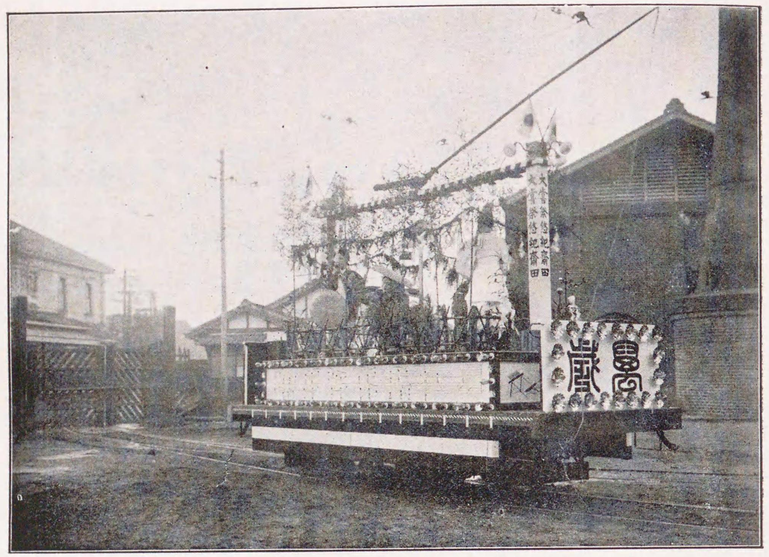
天覽圖畫

松村櫻雨筆

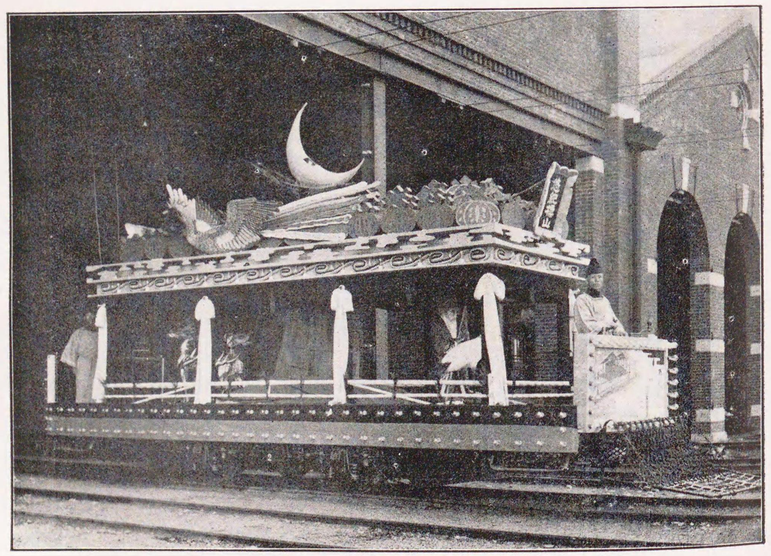
藤島華僊筆



野崎華年筆

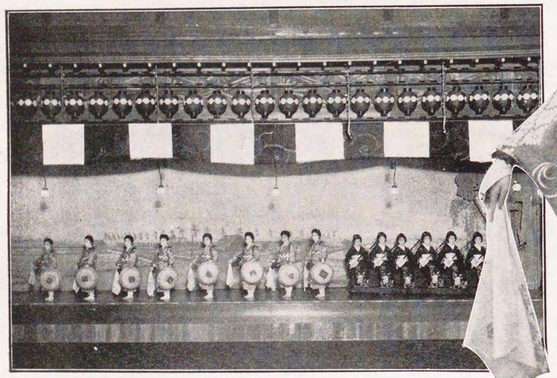


名古屋電氣鐵道株式會社奉祝花電車　（悠紀齋田）

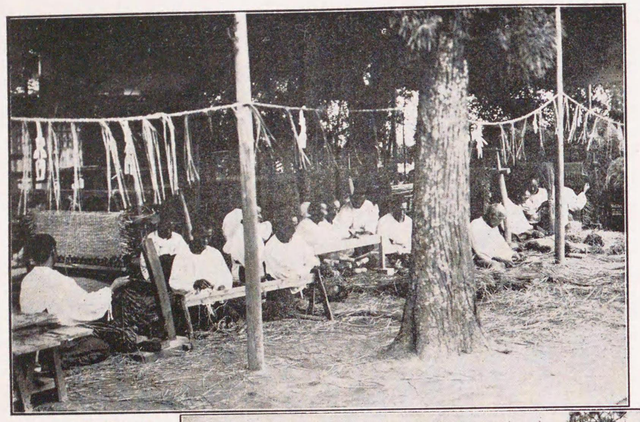


京都市營電氣鐵道奉祝花電車　（山標方地紀悠）

名古屋ニ於ケル奉祝練（早乙女）

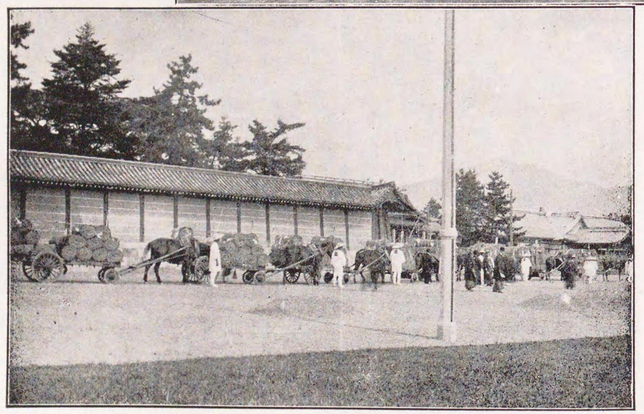


京都都をとり（悠紀齋田）



莚用御

藁用御



納供上同

第二編　悠紀齋田ノ經營

第一章　大禮期日ノ確定

第一節　大禮使ノ設置ト大禮期日奉告祭

大正三年九月大禮準備委員會規則ノ制定アリ、大禮ハ大正四年秋冬ノ間ニ於テ行ハセラルルコトニ御内定アラセラレ、帝國議會ハ滿場一致大禮費豫算ヲ可決シタルコト既ニ前編末章ニ於テ記述セルトコロノ如シ。

大正四年四月十二日諒闇ノ明クルト共ニ大禮使官制ハ左ノ如ク公布セラレ、茲ニ再ヒ大禮使ハ宮中ニ設置セラルルニ至レリ。

勅令第五十一號

大禮使官制

第一條　大禮使ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ卽位ノ禮及大嘗祭ニ關スル事務ヲ掌ル。

第二條　大禮使ニ總裁一人ヲ置ク

總裁ハ皇族ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

第三條　大禮使ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　一人　次官　二人　參與官　若干人

事務官　若干人　典儀官　若干人　書記　若干人

前項ノ職員ノ外必要アルトキハ御用掛ヲ置クコトヲ得

第四條　長官ハ之ヲ勅命ス

次官參與官事務官及典儀官ハ內閣總理大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス御用掛ヲ命スルトキ亦同シ

書記ハ長官之ヲ命ス

第五條　長官ハ所部ノ職員ヲ統督シ使務ヲ總理ス

長官事故アルトキハ內閣總理大臣ノ指名シタル次官其事務ヲ代理ス

第六條　次官ハ長官ヲ輔ケ使務ヲ掌理ス

第七條　參與官ハ長官ノ命ヲ承ケ使務ヲ輔ク

第八條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

典儀官ハ上官ノ命ヲ承ケ典式ヲ掌ル

第九條　書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ庶務及典式ニ關スル事務ニ從事ス

第十條　官職ヲ有スルニヨリ大禮使職員ヲ命セラレタル者ノ待遇ハ其ノ官職ニ付受クル待遇ニ依リ其他ハ長官ハ親任官次官及參與官ハ勅任官事務官及典儀官ハ奏任官書記ハ判任官ノ待遇トシ御用掛ノ待遇ハ各別ニ之ヲ定ム

第十一條　官職ヲ有スルニ因リ大禮使職員ヲ命セラレタル者其官職ヲ退キタルトキハ退職ス

第十二條　使務ノ處理ニ關スル規定ハ長官之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

而シテ該官制公布ト同時ニ總裁長官以下ノ任命アリ。

大勳位功二級　貞愛親王

正二位勳三等公爵　鷹司熙通

從二位勳一等文學博士男爵　細川潤次郎

從二位勳一等子爵　伊東巳代治

內閣書記官長　江木翼

大禮使總裁被仰付

大禮使長官被仰付

從二位勳一等子爵　伊東巳代治

大禮使御用掛被仰付

大禮使次官被仰付

大禮使參與官被仰付

大禮使事務官被仰付

法制局長官法學博士　高橋作衛　外二十八名

內閣書記官　牛塚虎太郎　外七十六名

宮內次官　河村金五郎

此日午前十時關係者一同ハ宮中西溜ノ間ニ參集シ、總裁宮殿下ハ就任ノ御挨拶ヲ述ヘサセラレ次ニ左ノ令旨ヲ賜フ。

本日ヲ以テ大禮使ヲ置カレ茲ニ總裁ノ重任ヲ膺フス願クハ長官以下各職員ノ勵精ニ依リ大典ノ滯リナク遂行セラレンコトヲ望ム。

尋テ大隈內閣總理大臣ハ左ノ訓示演說ヲ爲セリ。

大禮使ノ官制ハ本日ヲ以テ公布セラレ眞愛親王殿下ヲ總裁ニ奉戴シ長官以下ノ職員夫々任命セラレタリ此機會ヲ以テ本大臣ハ茲ニ一言スルコトヲ得ルハ最モ光榮トスル所也

謹ミテ惟ルニ卽位ノ禮及大嘗祭ハ御宇ノ始ニ當リ行ハセラルル皇室並ニ國家最高ノ大典タリ國民一般此機ヲ以テ更ニ思ヲ建國ノ由來國體ノ本義ニ致シ忠愛ノ眞情ヲ傾倒シテ聖壽ノ無窮ヲ奉祝シ國運ノ隆盛ヲ慶賀スルノ秋ナルハ勿論トス職ヲ大禮使ニ奉スルモノ克ク心ヲ此ニ存シ深ク朝野誠意ノ存スル所ヲ顧ミ細心努力以テ其職責ヲ盡シ大典ノ遂行セラルルニ於テ些ノ遺漏ナカランコトヲ要ス大禮ニ關スル典式ハ登極令其他規定ノ存スルモノハ其規定ニ依リ規定ナキモノハ古例ヲ斟酌シテ施行セラルヘキハ言ヲ俟タサル所ナリト雖モ能ク儀式ノ根底ニ存スル精神本義ヲ表明スルニ務メ質素ヲ旨トセラレタル先帝ノ彝訓ヲ紹述シ給フノ聖旨ヲ奉戴シ繁縟虛禮ヲ避ケ而モ能ク我國運進暢ノ現狀ニ適應スルノ施設ヲ爲スハ最モ切望ニ堪ヘサル所ナリ

終ニ臨ミ本大臣ハ此大典ニ屬スル各般ノ儀禮順次遂行セラレ十分ノ光輝ト無限ノ瑞祥トヲ發輝シテ能ク中外ノ瞻望ヲ空シクセサランコトヲ希望シテ止マサル也

鷹司大禮使長官之ニ對シテ左ノ挨拶ヲ述ヘタリ。

大禮使長官ノ榮任ヲ拜シ負荷ノ甚タ重キヲ感ス自今勵精努力總裁ノ宮殿下ノ令旨ヲ奉シ以テ大典ヲ滯リナク遂行セラレンコトヲ期ス職員一同能ク此趣旨ヲ體シ使務ノ處理ニ關シテハ尙ホ內閣總理大臣閣下ノ訓示ニ從ヒ協心戮力各々其ノ事ニ勉勵スヘシ

茲ニ謹ミテ總裁宮殿下ノ令旨ニ對ヘ奉リ併セテ主務大臣閣下ノ訓示ニ副フ所アランコトヲ期ス。

大禮使處務規程ニ據レハ大禮使ニ評議會、長官官房、典儀、調度、造營、車馬、鐵道、主計ノ六部アリ。

大禮使事務官牛塚虎太郎、男爵小原駩吉、近藤久敬、天岡直嘉ハ長官官房主任ヲ命セラレ、大禮使參與官伯爵戶田氏共ハ典儀部長ニ、公爵伊藤博邦ハ同次長ニ、馬場三郎ハ調度部長ニ、片山東熊ハ造營部長ニ、子爵藤波言忠ハ車馬部長ニ、古川坂次郎ハ鐵道部長ニ、濱口雄幸ハ主計部長ニ夫々任命アリテ、各事務官ハ何レモ各部ニ分屬シテ各般ノ設備ノ進捗ヲ期スルコトトナリ、外ニ長官ノ諮詢機關タル評議會アリテ重要ノ事項ヲ審議セリ。

大禮期日奉告祭ハ大禮中ノ最モ重大ナル御儀ノ一ナリ。茲ニ大禮使ノ組織セラルルヤ先ツ期日ニ關スル協議ヲ爲シ奏上ノ上、十七日ヲ以テ奉告祭期日ヲ左ノ通發表セラレタリ。

四月十九日午前九時二十分　賢所皇靈殿神殿へ期日御報告ノ儀

同日午後二時　神宮神武天皇山陵竝ニ前帝四代ノ山陵へ勅使御發遣ノ儀

同月二十一日午前十時　神宮奉幣ノ儀

同日午前九時　明治天皇山陵奉幣ノ儀

同日午後一時　孝明天皇山陵奉幣ノ儀

同日午後二時　仁孝光格兩天皇山陵奉幣ノ儀

斯クテ四月十九日早朝、岩倉掌典長以下掌典樂師ハ賢所皇靈殿神殿ヲ裝飾シ、皇族ハ綾綺殿ニ大勳位大臣樞密顧問官以下ハ朝集所ニ參集ス。九時二十分　天皇陛下綾綺殿ニ渡御アラセラレ侍從ヨリ奉進セル御束帶黃櫨染御袍ニ御改服御笏ヲ把ラセラレ、御手水ノ御儀アリ。

又供奉ノ皇族竝ニ各官モ亦衣冠又ハ袿袴ニ改服シ、此際朝集所ニ參集ノ諸員モ御殿內ニ參進シ著床スルヤ、樂師神樂歌ヲ奉奏中、賢所皇靈殿神殿ノ御扉ハ開カレ、宮地掌典以下恭シク神饌幣物ヲ奉獻スレハ岩倉掌典長神前ニ進ンテ祝詞ヲ奏シ奉リ、其終ルト同時ニ　天皇陛下ハ綾綺殿ヲ出テサセラレ、賢所內陣ニ着御アラセラレ、劍璽捧持ノ侍從竝ニ供奉ノ女官ハ外陣ニ候ス。斯クテ　天皇陛下ニハ參列諸員ノ起立最敬禮中ニ神前ニ進マセラレ、親シク御拜禮ノ後卽位ノ禮竝大嘗祭御擧行ノ期日御決定ノ御告文ヲ奏セサセ給ヒ次ニ吉見掌侍　皇后陛下ノ代拜ヲ承ハリ、續イテ各皇族ノ御拜禮アリテ後、　天皇陛下ハ各供奉員扈從ノ上入御アラセラレ、參列諸員ノ禮拜終ルト共ニ奏樂ノ裡ニ幣物神饌ヲ撤シ、三殿ノ御扉茲ニ閉ササレテ大禮御報告ノ盛儀ハ結了ヲ告ケシト漏レ承ル。

續イテ卽位ノ禮及大嘗祭期日御奉告ノ爲メ伊勢神宮及神武天皇山陵竝前帝四代ノ山陵ニ勅使御發遣ノ御儀アリ。午後二時宮中鳳凰間ニ於テ

神宮奉幣勅使　掌典次長　公爵　九條道實

神武天皇山陵奉幣勅使　掌典　子爵　河鰭公篤

明治天皇孝明天皇仁孝天皇
光格天皇各山陵奉幣勅使　掌典　園池實康

何レモ衣冠單帶劍笏、鳥皮履ニテ著床スレハ、天皇陛下ハ御引直衣ヲ召サセラレ、御式場ノ玉座ニ著御アラセラレ、神宮並ニ山陵ニ奉進ノ幣物ヲ御覽アラセ給ヒテ御祭文ヲ勅使ニ授ケ奉幣ノ勅語ヲ賜ヒ勅使御發遣ノ御儀ヲ終ラセ給ヒシト承ル。

而シテ同日官報號外ヲ以テ左ノ通發表セラレタリ。

告　示

卽位ノ禮及大嘗祭ノ期日左ノ通定メラル

大正四年四月十九日

卽位ノ禮　大正四年十一月十日

大嘗祭　同　年同　月十四日

內閣總理大臣　伯爵　大隈重信

宮內大臣　男爵　波多野敬直

內務大臣　子爵　大浦兼武

外務大臣　男爵　加藤高明

陸軍大臣　岡　市之助

海軍大臣　八代六郎

大藏大臣　若槻禮次郎

第二節　新穀供納命令ノ示達

宮內大臣官房文書課

第三二五號

悠紀齋田ハ大正三年四月十五日附宮內省ノ通達ニヨリ存置ノコトニ決定シタリト雖新穀供納ノ時日並場所ニ就テハ同通牒ニヨリ自然消滅ニ歸シタリシナリ。

茲ニ於テ宮內省ハ更ニ左ノ公文ヲ以テ之ヲ確定シ來レリ。

大嘗祭ノ齋田ヨリ供納スヘキ新穀ハ白米一石ニシテ其供納スヘキ期日及場所ハ左記ノ通ニ有之候大臣ノ命ニ依リ此段及通牒候也

大正四年五月一日

愛知縣知事松井茂殿

宮內次官　河村金五郎

左記

一供納ノ期日　大正四年十月十八日迄

一供納ノ場所　京都皇宮內臨時宮內省出張所

文部大臣　法學博士　一木喜德郎

司法大臣　尾崎行雄

遞信大臣　武富時敏

農商務大臣　河野廣中

茲ニ於テ知事ハ五月三日午後三時碧海郡長代理角岡郡書記、六ツ美村長早川龍介、齋田所有者早川定之助ヲ知事室ニ召集シ丸茂警察部長、古橋警視、種田、岩本各技師、島村農事試驗場技師、馬場、堀江、藤岡ノ各屬ヲ列席セシメ齋田所有者ニ對シ左ノ通達書ヲ交付シテ是レカ示達式ヲ行ヘリ。

愛知縣碧海郡六ツ美村大字中島五十九番戸　平民農　勳七等　早川定之助

慶應二年九月生

大正三年三月六日示達シタル其所有地碧海郡六ツ美村悠紀齋田ヨリ供納スヘキ新穀ハ白米一石ニシテ供納スヘキ期日及場所ハ左ノ通リ心得ヘシ

記

一供納ノ時日ハ大正四年十月十八日迄トス

一供納ノ場所ハ京都皇宮内臨時宮内省出張所トス

各員著席スルヤ一同ハ敬禮シ丸茂警察部長通達書ヲ朗讀シテ知事ニ呈ス、知事ハ之ヲ所有者ニ交付シタル後一場ノ訓示ヲ爲シ、所有者早川定之助ハ至大ノ名譽ヲ荷ヒ感激ニ堪ヘス誠心誠意大命ニ奉答スヘキ旨ヲ述ヘ請書ヲ提出シ、村長モ亦所有者ヲ扶ケテ聖旨ニ酬フヘキ旨挨拶シ、右終リテ一同敬禮シテ式ヲ閉チタリ。

席上知事ノ訓示要領左ノ如シ。

今日ハ齋田所有者早川定之助氏ニ對シマシテ傳達式ヲ擧行スル次第テアリマス御承知ノ通リ四月十二日大禮使官制ヲ公布セラレマスルヤ直ニ正式ノ準備ニ取掛リマシタ御卽位ノ禮ハ十一月ノ十日ニ大嘗祭ハ十一月十四日ニ擧ケサセラレルト云フ事ニ四月ノ十九日ニ公布ニナツタ次第テ玆ニ本縣ハ四月二十二日悠紀齋田ノ被式ヲ擧ケ著々進捗スル事ニナツタノテアリマスソコテ六月五日田植式ヲ擧ケ九月ノ下旬ニハ大禮使ニ於テ拔穗ノ式ヲ擧ケラルル筈テアリマシテ十月上旬ニハ全部ノ調製ヲ終リ十月十五日ヲ以テ供納スル豫定テアリマス、今後ノ進捗ヲ巧クヤツテ違算ナク此ノ大任ヲ全ウシタイモノダト思ヒマス齋田所有者ノ早川君ハ至大ノ榮譽ヲ擔ハレタト共ニ其責任ノ輕カラヌ事ハ之マテ自分ヨリモ屢次御示シタ次第テアリマス申スマテモナク大嘗祭ハ天皇御一代ニ一度ノ國家最高ノ御儀式テアツテ此祭典ニ御用ノ新穀ハ全國民ニ代ツテ納ムヘキモノテ獨リ齋田所有者ノミナラス六ツ美村碧海郡愛知縣全體ノ光榮テアツテ又獨リ縣ノ農事界ニ影響スルハカリテ無ク日本全體ノ農事界ニ於テ此成績ハ至大ノ關係ヲ有スルモノテアリマス此處ニ列席ノ所有者ハ勿論村長郡長竝ニ縣當局者ハ協同一致シテ此光榮アル責任ヲ全フシタヒト思ヒマス玆ニ新穀供納ノ傳達ノ式ニ臨ンテ一言ヲ致シタ次第テアリマス

第三節　齋田ニ關スル準備ノ完成

之ヨリ先、縣ハ諒闇ノ明クルニ先チ、前編第十章末節ニ畧記シタルカ如ク齋田經營ニ關スル萬般ノ準備ニ著手シタルカ、四月十二日、廳舍ノ一部ヲ劃シテ作業場ニ充テ曩ニ八名郡大野町大橋正太郎、同郡七郷村生田治三郎ヨリ納入セシ檜材ヲ以テ齋田四隅標識ヲ、市內西區木挽町鈴木總兵衞ヨリ納入セシ檜材ヲ以テ齋田中央標識ヲ製作セシムルコトトシ、工匠市內中區池田町伊藤音次郎、中區矢場町神田鍬吉ヲシテ其製作ニ從ハシム。右標識ハ四月十六日製作ヲ了リタルヲ以テ能書ヲ以テ聞エタル愛知縣農會副會長堀尾茂助ニ依頼シテ之ニ大嘗祭悠紀齋田ノ文字ヲ謹書セシメ、十七日ヲ以テ發送セリ。

四月十四日並ニ十六日齋田ニ關スル縣委員ノ追加任命アリ、警察部長丸茂藤平ハ委員副長ニ、理事官石口龜一、警視古橋卓四郎ハ委員ニ、警部杉山善作、技手丹下茂十郎ハ委員補助ニ任命セラレ、熱田神宮宮司岡部讓ハ委員ニ囑託セラレタリ。

而シテ悠紀齋田奉賛會ハ既ニ四月十日ヲ以テ組織ノ完成ヲ告ケ、縣委員ト共ニ齋田施設ノ準備ニ從ヒ、十二日諒闇ノ明クルト共ニ、齋田ノ區畫ヲ正シ、竹柵ヲ設ケ忌竹ヲ樹テ、注連ヲ張リ著々トシテ其設備ノ工ヲ急キ、他方四月二十二日ヲ以テ擧行スヘキ祓式ノ準備ニ著手シ、茲ニ百般ノ準備ハ完成ヲ告クルニ至レリ。

第二章　齋田委員ト悠紀齋田奉賛會

第一節　齋田ニ關スル縣委員

悠紀齋田ノ勅定ハ縣民カ擧テ無上ノ光榮トセシトコロナリ。

愛知縣會ハ齋田獻穀ノ事ニ關スル經費ヲ審議スルニ方リ、滿場一致シテ之ヲ可決シ、碧海郡會竝六ツ美村會モ亦多大ノ補助ヲ悠紀齋田奉賛會ニ與ヘテ以テ獻穀ノ事ノ遺算ナカランヲ冀フノ眞意ヲ披瀝セリ。其他所在町村民皆感激歡喜ノ誠意ヲ表示シ、之ニ關スル美談少カラス、本篇第二十五章ニ載スル所ハ卽チ其主ナルモノニ屬ス。

知事ハ此ノ名譽ヲ全フシ且ツ縣民ノ至情ヲ空フセサランカ爲メニ此ノ事ニ著手スルヤ直

ニ委員ヲ任命セリ。

而シテ之カ委員ノ氏名等ハ既ニ前篇第十章第三節ニ記述セルトコロナリト雖更ニ今茲ニ諒闇明後齋田事務終了ニ至ル期間主トシテ指導監督ノ任ニ當リタル者ヲ揭クレハ左ノ如シ。

齋田ニ關スル委員長　內務部長　湯地幸平

同　委員副長　警察部長　丸茂藤平

同　委員　理事官（産業課長）　原口晃

同　理事官（學務課長、社寺兵事課長、官房主事）　澤田竹治郎

同　理事官（地方課長）　石口龜一

同　警視（警務課長）　古橋卓四郎

同　碧海郡長　井深基

同　技師（衞生課長）　種田戊次郎

同　技師（農事試驗場長、農林學校長）　山崎延吉

同　技師（農務係）　岩本虎信

同　農事試驗場技師　小西龜太郎

同　農事試驗場技師　島村麟太郎

同　熱田神宮宮司　岡部讓

同（囑託）　屬（農務係）　馬場信三

同　委員補助

同
同
同

同　六ッ美村第二尋常高等小學校長　稻垣秀二郎
同　六ッ美村第三尋常高等小學校長　村井猪作
式典部委員　六ッ美村會議員　石川種吉
同　元六ッ美村齋田委員　鍋田恒雄
同　鵜野卯三郎
警備部委員　六ッ美村會議員　二村久五郎
同　六ッ美村在鄉軍人分會副會長　志賀要吉
同　六ッ美村青年會幹事　太田登喜次
同　藤枝園次
同　山崎康一
接待部委員　六ッ美村會議員　杉浦藤助
同　早川瀧三郎
會計部委員　六ッ美村收入役　近藤安次郎
（職員）　書記　鳥居憲二

悠紀齋田奉賛會々則

第一章　總則

第一條　本會ハ大嘗祭悠紀齋田獻穀ヲ助成スルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ悠紀齋田奉賛會ト稱シ碧海郡六ッ美村内ノ有志者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　本會ハ知事ヲ總裁ニ推戴ス

第四條　本會ノ事務所ハ碧海郡役所内ニ之ヲ置キ六ッ美村ニ出張所ヲ設ク

第五條　本會ノ經費ハ寄附金及補助金ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二章　役員及職員

第六條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　總裁ヨリ指名ス
顧問若干名　總裁ヨリ指名ス
部長五名　總裁ヨリ指名ス
委員若干名　會長ヨリ指名ス

會長ハ會務ヲ統理ス

顧問ハ會長ノ諮問ニ對シ其意見ヲ應フルモノトス

部長ハ會長ノ指揮ヲ承ケテ其部務ヲ處理ス

委員ハ各部ニ分屬シ部長ノ指揮ヲ承ケテ其部務ヲ處理ス

前各項ノ役員ハ會員中ニ適任者ナキトキハ會員外ノ者ニ之ヲ囑托スルコトヲ得

第七條　本會ノ役員ハ名譽職トス

第八條　會長ハ特殊ノ業務ニ從事スル職員ヲ囑托スルコトヲ得

職員ニハ手當ヲ給スルコトアルヘシ

第三章　事務分掌

第九條　本會ニ左ノ各部ヲ置ク

一庶務部
一式典部
一警備部
一接持部
一會計部

第十條　各部ノ分掌左ノ如シ

庶務部

一建築ニ關スル事項
一役員職員ニ關スル事項
一齋田記錄ノ編纂日誌ノ作製及印刷ニ關スル事項
一文書ノ往復及印章保管ニ關スル事項
一小使人夫等ノ監督ニ關スル事項
一他部ノ主掌ニ屬セサル事項

式典部

一式典ニ關スル一切ノ事項

警備部

一警戒ニ關スル事項
一掃除ニ關スル事項
一警衛ニ關スル事項
一防疫ニ關スル事項

接待部

一參觀人ニ關スル事項
一來賓ノ待接ニ關スル事項

會計部

一出納ニ關スル事項
一調度ニ關スル事項
一人夫雇入ニ關スル事項

第四章　處務

第十一條　本會ニ關スル事務ハ總テ會長又ハ其委任ヲ受ケタル者ノ決裁ヲ經テ之ヲ施行ス但シ重要ノ事項ハ會長ニ於テ豫メ總裁ノ指揮ヲ承クルモノトス

第十二條　各部ニ關スル規定ハ總裁ノ指揮ヲ承ケテ會長之ヲ定ム

右ニ關シ井深碧海郡長ハ三月二十七日奉賛會組織ヲ知事ニ報告シ、同時ニ同會規則第三條ニヨリ知事ヲ總裁ニ推戴シタキ旨ノ上申アリ、四月十日縣ハ左ノ通牒ヲ發シタリ。

湯地齋田委員長

井深碧海郡長殿

悠紀齋田奉賛會ノ件依命通牒

本年三月二十七日付ヲ以テ上申相成候悠紀齋田奉賛會組織及同會總裁推戴ノ件知事ニ於テ聞屆ケ相成別紙辭令ノ通會長部長指名相成候條夫々御交付相成度

追而會則ハ別紙ノ通訂正ノ上聞屆ケ相成タル議ニ付御了知相成度

爾來奉賛會ハ六ツ美村大字中島村社八幡社社務所ニ事務所ヲ開設シ、處務ノ細則竝ニ會計規則ヲ設ケ、百般ノ事務ニ付齋田所有者ヲ扶ケテ縣委員ト共ニ施設經營ニ勗ムルトコロアリ。祓式、御田植祭、其他儀式及警備ニ關スル事務ハ縣委員ノ旨ヲ承ケテ會名ヲ以テ擧行シ、其他諸般ノ經費ハ同會ニ於テ負擔シ、外參觀人ニ對シ內所有者ニ對シテ便宜ヲ與ヘタルコト勘カラス、次章以下ニ於テ更ニ詳述スルトコロアルヘシ。

（附記）齋田事務ノ進捗ニ伴ヒ參觀者其他ノ來往頗ル多ク、又人夫使役其他ノ必要上關係者ニハ一定ノ徽章ヲ佩用セシムルヲ便トシ奉賛會長ハ四月二十六日圖ノ如キ徽章ヲ作成センコトヲ總裁ニ願ヒ出テ其承認ヲ得タリ。縣ニ於テモ委員徽章作成ノ必要ヲ感シ六月中之ヲ調製シ胸間ニ佩用セシムルコトトセリ、圖案ハ何レモ縣圖案調製所ノ中野工業技師ニ立案セシメ名古屋市大津町安藤重兵衞ヲシテ製作セシム。

齋田委員徽章

奉賛會役員章

耕作從事者（男）章

耕作從事者（女）章

第三章　齋田地ノ設備

第一節　區劃及標識

齋田地ハ既ニ前篇ニ於テ一言シタルトコロノ如ク大正三年中早川定之助カ齋田點定ノ示達ヲ得タル翌三月七日早クモ村民ノ助力ヲ得テ、齋竹ヲ建テ注連繩ヲ張リ假區劃ノ設定ヲ完成シタリ。

齋田地四段歩ハモト早川定之助其全部ヲ所有セス、南面ノ二區ハ其所有ニ屬シタレトモ北面ノ二區ハ同村早川龍介、杉浦喜助ノ所有ニ係リシモノナリ。始、縣カ齋田ノ選定ニ著手シ其要件ヲ定ムルヤ齋田候補地ハ一團地ナルヲ要スルモ必スシモ同一人ノ所有ニ屬スルヲ要セス、借地ノ可能ナルヲ以テ足ルコトトシタリ。然ルニ一度早川定之助ノ所有地ヲ以テ齋田候補地トシ知事以下之カ實地踏査ヲ行フヤ村民擧ケテ之ヲ同村ノ光榮トシ努メテ其選ニ當ラシメンコトヲ期シ隣地所有者ニ其土地ノ讓渡ヲ慫慂シ、早川龍介、杉浦喜助亦喜ンテ其勸ニ應シ其所有地各一段歩ヲ早川定之助ニ讓渡シ、完全ナル同一人所有ノ一團地トシテ茲ニ齋田地四段歩ハ悠紀齋田ニ點定セラルルノ光榮ニ浴シタリ、齋田第三號第四號田ハ卽チ是ナリ。

而シテ齋田地四區中從來早川定之助ノ所有ニ係レル地域ハ例年同村共同苗代地ニ充ツル

ノ所タルヲ以テ麥作ヲ爲ササルヲ常トシタリ、然レ𪜈此三號四號ノ二區ハ二毛作地ニシテ當時既ニ麥ノ作付アリシヲ以テ齋田決定ノ翌々日村民ハ力ヲ戮セテ麥ノ拔取ニ從ヒ、尋テ地均ヲ行ヒ三月九日四隅ニ假標識ヲ樹テ早川龍介之ニ「大嘗祭悠紀齋田」ノ文字ヲ謹書シタリ、茲ニ於テカ昨日ノ齋田候補地ハ一朝ニシテ森嚴ノ裝ヲ爲スニ至レリ。

齋田地ハ耕地整理完了地區ニ屬スルヲ以テ一筆壹段歩宛ニ區劃セラレ、高低大差ナク區域自ラ整然タルモ內ニ道路ヲ新設シ竹柵門等ヲ設クルカ爲メニハ多少區劃ヲ改ムルノ必要アリ。茲ニ於テ井深郡長ハ三月十九日碧海郡吏員稻田靜夫、新美長次郎ヲ同地ニ出張セシメ精細ナル實測ヲナサシメ、右實測ニ基キ郡ニ於テハ區劃整理ノ方法及順序ヲ定メ島村農事試驗場技師ト協議ヲ遂ケ大要左ノ如ク定メタリ。

齋田四段歩ハ幅員一間ノ十字路ヲ以テ之ヲ四區ニ分チ周圍一間幅ヲ不淨除トシ其內側四尺五寸ヲ矢來敷及通路トナシ南面ニ正門ヲ建テ東方ニ通用門ヲ設クルコト。

而シテ右計畫ニ基キ齋田區劃內ノ道路及竹矢來門ノ建設ハ六ツ美村ニ於テ行ハシムルコトトシ村ハ人夫ヲ督シ工ヲ急キ竹矢來ハ知立町坂野平次郎ニ受負ヲ命シ四月五日ヨリ建築ニ著手シ同月十一日工ヲ竣ヘタリ。續テ南面ニ正門ヲ建設スルノ豫定ナリシモ大正三年四月十一日ニ至リ不幸世ハ諒闇トナリ總テノ計畫一時中止スルノ已ムナキニ至リシナリ。

大正四年四月齋田施設準備ニ著手スルニ際シ是等ノ助成的事業ハ新ニ設立セル悠紀齋田奉贊會ニ於テ行ハシムルコトトシ前年建設シタル竹矢來ハ全部之ヲ取毀チ建替ヲナスコトトナレリ。茲ニ於テ奉贊會ハ之カ建設ニ經驗アル知立町坂野平次郎ニ正門及通用門ノ建設ヲ受負ハシムルコトトセリ。之ヨリ先西加茂郡高橋村青年會ハ會員ノ共同栽培ニ係ル竹林ヨリ伐採シタル竹矢來用ノ青竹ヲ、又東加茂郡松平村高月院ハ正門ノ黑木檜柱ヲ、同村妙昌寺ハ通用門ノ黑木檜柱ヲ、各々提供センコトヲ申出タルヲ以テ奉贊會ニ於テハ喜ンテ之ヲ採用スルコトトシタリ。受負人タル坂野平次郎ハ斯ノ如キ熱誠ノ籠レル供納品ヲ材料トシ名譽アル作業ニ從事スルヲ得タルヲ喜ヒ職工ヲ選擇シ四月六日工事準備ニ著手シ同月十六日竣工ヲ告ケタリ。南面中央ニアルヲ正門トシ東面ニアルヲ通用門トナス。何レモ觀音開ノ門扉ニ海老錠ヲ附ス。尙齋田拔穗ノ儀ヲ行ハセラルルニ際シ西面ニ門ヲ建設スルノ必要ヲ生シ大正四年九月三日之カ建設ニ著手シ同月五日成工シタリ、其構造正門ニ同シ。

中央標識ノ用材ハ檜笹木目ノ一枚板ヨリ切リ取リタルモノニシテ之ヲ以テ幅三尺五寸長二尺三寸ノ制札型ニ造リ、表面中央ニ「大嘗祭悠紀齋田」其右側ニ齋田ノ位置左側ニ反別ヲ又裏面ニ年號及齋田所有者ノ氏名ヲ記載シ檜四方柾三寸角高十尺ノ柱ヲ以テ之ヲ齋田ノ中央、通路交叉點ノ北方ニ南面シテ建設シタリ。

四隅標識ハ無節檜材ニシテ四面ニ「大嘗祭悠紀齋田」ノ七字ヲ大書シ齋田外廓ノ四隅ニ建設シ其傍ニハ縣立農林學校ヨリ根付ノ榊ヲ移植シ皮付杉丸太ヲ圍ミテ以テ根固メトナシタリ。

而シテ齋田ノ外廓ハ二間毎ニ葉村ノ齋竹ヲ樹テ注連繩ヲ張レリ。齋竹ハ碧海郡富士松村青年會ニ於テ三回櫻井村ノ内藤野青年會ニ於テ各一回供納シ月餘ニシテ立替ヲ行ヘリ。其他齋竹ノ杭、注連繩ノ如キ何レモ篤志者ノ供納ニ係リ之等供納者ハ毎次數里ノ道ヲ遠シトセス之ヲ齋田地ニ輸シ、齋竹ノ如キハ暑熱ノ爲メ笹ノ枯凋スルヲ氣遣ヒ之ヲ防カン爲メ伐採ノ後竹ノ根元ヲ燒キ之ヲ夜中ニ運搬スル等其苦心感スヘキモノ尠カラサリキ。

用惡水路ノ設備、灌漑水ハ樋管ヲ伏越シ二箇所ヨリ引キ入レ、排水ノ爲メニハ區畫内ニ八箇所土管ヲ伏越シ更ニ二箇所ヨリ區畫外ニ放流セシムルノ仕組ヲ爲シ、其他非常ニ備フル爲メ土管ヲ伏越シテ迅速ニ用水ヲ引キ入ルルノ準備ヲナセリ。右ニ使用セシ土管ハ何レモ愛三土管煉瓦同業組合カ特ニ模範職工ヲ擇ヒテ謹製ノ上提供シタルモノナリ。

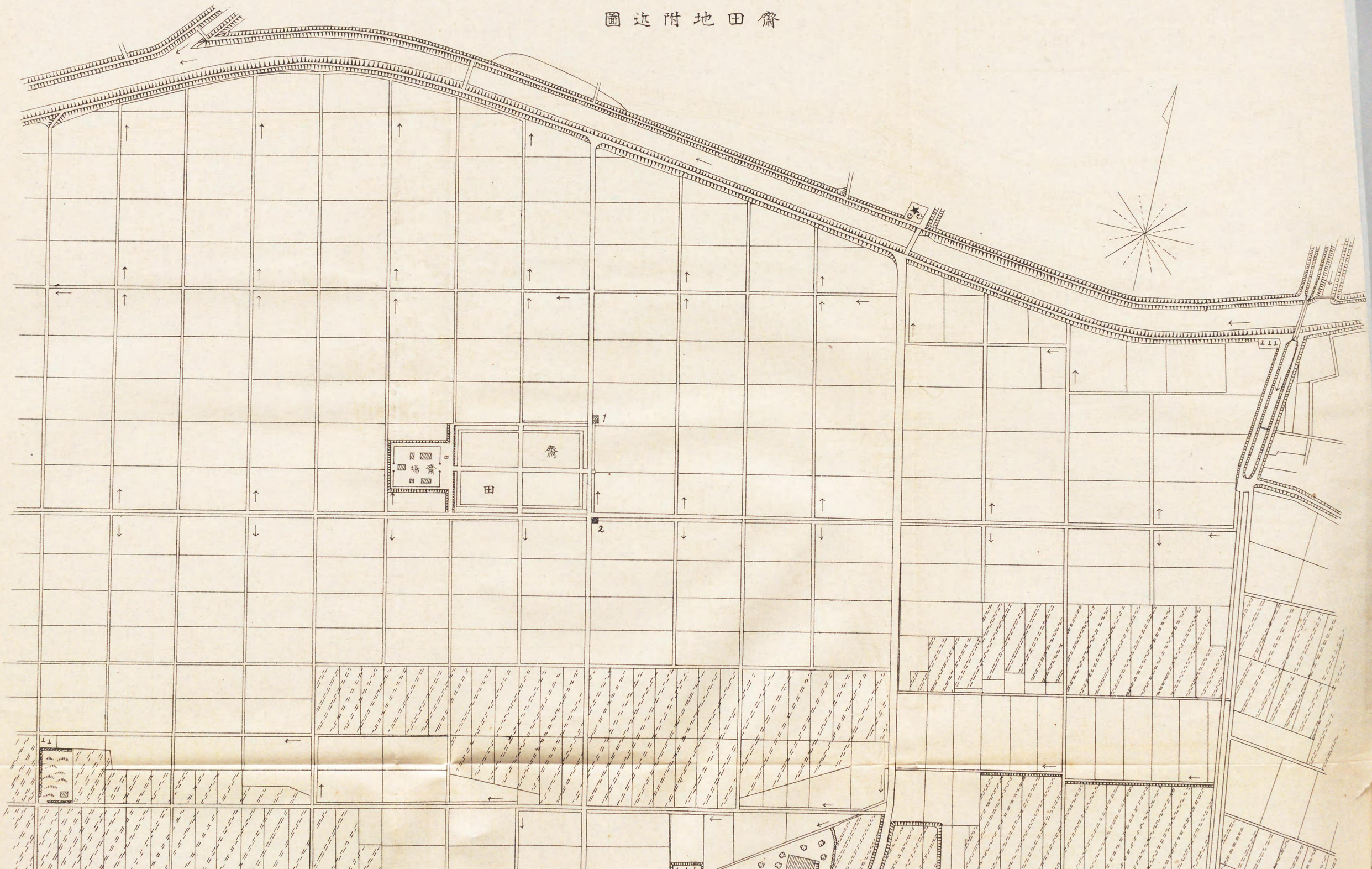
斯ノ如クニシテ完成シタル齋田ノ區畫圖別紙ノ如シ。

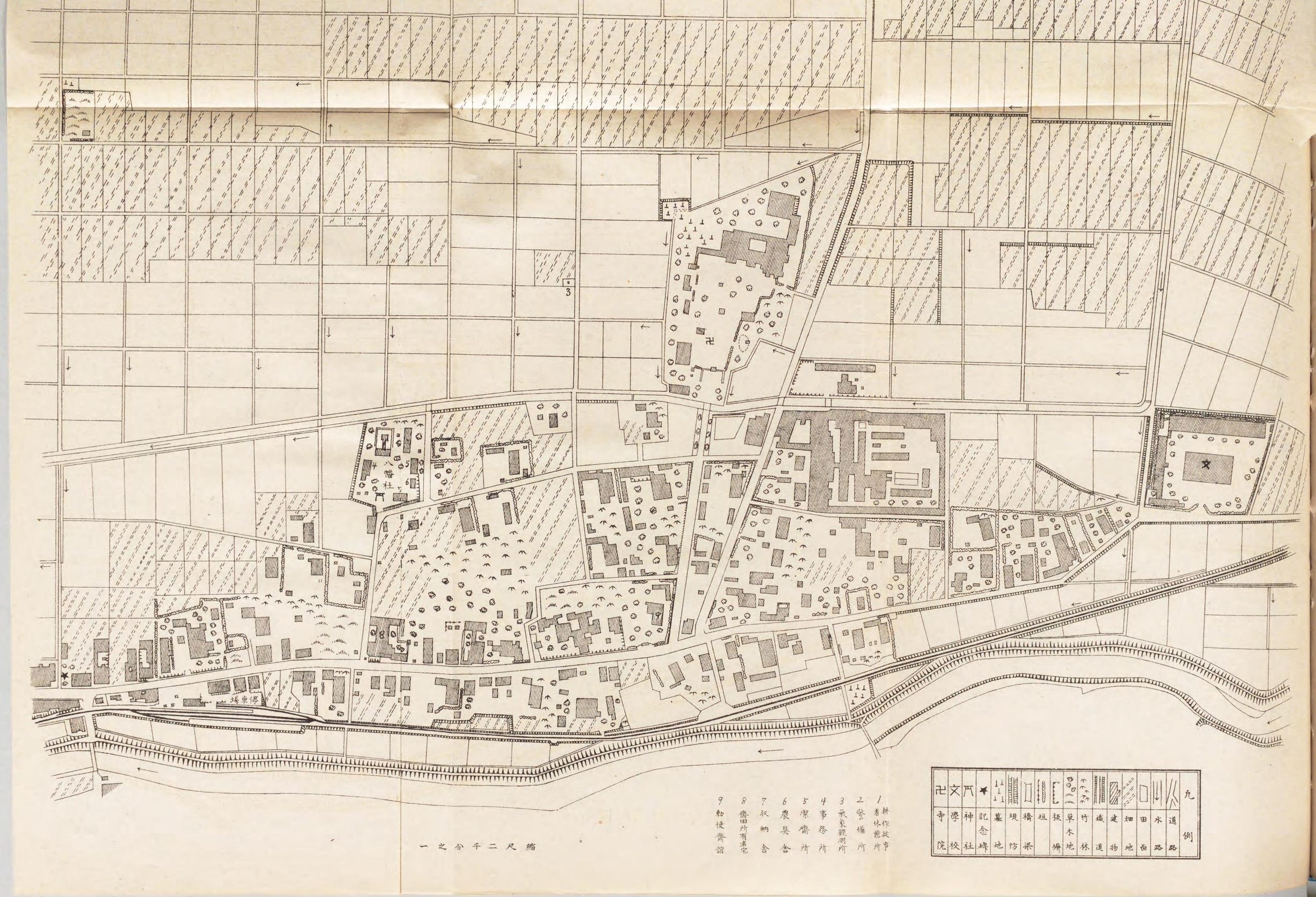
第二節　附屬建築物

齋田經營ニ關スル附屬建築物ニハ收納舍アリ、農具舍アリ、潔齋所アリ、井戸アリ、拜觀人休憩所アリ、精米所アリ。右ハ何レモ齋田地南方三丁餘ノ村社八幡社境内ニ建設シタルモノナリ。

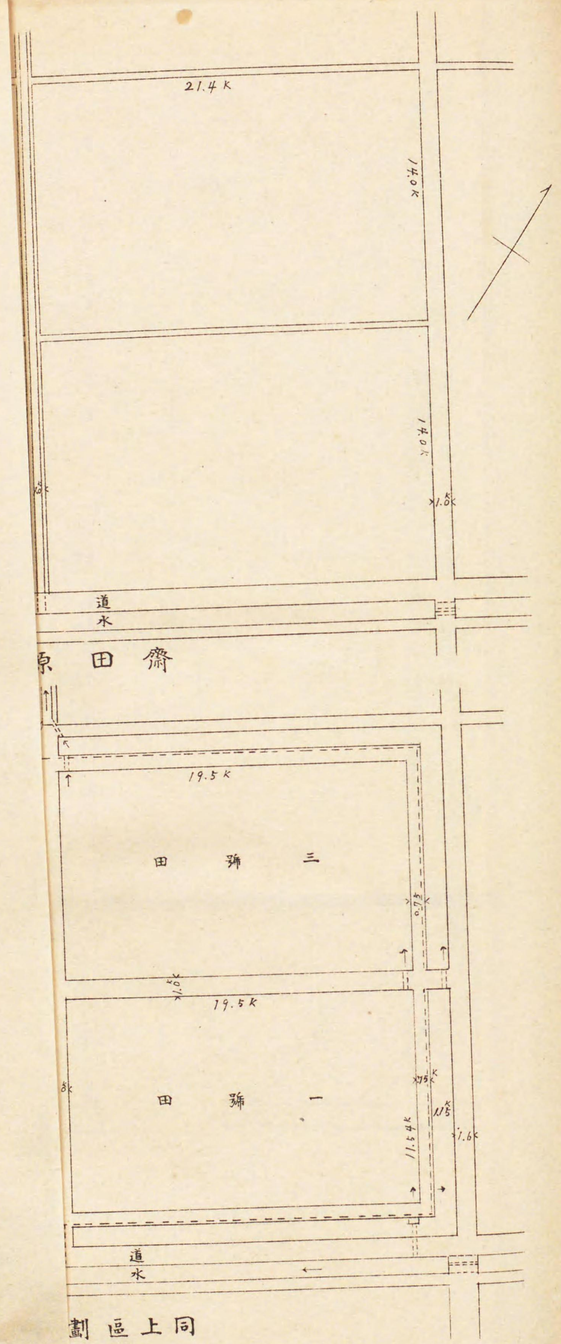
收納舍ハ收穫セシ籾ノ貯藏及調製等一切ノ作業ヲ爲ス處ニシテ間口六間半奥行三間此建坪十九坪五合ニシテ十尺建トス。正面ニ板屋葺四尺二寸ノ庇ヲ附シ屋根ハ小麥稈葺切妻造リトシ棟ノ兩端ニ千木ヲ附シ一間毎ニ堅緒木ヲ附ス。壁ハ眞壁トシ向テ左右ヲ押入トシ板

齋田地附近圖



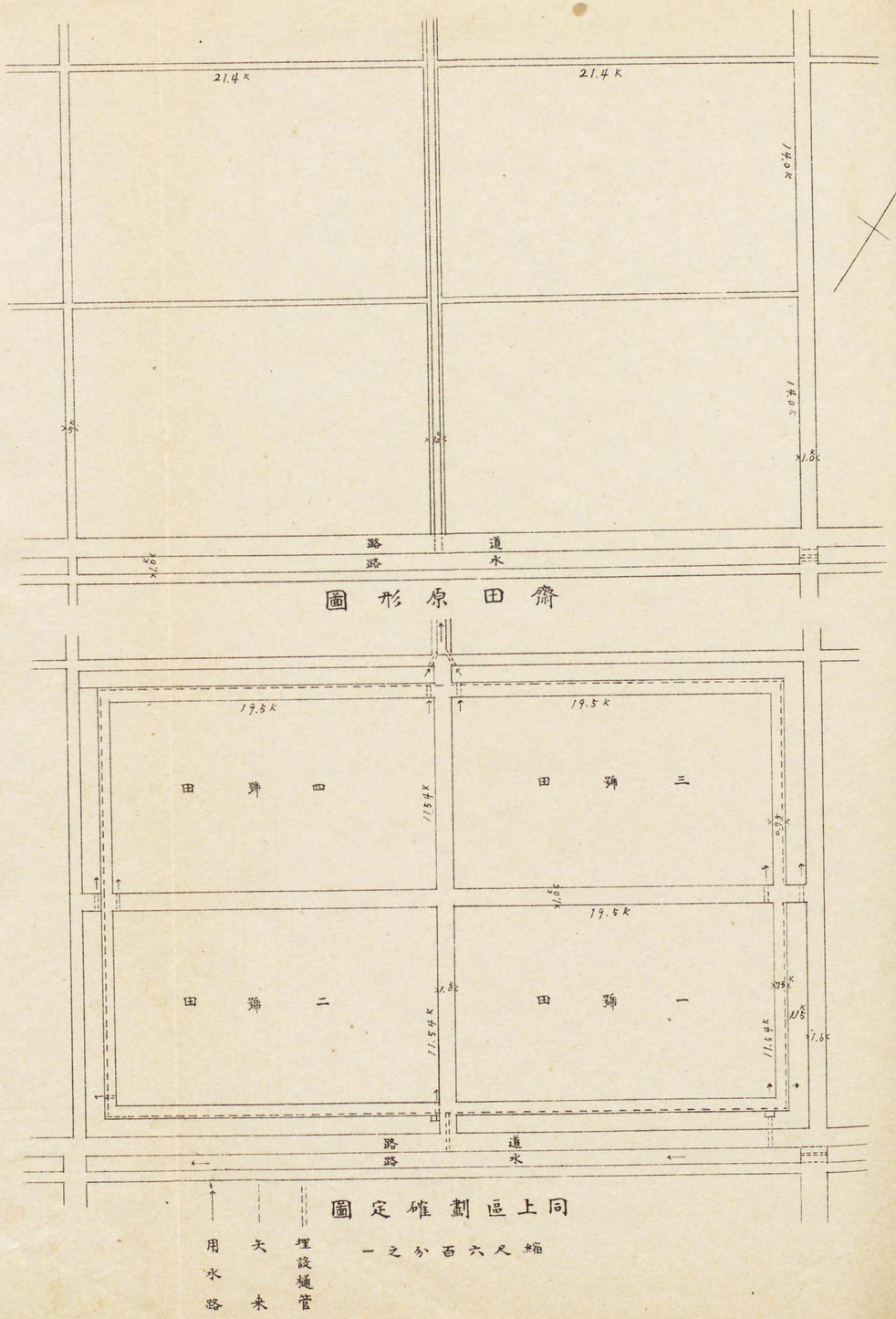


八幡社
停車場
1 耕作從事者休憩所
2 警備所
3 氣象觀測所
4 事務所
5 潔齋所
6 農具舍
7 收納舍
8 齋田所有者宅
9 勅使齋館
縮尺二千分之一
凡例
道路
水路
田面
畑地
建物
鐵道
竹林
草木地
板塀
垣
橋梁
堤防
墓地
記念碑
神社
學校
寺院



同上區劃

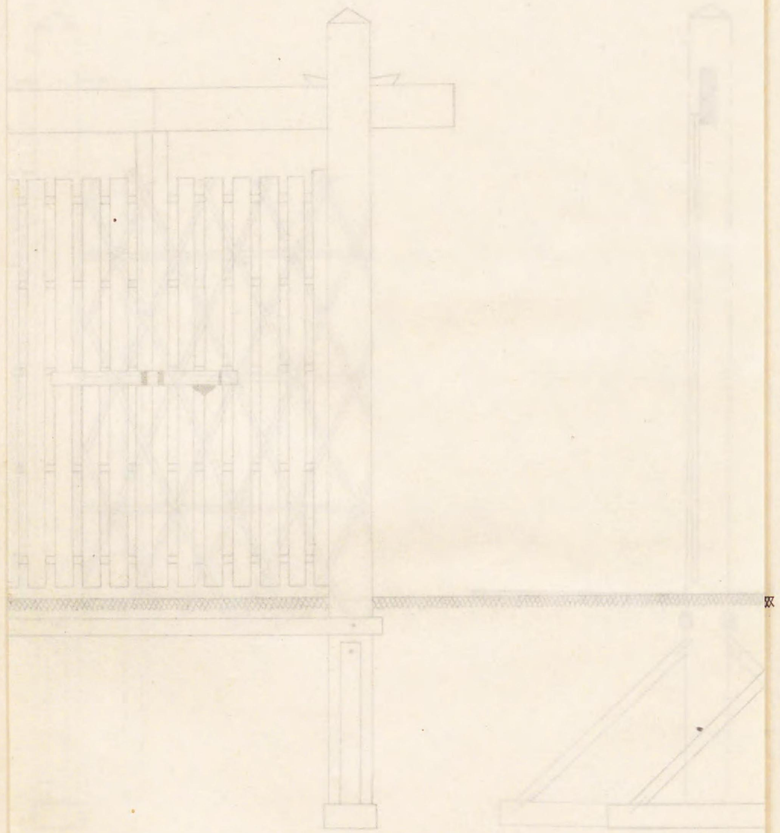
縮尺六分一



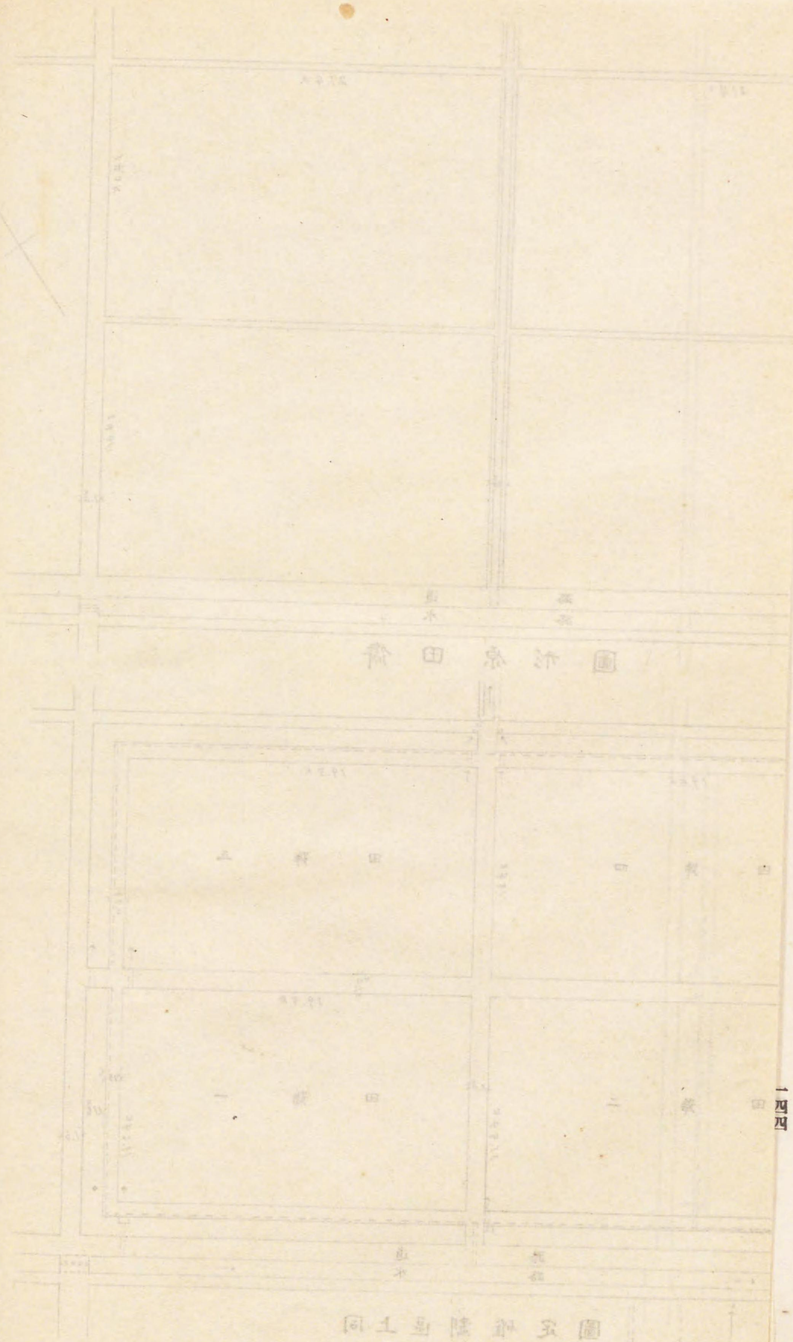
齋田原形圖

同上區劃確定圖

縮尺六百分之一

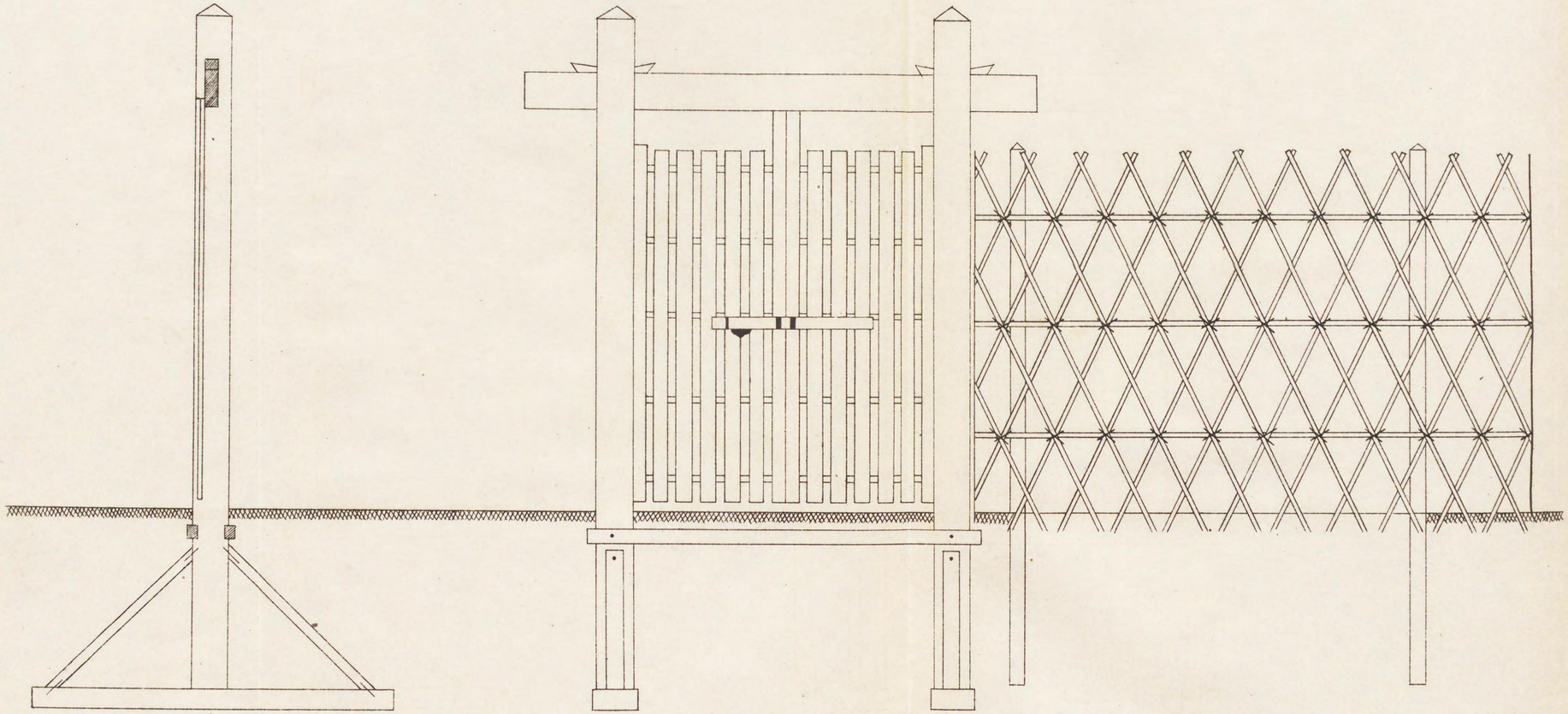


圖計設門及柵竹

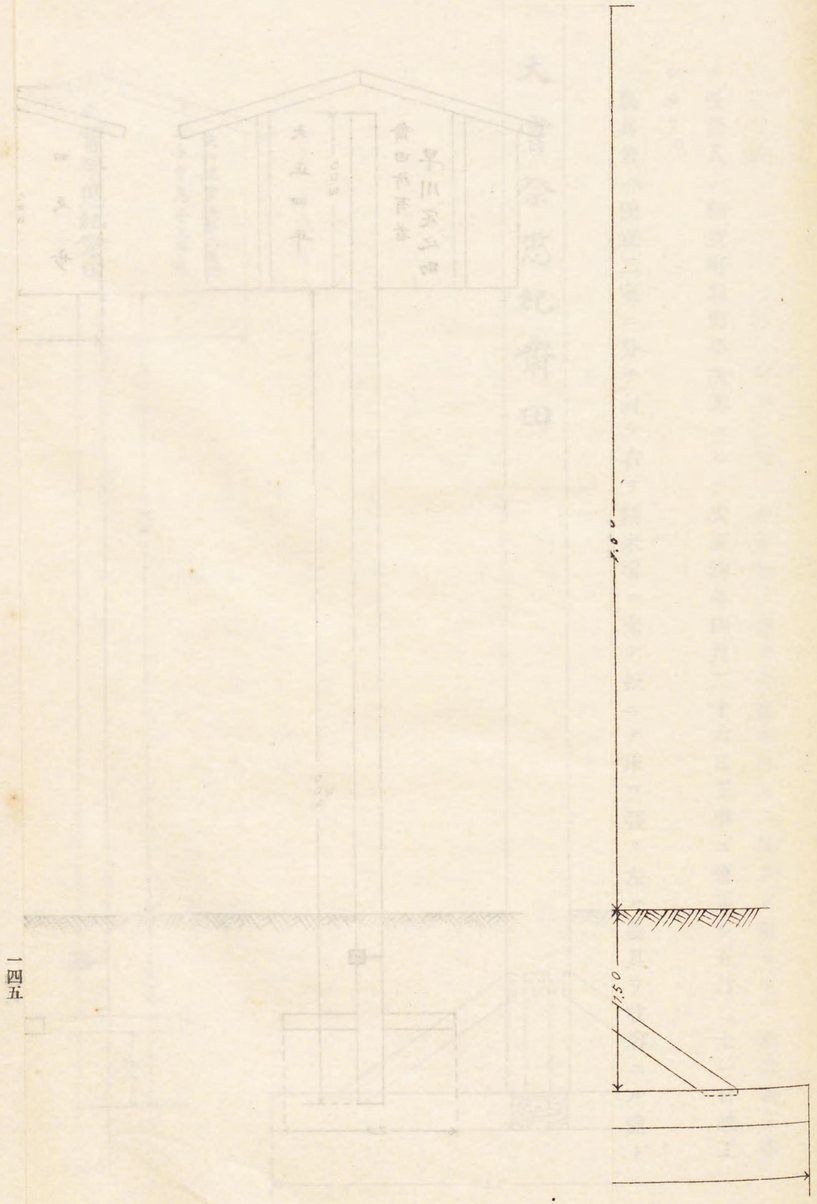


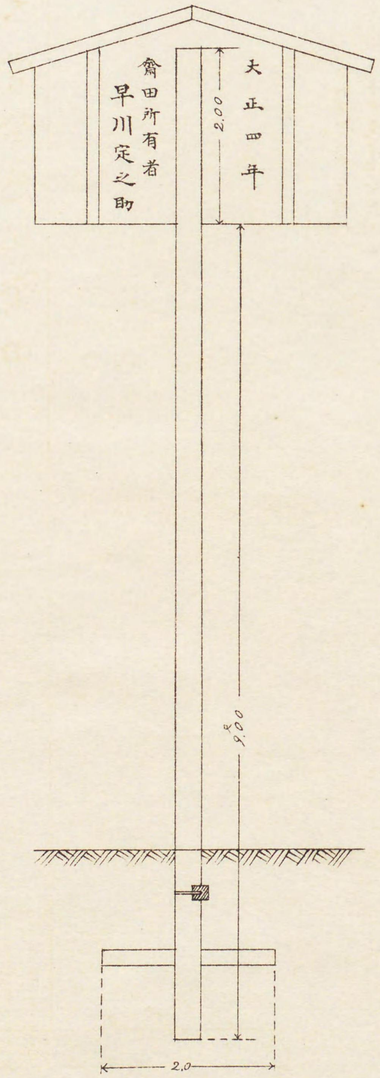
圖計線田會

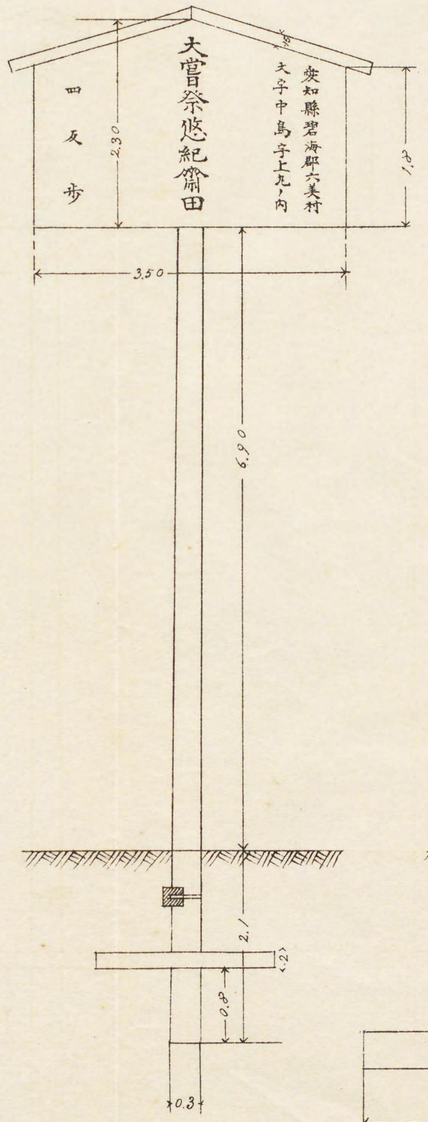
圖定確認面上同

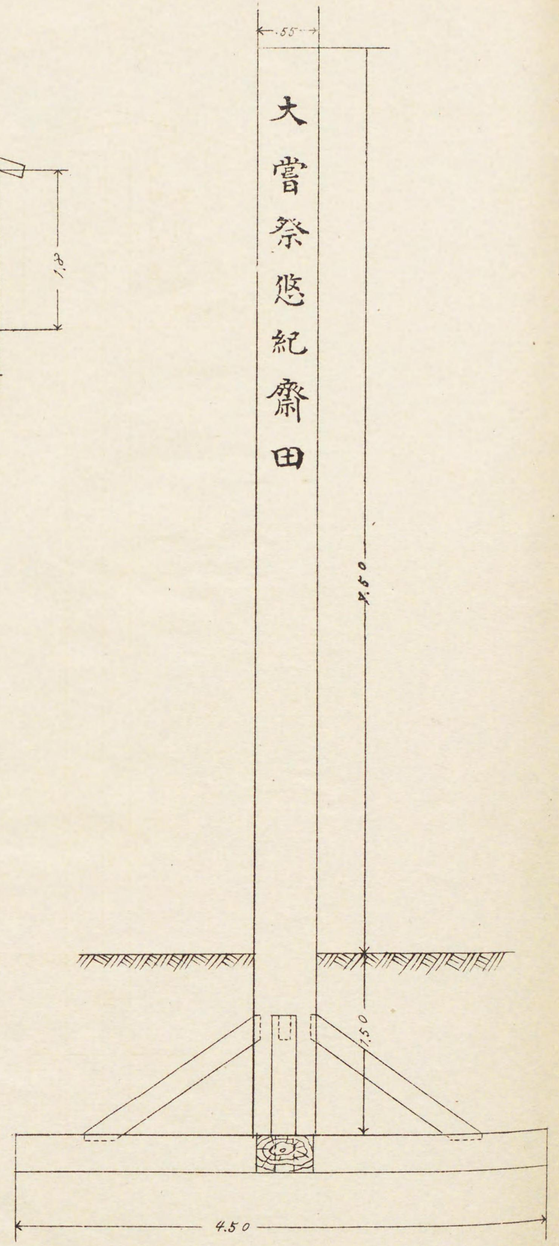


竹柵及門設計圖




大正四年
齋田所有者
早川定之助
9.00
2.0


大嘗祭悠紀齋田
愛知縣碧海郡六美村
大字中島字上九ノ内
四反歩
2.30
3.50
6.90
2.1
0.3
0.3


大嘗祭悠紀齋田
.55
9.50
3.50
4.50

ニテ床張リヲナシ一方ニ高サ二尺ノ硝子窓ヲ設ケ正面入口ニハ雨戸ヲ附セリ。右建物工事ノ受負人ハ知立町坂野平次郎ニシテ大正四年四月二十六日工事ニ著手シ五月二十一日竣工シタリ。

農具舎ハ便宜二室ニ分チ向テ右ヲ精米場ニ充テ板ニテ床ヲ張リ左ハ農具ヲ收容スル處トナシ一間床張トシ他ハ土間ノ漆喰叩キトス。間口ハ四間奥行ハ二間半此建坪十坪ニシテ十尺建屋根ハ小麥稈葺ノ切妻造ニテ棟ノ兩端ニハ千木ヲ又一間毎ニ堅緒木ヲ附ス。壁ハ眞壁トシ正面入口ニハ雨戸ヲ附ス。外ニ精米場ニ接續シテ方一間ノ板庇ヲ出タシ動力機ヲ裝置スル處トス。本建物亦坂野平次郎ノ受負ニシテ大正四年四月二十六日建築ニ著手シ五月二十一日竣工シタリ。

潔齋所ハ既記ノ如ク早川龍介カ自費ヲ投シテ建設シタルトコロノモノニシテ齋田ノ作業ニ從事スルモノハ潔齋ヲ主トセサルヘカラストシ齋田點定當時直ニ建築ニ著手シタルモノナリ。間口ハ六間奥行三間ニシテ屋根ハ小麥稈葺ノ切妻造リトシ棟ノ兩端ニ千木ヲ又一間毎ニ堅緒木ヲ附ス。壁ハ眞壁トシ正面ニ硝子窓ヲ設ケ三方ニ雨戸ヲ附ス。

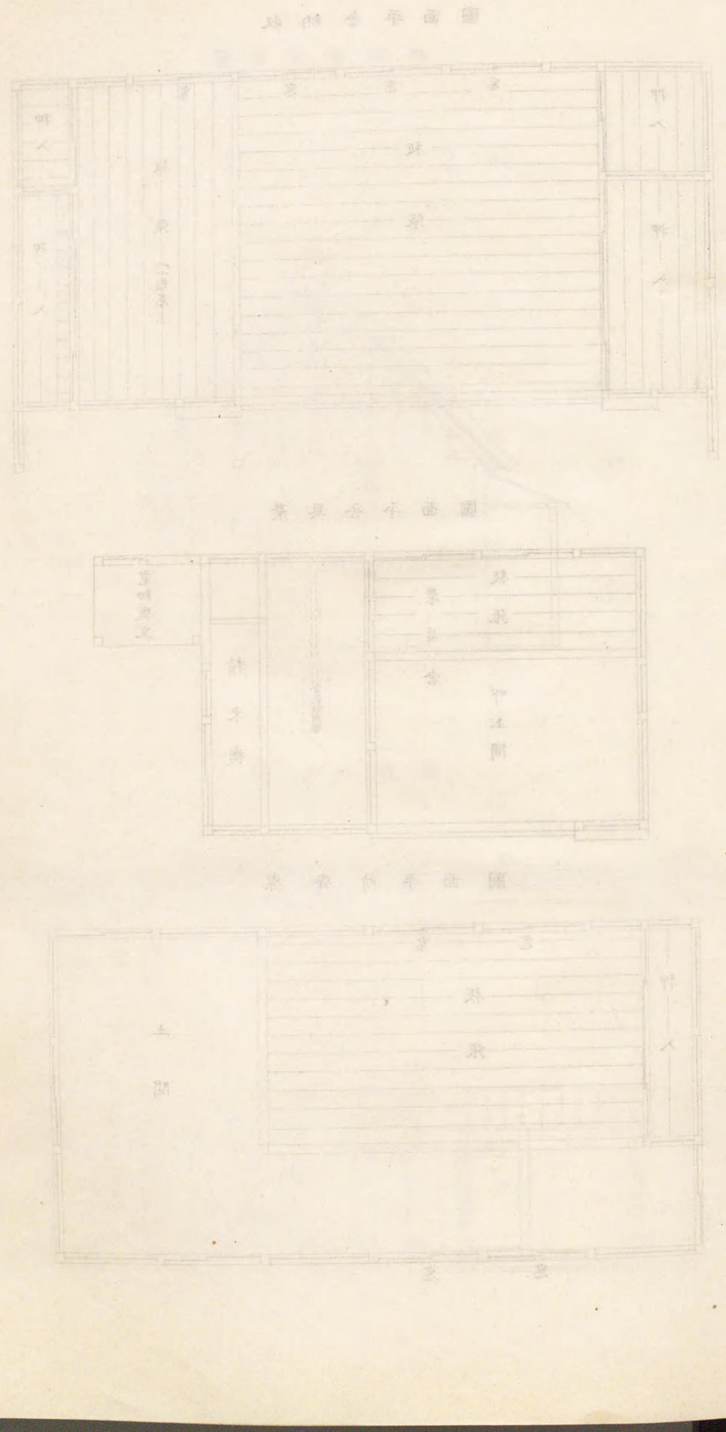
尙齋田耕作從事者ノ潔齋用トシテ潔齋所ノ傍ニ新ニ井戸ヲ掘鑿シ早川龍介之ニ豐井ト名ツケタリ。水清澄ニシテ清淨云ハン方ナシ。之ニ方一丈ノ萱葺ノ屋形ヲ設ケタリ。耕作ニ從フ者ハ潔齋所ニ至リ家ヨリ著用セシ衣服ヲ脫キ捨テ此井戸ニテ水浴ヲ爲シ而ル後作業服ヲ著スルヲ例トセリ。

悠紀齋田事務所ハ八幡社ノ社務所ヲ借入レ之ニ一部ノ修繕ヲ施シタルモノニシテ間口七間奥行三間、便宜三室ニ分チ一室ヲ器具及書類箱ノ置場トシ、一室ヲ應接所ニ充テ、之ニ隣リセル一室ヲ使丁室トナセリ。右建物ハ瓦葺ニシテ東西兩面ニ雨戸ヲ附セリ外ニ八幡社鳥居前ニ間口三間奥行二間ノ萱葺ノ建物ヲ建設シ腰掛ヲ配置シ拜觀人ノ自由ニ休憩シ得ルノ設備ヲ爲シ、後ニハ別ニ八幡社境内ニ田植式ノ幄舍(桁行三間梁間十間)一棟ヲ移シテ其中ニ腰掛ヲ配置シ一般拜觀人ノ休憩所ニ充テタリ。

其他八幡社ヨリ齋田ニ通スル道路ニ沿ヒタル桑園ノ一部ヲ畫シ氣象觀測所ニ充テ百葉箱ヲ始メ諸種ノ觀測器具ヘ備ヘタリ。

齋田警備所ハ之ヲ齋田ノ東南隅ニ置キ間口九尺奥行二間屋根ハ萱葺ニシテ二方ニ無双窓ヲ設ケ入口ハ硝子戸トナス、齋田警備者ハ此所ニアリテ交代ニテ齋田附近ノ警備ニ當レリ。尙齋田ノ東北ニ面シタル所ニ耕作從事者休憩所ヲ設ク。間口三間奥行二間ノ板葺ニシテ床ハ板張トス。

用水見張所ハ大字下青野地内ノ高橋用水ノ堤防上ニ建設セリ、間口九尺奥行二間ニシテ正面ニ硝子戸ヲ附セリ。

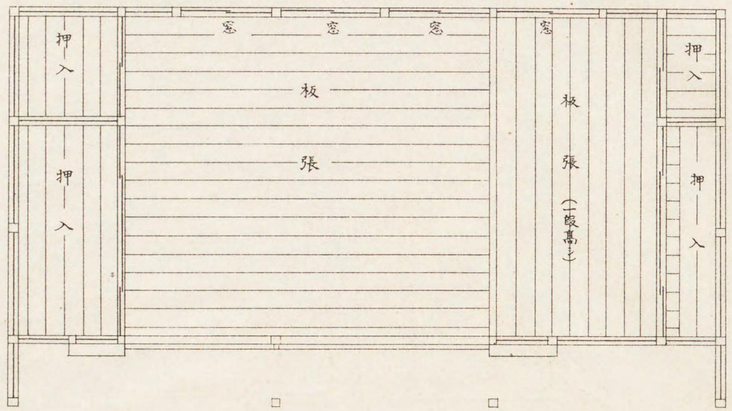


ヲ設ケ入口ハ硝子戸トナス、齋田警備者ハ此所ニアリテ交代ニテ齋田附近ノ警備ニ當レリ。

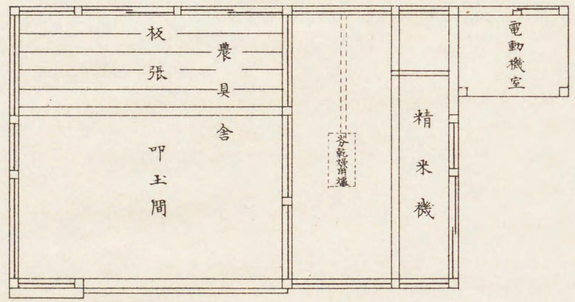
尚齋田ノ東北ニ面シタル所ニ耕作從事者休憩所ヲ設ク。間口三間奥行二間ノ板葺ニシテ床ハ板張トス。

用水見張所ハ大字下青野地内ノ高橋用水ノ堤防上ニ建設セリ、間口九尺奥行二間ニシテ正面ニ硝子戸ヲ附セリ。

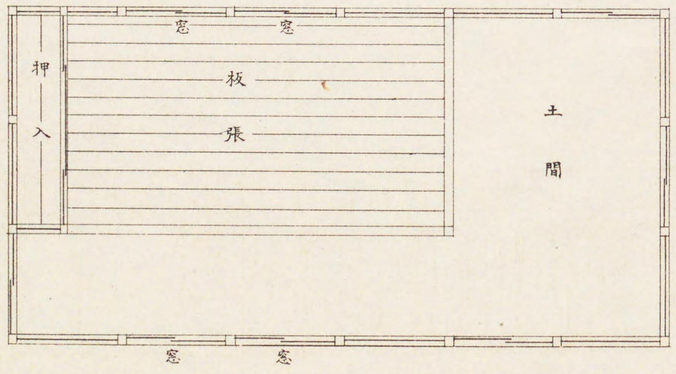
収納舍平面圖



農具舍平面圖

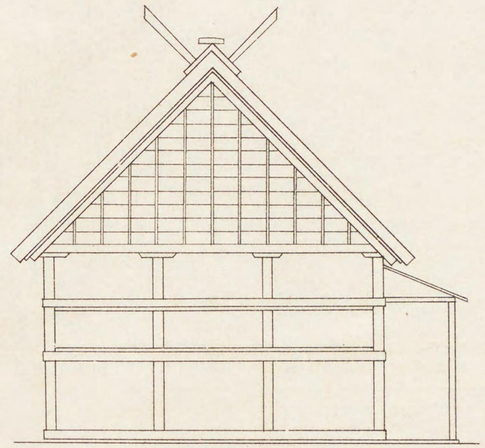


潔齋所平面圖

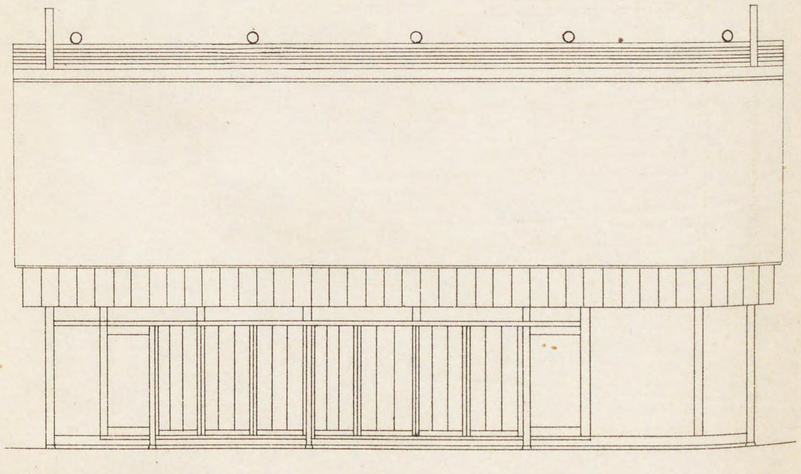


縮尺百分ノ一

収納舍側面圖



同上正面圖



第四章　耕作從事者

第一節　人選ト服裝

齋田耕作從事者ノ人選ニ付テハ縣ニ於テモ頗ル意ヲ用フルトコロアリ。曩ニ齋田ノ點定セラルルヤ直チニ井深碧海郡長ヨシテ山崎技師ト協議ノ上選任ノ衝ニ當ラシム、茲ニ於テ井深郡長ハ資產、敎育、素行、技能、家庭、經歷、健康其他各項目ヲ定メ其優良ナルモノヲ青年會員、處女會員竝ニ篤農者中ヨリ推薦セシムルコトトシ六ツ美村長ニ照會スルト共ニ郡內各町村長ニ對シテモ各々兩三名ノ希望者ヲ採用スヘキ旨ヲ傳ヘタリ。之ニ對シ各町村長ハ數百名ノ希望者ニ就キ愼重調査ノ上各項目ニ就キ詳細報告スルトコロアリ。郡長ハ右報告ニ基キ更ニ吏員ヲ各地ニ派シテ調査ノ上耕作從事者ヲ豫選シ其旨各町村長ニ通報スルト共ニ健康診斷ヲ行ハントシツツアリタリ。

然ルニ幾何モナク大禮延期ノ發表アリ、耕作從事者ノ選任亦一時中止ノ已ムナキニ至リシカ大正四年四月ニ至リ井深郡長ハ再ヒ曩ニ選定セラレタル者ヲ六ツ美村ニ招集シテ健康診斷ヲ爲スコトトシ其旨各町村長ニ通知シタリ。

然ルニ耕種ノ開始ト共ニ耕作從事者增員ノ必要ヲ生シ、四月二十六日ニハ十名ヲ、更ニ六月二十八日ニハ十一名ヲ增加シタルヲ以テ齋田耕作從事者ハ總數百二十二人トナレリ。齋田

段別ニ比シ耕作從事者ノ數稍々多キニ失スルノ感ナキニアラサルモ齋田地ノ耕耘ニ關シテハ特ニ周到ナル注意ヲ拂ハサルヘカラサルト共ニ、調製・撰米等悉ク耕作從事者ヲ用ユルコト多キヲ以テナリ。耕作從事者ヲ郡内各町村ヨリ選拔セシハ其光榮ヲ汎ク分タンカ爲メナリ、而シテ耕作從事者ノ選ニ入レル者ハ其光榮ニ感激シ如何ニシテモ奉耕ノ大任ヲ完フセントテ深ク心ニ誓フモノノ如ク各自身體ノ健康ニ意ヲ用ヒ一日タリトモ多ク奉耕ノ任ニ當ランコトヲ冀ヒ、齋田事務所ヨリ通知ノ期日ニハ數里ノ道ヲ遠シトセス豫定時刻以前ニ必ス指定ノ場所ヘ到著シ淨水ヲ以テ身ヲ清メ作業服ニ著代ヘルヲ常トセリ。左ニ耕作從事者ノ所感ノ一節ヲ記シ如何ニ其光榮ニ感激シタルカヲ紹介スヘシ。

大君にささけむをしれ守る人のかすに入りしぞほまれなりける

賤の男も齋田守りに召さるとはかたしけなさの極みなりけり

悠紀の田の瑞穗のをしれ守る我はつとめつくさむ身を碎くとも

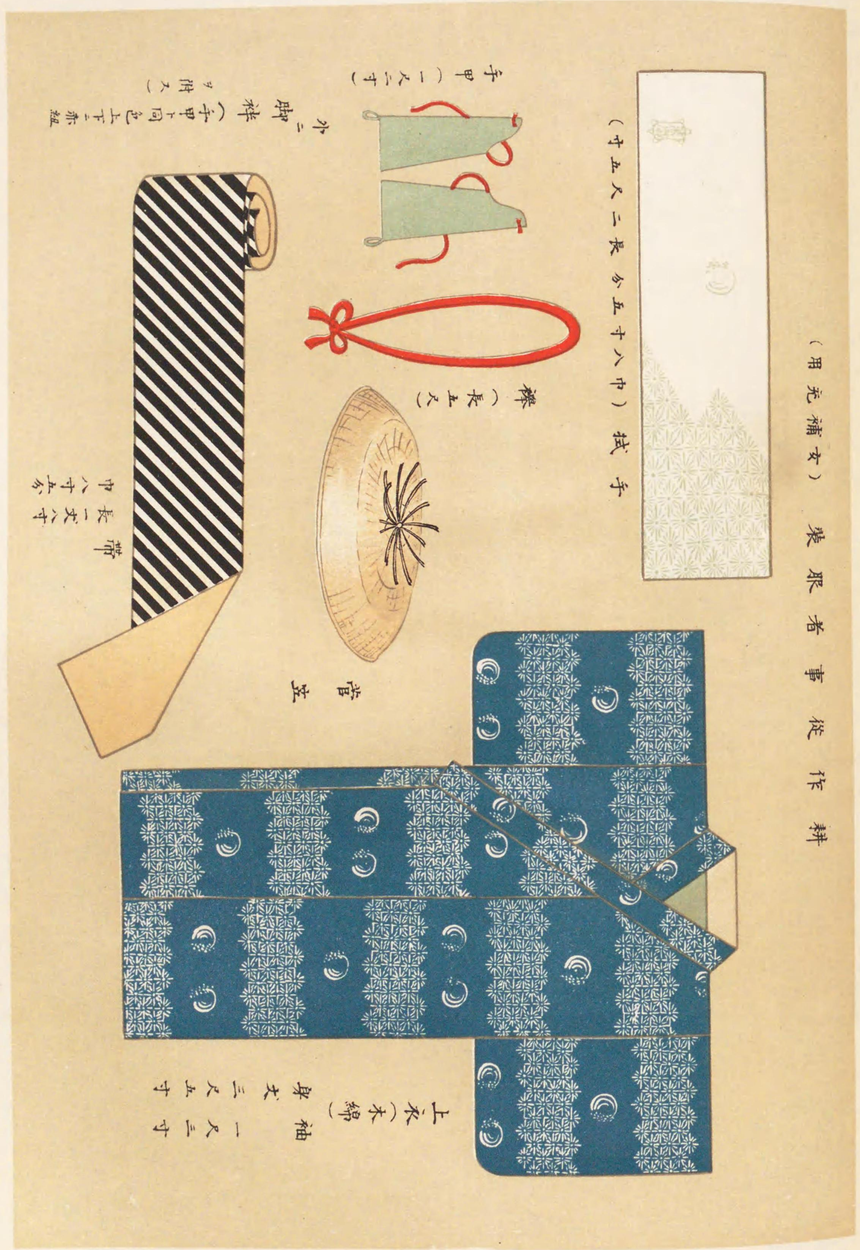
悠紀の田を守る身にしあれはことさらに神に祈らむ恙なかれと

悠紀の田の水に清めし心根を濁さて守らむ家の掟に（依佐美村小笠原平）

此大正ノ豐ナル御代ニ當リ長クモ御卽位ノ大典ヲ擧ケサセラルルニ方リ悠紀齋田ヲ本郡ニ點定セラレ重大ノ任務ヲ負ヘル奉耕者ノ榮譽ヲ荷ヒタルコトハ身ニ餘ル光榮ト喜ヒ之ヲ記念センカ爲メ本年五月ヨリ月々壹圓宛二十箇年貯金シテ後田地一段歩ヲ買ヒ長ク自己ノ喜トナシ且一面ニ於テハ青年會ノ發達ヲ圖ルト共ニ農事ニ益々勉勵スル積リテアリマス。（旭村長坂宇平）

國家最高ノ御大典ニ於テ用ヒサセ給フ所ノ新穀ヲ供納スヘキ悠紀齋田奉耕者タルノ恩命ニ浴スルコトヲ得タルハ空前絶後ノ光榮ナリトス爾來一層ノ發奮ヲナシコレカ榮譽ニ報ヒ奉ラントス。

大嘗のゆきの齋庭にかしづくは我身にあまる譽れなりけり



（罒）裘服者事從作耕

帽

衫（白晒）長サ後紐ヨリ四尺五寸

袴（白晒）

補充用（淡黄色短袴）

前

後

褌（木綿）

外ニ作ル冠ヲ用ヒ又ハ帽子ヲ用ヒ又ハ兼ヲ冠ル素ノ際ハ皆甲ヲ脱ス

脚絆（木綿）

前黄色ハ水色ノモノ及白色老脚絆ヲ併用セリ

上衣（白晒）

前

後

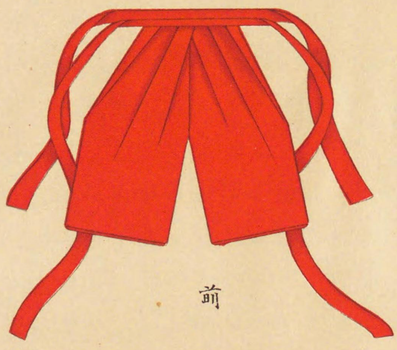
袖丈ケ九寸

紐同身

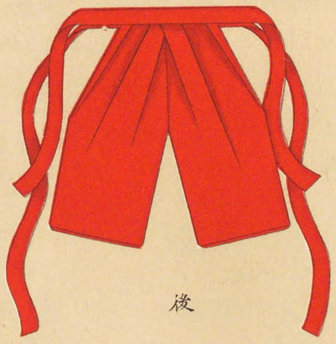
後二尺四尺五寸

前二尺三寸五分

耕作從事者服裝（女）

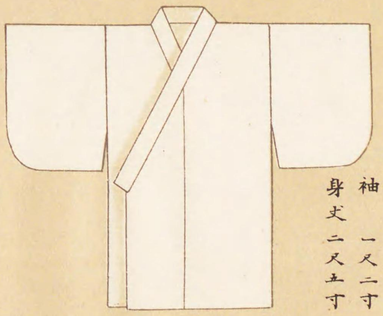


前



後

袴（木綿）
丈 二尺
後紐長 四尺
前紐長 五尺五寸



上衣（白晒）半腰
袖 一尺二寸
身丈 二尺五寸

脚袢
長 一尺
巾木綿一布

而シテ耕作從事者ニ對シテハ一定ノ服裝ヲ給シ、耕種ニ從事スル際之ヲ著用セシムルハ清淨ヲ旨トスル齋田ノ耕作ニ關シ必要ナルヲ感シ、委員會ニ於テハ夙ニ質素ニシテ優美ナル服裝ノ考案ヲ審議スルトコロアリ。偶々齋田地選出ノ衆議院議員早川龍介ハ夙ニ尊皇敬神ノ念ニ篤ク、故實ニ通シ廣ク神事ニ就テ造詣淺カラサルヲ以テ、曩ニ大正三年中同人ノ考案ニ基キ別紙圖ノ如キ服裝ヲ採用スルコトトシタリ。

大正四年四月岡部熱田神宮宮司ノ齋田委員ニ囑託セラルルヤ縣ハ再ビ同宮司ニ就キテ曩ニ委員會ニ於テ內定シタル服裝ニ關シ意見ヲ徵シタル結果早川案ニヨル服裝ハ之ヲ日常耕作ノ際ニ於ケル補充用トシ新ニ男子ハ赤ノ襦袢ニ白張樣ノ上著ヲ、女子ハ白ノ上衣ニ緋ノ短袴ヲ著ケシムルコトトシ四月十五日ヲ以テ湯地齋田委員長ヨリ井深奉贊會長ニ通牒ヲ發シタリ。（插繪參照）

奉贊會ハ各服裝全部ノ製作ヲ名古屋市中區榮町いとう呉服店ニ命シタルニ、同店ハ之ヲ無上ノ光榮トシ實費ヲ以テ其需ニ應シ、裁縫場ヲ清掃シ幔幕ヲ張リ繞ラシ謹製ノ上二輛ノ馬車ニ納メテ四月二十一日之ヲ齋田地ニ送附シタリ。

第二節　耕作從事心得ト其人名

斯ノ如クニシテ決定シタル耕作從事者心得及耕作從事者氏名左ノ如シ。

悠紀齋田奉耕者心得

第一條　悠紀齋田ハ神勅ニヨリ定メサセラレ御一代ノ大典タル大嘗祭ナ行ハセラルル上ニ於テ緊要ナル新穀ナ栽培スル所ナルナ以テ耕作ニ從事スル者ハ神ニ奉仕スルノ心ナ以テ苟且ニモ不謹愼ノ行爲アルヘカラス

第二條　奉耕者ハ知事郡長所有者ソノ他齋田ニ關係アル委員ノ指揮ニ從フヘシ

一　奉耕者ハ就業時間一時間前ニ齋田事務所ヘ出頭スヘシ

一　奉耕者ハ謹嚴誠意ナ旨トシテ業務ニ從事シ毫モ專斷ノ行爲アルヘカラス

一　使用ノ器具物品ハ始業ニ當リ齋田事務所ヨリコレナ受取リ終業ノ際清掃ノ上コレナ返納スヘシ

第三條　奉耕者ハ左ノ事項ナ堅ク遵守スヘシ

一　工作物ナ毀損シ耕作物ナ損傷スヘカラサルコト

一　齋田地ニ於テ喫煙喀痰放尿スヘカラサルコト

一　作業中雜談ナ交ユヘカラサルコト

一　作業以外ニハ齋田ニ出入スヘカラサルコト

一　齋田地區内ヘ立入ルトキハ履物ナ用ヒサルコト

第四條　奉耕ノ任務ニ當ルヘキモノニシテ病氣其他ノ事故ノタメ勤務シ能ハサルトキハ速ニ齋田事務所ヘ届出ツヘシ若シ又就業中事故ノタメ勤務シ能ハサルトキハ其旨齋田事務所ヘ届出ツヘシ

悠紀齋田操業時間表

自四月至六月	午前七時就業　午後五時三十分停業	休憩時間　兩度ノ食事後三十分　午前八時、正午、午後四時、十五分宛
七　月	午前六時三十分就業　午後六時停業	休憩時間　午前ノ食事三十分午後ノ食事一時間半　午前八時、正午、午後四時、十五分宛
八　月	午前六時三十分就業　午後五時三十分停業	休憩時間同斷
九月以後	午前七時三十分就業　午後五時停業	休憩時間　兩度ノ食事ニ三十分宛　正午十五分間

悠紀齋田耕作從事者氏名

安城町	大見爲次	新家勝三郎	野村國市	岩井太郎	野村壽一
依佐美村	鶴田傳平	杉浦彦次	柴田幸一	大參周平	
	長谷川清吉	長澤小市	平野宗次	山城才次郎	小笠原平
高濱町	石川益次				
新川町	杉浦榮一	杉浦鼎			
棚尾村	奥谷惣治郎	山口甚藏			
旭　村	名倉諭				
明治村	金原末吉	高松惣一郎	長坂宇平		
櫻井村	杉浦小市	杉浦幸一	沓名米作	二村春吉	
六ツ美村	戸田坂市	熊谷辰次郎	加藤文次郎	岩瀨義重	岩月初市
	太田登喜次	太田恒太郎	杉崎半太郎	太田佐市	早川柳治
	石川留吉	畔柳八十一	早川幸之助	本田九平	早川文左衞門
	村山定治	杉田甚松	平島半治	早川資郎	杉浦庄八
	山下兵次郎	畔柳一良	新實淳二	新實彦次郎	高木政次郎
	萩原七五三太郎	牧野英逸	瀨戸春吉	磯村仁太郎	天野貝松
	成瀨吉太郎	杉浦磯右衞門	松野友市	太田伊太郎	磯貝斧三郎
	小林信次郎	太田要一	山崎康一	早川シナ	早川くめ
	杉浦こよ	本田かと	土屋ヨネ	山崎つう	竹本キン
	蜂須賀チヨ	太田ていエ	河口チエ	杉浦カズ	志賀ゑい

野々山ゑげ　渡邊ゐき　犬塚カズ　犬塚やつ　村上シユウ
杉田とう　平井カズ　加藤スミ　野々山けん　近藤ちよ
本田　靜　八田ヨシエ　大久保よしゑ　細井さわ　星野レエ
矢作町　稻垣初三郎　杉山善次郎　太田唯一郎　梅本信治　伊豫田專吉
上郷村　細井儀作　野村正巳　矢田金次　山田兼太郎
高岡村　近藤得治　成田清　三浦ハギノ
太田米松　都築種一　石川善助　水野惣二郎　小山文太郎
富士松村　酒井權兵衛　鈴木廉次郎　野々山敬太郎　酒井彌四郎
知立町　杉浦鍬治　石川慶造　加藤儀兵衛
刈谷町　鈴木紀太郎　尾島林平　深谷甫逸　加藤半吾
以上　男子　九十二名　女子　三十名

第五章　齋田地ノ衞生ト警備

第一節　齋田地ノ衞生

齋田ノ奉仕經營ニ關シテハ諸事清淨ヲ旨トシ、苟モ不淨ナキヲ期シ常ニ修祓ヲ怠ラス又用水及附近ノ警備ニ注意スルノ外忌服中ノ參觀者ノ如キハ之ヲ遠慮セシメタリ。而シテ就中縣ノ憂慮シタルハ齋田地附近ニ惡疫ノ發生ナキヤ否ヤノ點ニアリ、縣ハ夙ニ警察部衞生課長種田技師ニ齋田ニ關スル委員ヲ命シ主トシテ衞生防疫ノ衝ニ當ラシメタリ。由來碧海郡六ツ美村ハ衞生狀態不良ナルニ非サリシモ縣ハ大正三年二月悠紀齋田點定以來屢々衞生課長、防疫官補、技手其ノ他ノ吏員ヲ派シテ齋田地方ノ健康狀態、灌漑河川ノ清潔方法、通路ノ工築、墓地火葬場ノ整理、傳染病ノ豫防、痲疹流行性感冒等ニ就キ、專ラ注意ヲ拂ハシメタリ。

同年四月不幸ニシテ世ハ諒闇トナリ大禮ノ儀モ從ツテ延期セラルルニ至リタリト雖モ衞生上ノ注意ハ絕ヘス怠ルコトナカリキ。而シテ大正四年四月十一日諒闇明ニ先ツ前一日齋田地ノ衞生ニ關スル事項ヲ定メ碧海郡長及幡豆郡長ニ依命通牒ヲ發シ安城警察署長ニ通達シタリ其ノ全文左ノ如シ。

衞發第二七八號
大正四年四月十一日
井深碧海郡長宛
丸茂愛知縣警察部長

齋田地衞生ニ關スル件依命通牒

本年秋冬ノ頃ニ於テ擧行可被爲在御大典大嘗祭悠紀齋田地方乃チ中島ノ衞生ニ關シ差向キ左記事項實施セシメラレ度候

左記

一　六ツ美村中島及安藤住民ノ全部ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコト

醫師ハ縣ヨリ派遣スヘキニ付日時及場所ヲ定メ報告相成度コト

二　中島全部ノ飲料井水檢査ヲ施行スルコト檢査員器械藥品ハ縣ニ於テ負擔ノ筈ニ付別紙檢査要項ニ依リ準備シ期日場所ヲ定メ報告相成度コト

三　齋田ノ耕耘ニ關係スル者ノ健康診斷及檢便ヲ施行スヘキニ付期日場所及之ヲ受クヘキ人員ヲ定メ報告相成度コト

四　村醫トシテ適當ナル醫師ヲ雇入レ又ハ囑託シ置カシムルコト

五　常ニ急性死亡診斷書ヲ調査シ必要アル場合ハ村醫ヲシテ檢案セシメ又ハ郡長ヲ經テ知事ニ急報セシムルコト

六　高橋用水ニ汚物塵芥ノ投棄漁撈游泳ヲ制スルノ榜示ヲ爲スコト

七　同用水分岐點ヨリ齋田迄ノ支流間ニ番人ヲ設置スルコト

八　隔離病舍ノ掃除及修理ヲ爲シ器具藥品其ノ他ノ設備ヲ完了シ何時ニテモ患者收容ニ支障ナカラシムルコト

九　衞生上ノ心得書ヲ印刷シ各戸ヘ配付スルコト

一〇　時々衞生講話會ヲ開催スルコト

講師ハ縣ヨリ派遣スヘキニ付其ノ日時場所ヲ報告スルコト

一一　六ツ美村ニ於ケル衞生組合又ハ衞生會ノ活動ヲ促スコト

飲料井水檢査要項

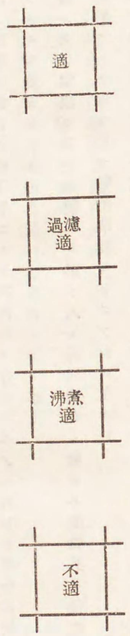
一　飲料井水ノ檢査ヲ受クヘキ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ニ對シ漏ナク檢査ヲ受ケシムル樣諭示セラレタキコト

一　飲料井水ノ檢査ハ總テ無料トス

一　飲料井水ノ臺帳ヲ製シ檢査成績及檢水採酌法中「ト」ノ事項ヲ記入セラレタキコト

一　檢査場竝檢水區域ヲ定メ期日ト共ニ檢査ヲ受クヘキ飲料井水ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ナシテ檢水採酌法ニ據リ採酌セシメ便宜ノ方法ヲ以テ檢査著手前日迄ニ所定ノ檢査場ニ送致セシメラレタキコト

一　飲料井水檢査ノ成績ハ飲料ニ適スルモノヲ「適」濾過ヲ要スルモノヲ「濾過適」煮沸ヲ要スルモノヲ「煮沸適」不良ナルモノヲ「不適」トスルヲ以テ左記雜形ニ準シ木標又ハ金屬標ヲ作成シ各戸ノ見易キ所ニ貼付セラレタキコト



一　濾過水ヲ用ウルモノハ別ニ定ムル濾過裝置ニ依リ濾過セシメラレタキコト

一　檢査補助員トシテ左ノ人員ヲ要ス

イ　檢査補助員（市又ハ町村吏員或ハ衞生組合員）　三人

以上ハ成績ノ記入及檢査ノ準備ニ從事ス

ロ　補助員（女）　三人

以上ハ器具器械ノ洗滌ニ從事ス

ハ　役夫　一人

專ラ雜役ニ從事ス

一　檢査場ハ一箇所ヲ要ス

但シ一箇所ノ檢査場ニハ左ノ設備ヲ要ス

一　廣サ　十坪以上ニシテ採光ト通風ノ良キ所

一　テーブル　八脚　內二脚ハ幅二尺五寸長サ三尺、六脚ハ幅一尺二寸長サ五尺五寸

一椅　子　六脚
一硯　三個　筆墨ノ附屬品ヲ要ス
一水　甕　四個　約一斗入ノモノ
一竹　籠　三個　普通茶碗ヲ洗ヒ上ケ置ク位ノモノニシテ成ルヘク大ナルヲ可トス
一水汲桶　一荷　柄杓一箇ヲ具フ
一七　輪　五個　鐵、陶製孰ニテモ可ナリ
一炮　烙　五個　直徑約一尺二寸之ニ河砂ヲ七分位マテ入レタルモノ
一炭　凡五貫匁
一罫　紙　凡二百枚

外ニ檢査場ヨリ次ノ檢査場ヘ器具器械藥品ヲ運搬スヘキ荷車及人夫一檢査場ニ於テル檢水ノ豫定數ハ毎日一箇所ニ於テ凡二百個トス

檢水採酌法

イ　檢水ノ容器ハ無色ノ硝子瓶ニシテ約四合ヲ容ルルモノヲ可トシ場合ニ依リ無色二合入瓶二個ヲ用ヒシメラルルモ差支ナキコト

ロ　容器ハ先ツ溫湯ヲ以テ新鮮ナル砂ヲ入レ再三洗滌シ能ク不潔物其ノ他班點ノ如キモノヲ除キタル後更ニ採酌スヘキ水ヲ以テ數回洗滌セシメラレタキコト

ハ　止ムヲ得ス有色ビール瓶、ジヤンピンサイダー瓶ノ如キモノヲ用フルトキハ前項ノ洗滌ヲ特ニ反覆シ臭氣等ヲ全ク除去セシメラレタキコト

石油、醬油等ノ臭氣ヲ有スルモノ往々アレハ特ニ注意セラレタキコト

ニ　喞筒井戸ハ採酌前充分汲ミ出シ汚物及筒中ノ停滯水ヲ除去シ直接ニ其ノ射出口ヨリ容器ニ取ラシメラレタキコト

ホ　鈎瓶井戸ナルトキハ數回汲ミ出シタル後鈎瓶ヨリ直接ニ容器ニ取ラシメラレタキコト

ヘ　堀拔井戸ナルトキハ成ル可ク其ノ射出水ノ中心ニ於テ採酌セシメラレタキコト

ト　採酌終リタルトキハ新鮮ナル木栓又ハキルク栓ヲ以テ栓塞シ之ニ左記事項ヲ記シタル幅一寸五分縱三寸五分ノ厚紙標箋ヲ貼付セシメラレタシ木栓キルク栓以外ノモノハ成ルヘク用ヒシメサル樣セシメラレタキコト

一檢水ノ種類(喞筒堀拔鈎瓶ノ別)
一井戸ノ所在地名番地
一井戸ノ所有者使用者又ハ占有者ノ住所姓名
一採酌年月日

チ　飲料井水ニシテ其ノ外觀ノ既ニ著シク不良ナルモノハ採酌スルニ及ハサルモ之カ事由ハ檢査員ニ通報セラレタキコト

リ　所有者使用者又ハ占有者ニシテ二箇所以上ノ井戸ヲ有スル場合ハ甲、乙、丙ノ如キ符號ヲ以テ區別セシメラレタキコト

飲料井水濾過裝置

適當ノ器具(四斗桶、水甕等)ノ側面下方底面ヨリ約一寸上ノ所ニ射出口ヲ設ケ其ノ內部ニ木炭ノ桃實大ノモノ二寸ノ厚サニ次ニ同大ノ砂礫ヲ五寸次ニ漸次小豆大ノ砂礫ヲ層積スヘシ

ヲ二寸ノ厚サニ積ミ最後ニ細砂ヲ一尺以上層積スヘシ

夜間濾過ノ必要ナキトキハ裝置內ノ停滯水ヲ全ク流出セシメ置クヘシ

濾過槽上部ノ細砂ハ時々洗滌スルカ或ハ取換スルヲ要ス

濾過槽全部ノ洗滌ハ少クモ一箇年二回以上行フヘシ

更新スル材料ハ總テ能ク洗滌シ日光ニ曝露シ乾燥シ用フヘシ

衞發第二七八號

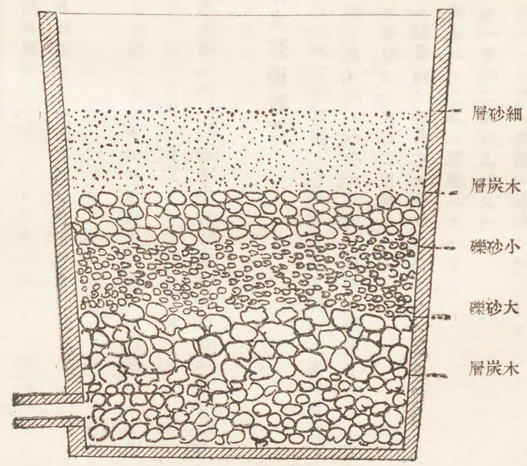
大正四年四月十一日

杉山安城警察署長宛

齋田地衞生ニ關スル件通達

本年擧行可被爲在御大典大嘗祭悠紀齋田地方乃チ中島ノ衞生ニ關シ本日別紙ノ通碧海郡長へ依命通牒致

濾過裝置



丸茂愛知縣警察部長

置候條右御了知ノ上之レカ實行ニ協力セラルヘキハ勿論猶左記事項ヲ施行可相成候

一　大字中島各戸ノ便池ニ對シ木灰ヲ以テ時々消毒方法ヲ行フコト

二　精神病者ノ監視ヲ勵行スルコト

三　中島住民ノ飮食物ハ多ク幡豆郡地方ヨリ供給ヲ受クルモノ多キカ如シ然ルニ同郡地方ニハ年々赤痢ノ發生アルヲ以テ此際飮食物ノ供給先ヲ調査シ常ニ防疫上ノ警戒ヲ爲スコト

衞發第二七八號

大正四年四月十一日

村上幡豆郡長宛

齋田近接地衞生ニ關スル件依命通牒

貴郡三和村大字下羽角ハ大嘗祭悠紀齋田地乃チ中島ニ近接シ居リ候ニ付其部落住民ノ全部ニ對シ本縣ヨリ醫師ヲ派遣シ健康診斷施行可致候ニ付時日及場所ヲ定メ報告相成度

右通牒通達ヲ發スルト同時ニ技手勝田源次郎衞生書記小池金之助ヲ六ッ美村ニ出張セシメ其ノ實行方法ニ付指示協議セシメタリ。以下實行セシ狀況ヲ左ニ述ヘン。

清潔方法　四月三日同村大字中島ノ清潔方法ヲ施行スルニ付技手勝田源次郎ヲ派シ之ヲ監視セシメタルカ戸數二百九十三戸中不充分ノ爲再施行ヲ命シタルモノ五十八戸アリ。之等ハ所在警察官監視ノ下ニ更ニ清潔方法ヲ施行セシメ完全ナルコトヲ得タリ。又幡豆郡三和村大字下羽角ハ中島ト殆ント接近シ衞生上唇齒ノ關係アルヲ以テ四月六日左ノ通牒ヲ發シタリ。

丸茂愛知縣警察部長

衞發第二六二號

大正四年四月六日

村上幡豆郡長宛

丸茂愛知縣警察部長

清潔方法施行ニ關スル件

本月一日ヨリ六日ニ至リ碧海郡六ツ美村ニ清潔方法施行致候處貴郡內三和村下羽角ハ商取引ハ勿論交通上六ツ美村大字中島ト最モ密接ノ關係アレハ同部落ニ對シ清潔方法施行ノ御計畫有之候ハヽ此際特ニ其ノ期日ヲ早メ勵行セラルル樣致度

追テ施行期日確定致候ハヽ御通報相成度候

右通牒ニ對シ左ノ通回答アリ

幡第三〇四五號

大正四年四月八日

村上幡豆郡長

丸茂愛知縣警察部長宛

清潔法施行ニ關スル回答ノ件

衞發第二六二號ヲ以テ御照會ニ係ル本郡三和村大字下羽角ニ對スル清潔方法施行ノ儀ハ該部落本月七日迄ニ春期清潔方法施行セシメ本月八日檢査濟ニ有之候條此段及回答候也

飲料井水檢査　前示依命通牒ニ基キ五月五日頃ヲ以テ飲料井水ノ檢査ヲ施行シ可成一日間ニ終了スヘキ樣配意アリタキ旨四月二十九日碧海郡長ヨリ申出アリ。五月四日警部河村

菊次郎ヲ派シ打合セヲ爲サシメ同日技手谷田孫兵衞同勝田源次郎同古川友次郎及衞生技手佐竹由次郎ヲ派シ翌五日水質檢査ヲ施行セシメタルニ其ノ成績左ノ如シ。

檢査總數　二百三十五個

內

適　二十七個

濾過適　二十六個

煮沸適　五十九個

不適　百二十三個

健康診斷及檢便　齋田ノ耕耘ニ從事スヘキ者ノ健康診斷ハ同村開業醫ニ於テ四月十二日健康診斷ヲ施行スル旨同月十一日碧海郡長ヨリ電話申出アリタルヲ以テ防疫官補山田直治、同山內美雄ヲ派シ立會セシメタルカ檢診人員百三名中トラホーム患者五名アルノミニシテ他ニ傳染病疾患者ナカリキ。（第四章第一節參照）

而シテ菌携帶者ノ有無檢査ノ目的ヲ以テ糞便檢鏡ノ必要ヲ認メ既記ノ如ク通牒シタルニ有力ナル二三ノ方面ニ於テハ其ノ必要ナキヲ主張シ異議ヲ唱フル者アリタルモ之ヲ斷行スルコトニ決シ五月七日及同月九日ノ二回ニ百八人ノ糞便碧海郡長ヨリ送付ヲ受ケ之ヲ檢査シタルニ十二指腸蟲卵ヲ檢出シタルモノ四名蛔蟲卵ヲ檢出シタルモノ二十四名ニシテ其ノ他病原菌ヲ檢出セサリキ。

齋田地ニ近接セル幡豆郡三和村字下羽角ノ健康診斷ハ四月二十日午前十時ヨリ施行セラ

レ度旨同月十六日附ヲ以テ幡豆郡長ヨリ申出ニ依リ防疫官補山田直治同山内美雄ヲ派シ之ヲ施行セシメタルカ戸數五十二戸、人口二百八十四名中健康診斷ヲ受ケタル人員二百四十四名内トラホーム患者二十一名、皮膚病患者二名感冒ニ罹リ居ル者二名其ノ他二百十九名ハ健全ニシテ傳染病及其ノ疑アル者更ニ無ク不在者四十名ハ他ニ出稼セル者ニシテ全ク同地ニ居住セサル者ナリ。

又齋田齋場地鎭祭用物品ノ調達及運搬ニ關係アルモノ五戸三十二名ハ八月七日防疫官補山内美雄、檢疫委員鈴木修道ヲシテ衞生狀態ヲ調査セシメタルニ孰モ佳良ナリキ。次テ九月七日拔穗式用物品ノ調達及運搬關係者四戸二十一名ノ衞生狀態ニ關シ防疫官補山内美雄及臨時衞生技手小塚三郎治ヲシテ調査セシメタルニ之レ亦佳良ナリキ。

檢病的戸口調査　尙防疫上ノ必要ニ依リ八月十八日安城西尾兩警察署長ヘ通達ヲ發シ左記方法ニ依リ齋田地方一般住民ニ對シ檢病的戸口調査ヲ施行セシメタリ。

一　檢病的戸口調査ハ碧海郡六ツ美村、幡豆郡三和村、前年傳染病流行セシ地域、貸民部落、木賃宿、其ノ他必要ト認ムル地域内ノ人家ニ就キ行フヘシ。

二　檢病的戸口調査ハ別紙第一號樣式ノ檢病的戸口調査票ヲ携帶シテ之ヲ行ヒ其ノ結果ヲ記入シ置クヘシ。

三　檢病的戸口調査ノ結果法定傳染病及宮内傳染病患者又ハ之ニ疑ハシキ病者ヲ發見シタルトキハ最寄醫師ノ診斷ヲ受ケシムヘシ。

前項ノ場合ニ於テ健康診斷ヲ行フ必要アリト認メタルトキハ其ノ狀況ヲ具シ報告スヘシ。

四　檢病的戸口調査ハ八、九、十、ノ三ケ月ハ毎月一回以上十一月一日以後ハ毎日之ヲ施行スヘシ。

五　檢病的戸口調査ニ從事スル者ハ毎回其ノ結果ヲ第二號樣式ニ依リ所屬警察官署長ヘ報告シ署長ハ之ヲ合表シ左記期日ニ報告スヘシ。

八、九、十、ノ三ケ月ハ毎月末日限リ。
十一月ハ五日、十日、十五日、二十日限リ。

六　檢診票ハ大典終了後送付スヘシ。

七　第一號、第二號樣式ノ用紙ハ當部ヨリ送付ス。（樣式略）

而シテ其ノ成績左ノ如シ。

碧海郡六ツ美村

檢診月日	檢病的戸口調査ヲ爲シタル 戸數	人口	發見患者
九月中	五七一	二、八八一	二〇
十月中	四四七	二、二〇七	一一
十一月一日ヨリ五日迄	一五七	八〇四	四
同六日ヨリ十日迄	二四七	一、二八八	七
同十一日ヨリ十五日迄	一五五	七七〇	一
同十六日ヨリ二十日迄	一四七	七六四	六
計	一、七二四	八、七一四	四九

幡豆郡三和村

檢診月日	檢病的戸口調査ヲ爲シタル 戸數	人口	發見患者
八月中	一八四	九〇二	一一
九月中	一、五四五	七、八五八	二七
十月中	一、五九七	八、一三八	三一
十一月一日ヨリ五日迄	一、一五七	五、七七七	一二
同六日ヨリ十日迄	七五一	三、六四〇	一三
同十一日ヨリ十五日迄	一、三四七	六、四五三	一三
同十六日ヨリ二十日迄	六八六	三、二六一	八
計	七、二六七	三六、〇二九	一一五

發見患者ハ孰モ普通病ニシテ傳染病及痲疹流行性感冒等更ニ無カリキ。

衞生取締ヲ要スル營業者　八月二十三日各警察署長ニ通達シ左記ニ據リ衞生上取締ヲ要スル各種營業者ノ業態ニ付漏レ無ク周密ナル臨檢ヲ遂ケシメタルカ六ツ美村ノ成績ハ湯屋二戸、賣肉營業二戸、料理店四戸、飮食店一戸、旅人宿九戸、木賃宿一戸、理髮店七戸、淸凉飮料水販

賣店三十八戸、計六十四戸ニシテ其ノ不完全ナルモノハ夫々改善ヲ加ヘシメタリ。

一　臨檢ノ結果修理改善ヲ命ジ又ハ規則違犯トシテ處分シタルモノハ爾外ヘ其ノ要旨ヲ記載スヘシ。
二　臨檢ノ結果試驗ノ必要アリト認ムル物品ハ之ヲ收去送付シ且其ノ旨ヲ前同樣記載スヘシ。
三　技術者ノ派遣ヲ要スルモノハ別ニ之ヲ申請スヘシ。
四　臨檢表ハ報告ノ際業態別ニ分類一括シ送付スヘシ。
五　臨檢表用紙ハ別便送付スヘキニ付若シ不足アラハ折返シ要求セラルヘシ。

衞生上ノ心得書配付　縣ハ大禮ニ關スル衞生上ノ心得書ヲ印刷シ警察官ヲシテ縣下樞要ノ地ヘ配付セシメタルカ六ツ美村ハ齋田ノ關係上衞生ノ注意最モ緊要ナルヲ以テ特ニ多數ヲ配布セシメ其ノ實行ヲ期セシメタリ。其他擧式等ニ際シ係員ヲ派遣シテ救護ニ從ハシメタルコト二回、何レモ其章下ニ於テ記述スルトコロアルヘシ。

碧海郡ニ於テモ齋田地附近ノ村民ニ衞生思想ヲ喚起セシムルヲ急務ナリトシ、安城警察署ト提携シ通俗衞生講話會ヲ開催セシムルコトトシ其第一回ヲ大正四年四月七日用水ニ關係深キ大字下青野ニ開キ其第二回ヲ四月八日午前大字法性寺ニ同日午後第三回ヲ大字中島ニ開催シ衞生思想ノ普及ニ努メタリ。講演會ニハ何レモ一戸一人ハ必ス出席スヘキ旨ヲ勸誘シタルヲ以テ來會者常ニ五百名以上ニ達シタリ。

尙清潔法、健康診斷、井水檢査、檢便、便池消毒等ニ關シテハ杉山警部以下所在地警察官ヲシテ勵行ニ勗メシメタルコト既ニ記述セルトコロノ如シ。

其他齋田所在地六ツ美村大字中島ニハ旅人宿營業者七戸アリ、地方行商人ヲ顧客トスル極メテ設備ノ不完全ナルモノナルヲ以テ大正四年四月二十二日之等營業者ヲ中島駐在所ニ召喚シ杉山警部ハ旅舍ノ待遇上ノ心得ヨリ衞生、火防盜犯豫防等ノ設備ニ關シ訓示スルトコロアリ、食事ノ調理等ニ關シテモ注意シテ誠實ニ營業ヲ爲スヘキ旨ヲ諭シ爾來屢々受持巡查ヲシテ衞生其他ノ設備竝ニ風紀取締ニ屬スル監視ヲ爲サシメタリ。尙同地ニハ料理店數戸アルヲ以テ同日之等營業者ヲ中島駐在所ニ召喚シ營業上ノ心得ヨリ風紀衞生上ニ對シ具體的ニ懇諭シ光榮アル齋田所在地村ノ名譽上特ニ從業者ノ自重ヲ望ム旨ヲ諭示シタリ。其他田植式前後ヨリ參觀者ノ激增ニ伴ヒ飮食店營業者頓ニ增加シ稍不正競爭ノ傾ヲ生シタルヲ以テ衞生上ノ取締ヲ嚴ニシ各種規則ノ勵行ニ勗メシカ從事者及參觀者ノ健康ニ關シテモ常ニ注意ヲ怠ラス。

第二節　齋田地ノ警備

齋田地附近ノ警備ニ關シテハ六ツ美村青年會員竝ニ在鄉軍人會員之ニ當リ、用水ノ警備ハ民村之ニ當ルコトトシ奉賛會ハ特ニ警備部ヲ設ケテ六ツ美村在鄉軍人會分會長山本幾太郎備部長トシテ之ガ監督ノ任ニ當ラシム。

警備ハ縣委員會ノ協議ニ基キ四月二十二日祓式當日ヲ以テ開始シタリ。而シテ警備心得左ノ如シ。

悠記齋田警備心得

第一條　警備見張人ノ警戒區域ハ悠紀齋田地ヲ中心トシテ東西三町南北三町トス

第二條　警備見張人ハ晝間二人夜間三人トシ其勤務時間ハ左ノ區分ニ據ル

一　警備ハ午前七時ヨリ午後七時迄六ツ美村青年會員午後七時ヨリ翌日午前七時迄六ツ美在鄉軍人會員勤務ス

ルモノトシ一時間毎ニ輪番交代シ警備時間外ハ事務所ニ休憩スルモノトス但休憩時間中事故ノ爲メ外出セ

ントスルトキハ勤務後ノ一時間內ニ於テシ其行先ヲ齋田事務所ニ申出ツヘシ

二　警備ノ任務ニ當リタル者ハ勤務時間三十分前ニ齋田事務所ニ出頭シ氏名ヲ届出ツヘシ

第三條　悠紀齋田ハ神勅ニ依リ定メサセラレ御一代ノ大典タル大嘗祭ヲ行ハセラルル上ニ於テ緊要ナル新穀ヲ栽

培スル所ナルヲ以テ警備見張人トシテ警戒ノ任ニ當ルモノハ神ニ奉仕スルノ心ヲ以テ苟且ニモ不謹愼ノ行爲ア

ルヘカラス

第四條　警備見張人ハ知事、郡長、當該村長其他齋田ニ關係アル委員ノ指揮ニ從フヘシ

第五條　警備見張人ノ注意スヘキ事項凡ソ左ノ如シ

一　齋田地ニ於テ咯痰、唾吐、放尿スルモノナキ樣注意スル事

一　齋田地ニ於テ鳥獸等作物ニ危害ヲ加ヘントスルヲ除クコトニ注意スル事

一　傳染病者、精神病者、泥醉者其他擧動不審者等ヲ齋田地ニ接近セシメサル樣注意スル事

一　參觀人ニシテ竹柵ニ憑リ足ヲ懸ケ又ハ耕作地ニ土ヲ蹴リ入レル等ノ事ナカラシムル樣注意スル事

一　水路引入口ニ掛リタル塵芥其他ノ汚物ヲ取除ケル事

一　齋田地ニ於テ塵芥糞尿其他不潔物ヲ放棄スルモノナキ樣注意スル事

一　拜觀人等ニシテ畜類ヲ携ヘタルモノアルトキハ齋田ニ接近前他ニ預ケシムル事

第六條　警備見張人ハ見張所ノ內外ヲ清潔ニシ火氣ニ注意シ喫煙スヘカラス

第七條　警備見張人ハ參觀人其他ニ對シ叮嚀懇切ヲ旨トシ苟モ傲慢粗暴ノ行爲アルヘカラス

第八條　警戒ノ爲メ夜間巡視スルトキハ提灯ヲ携帶スヘシ

第九條　警備見張所ニ日誌ヲ備ヘ本規程ニ記載シタル事故アリタルトキハ勿論規定ナキコトト雖モ重要ト認ムル

事竝ニ後勤者ノ注意ヲ要スル事項ヲ記載スヘシ

第十條　警備見張人勤務中ハ受持區域內ヘ常ニ視聽ヲ注キ警戒ヲ怠ルヘカラス

悠紀齋田用水見張心得

第一條　悠紀齋田ニ灌漑スヘキ水路ノ警戒區域ハ悠紀齋田地ヨリ高橋用水水源地迄トス但シ道路ノ重要場所ニハ

標札ヲ建テ注連ヲ張リ置クモノトス

第二條　用水ノ見張ハ六ツ美村民之ニ當リ一日四人宛トシ其勤務時間ハ左ノ區別ニ據ル

一　見張ハ午前七時ヨリ翌日午前七時迄勤務スルモノトシ一時間毎ニ輪番交代シ見張時間外ハ見張所ニ休憩スル

モノトス

一　見張ノ任務ニ當リタル者ハ勤務時間三十分前ニ見張所ニ出頭シ勤務日誌ニ署名シ置クヘシ

第三條　悠紀齋田ハ神勅ニ依リ定メサセラレ御一代ノ大典タル大嘗祭ヲ行ハセラルル上ニ於テ緊要ナル新穀ヲ栽

培スル所ナルヲ以テ之レヲ灌漑スヘキ水路警戒ノ任ニ當ルモノハ苟且ニモ不謹愼ノ行爲アルヘカラス

第四條　見張人ハ郡長、村長、警察官吏其他齋田ニ關係アル委員ノ揮指ニ從フヘシ

第五條　見張人ノ注意スヘキ事項凡ソ左ノ如シ

一　用水路ニ於テ咯痰、唾吐、放尿スルモノナキ樣注意スルコト

一　用水路ニ塵芥、屎尿其他不潔物ヲ放棄スルモノナキ樣注意スヘキコト

一　用水路ニ於テ農具其他ノ物品ヲ洗滌スルモノナキ樣注意スルコト

一　汚物等ノ流下スルヲ發見シタルトキハ速ニ取除キ用水ノ清淨ニ心掛クルコト

一　水泳又ハ魚類ヲ捕獲スルモノナキ樣注意スルコト

第六條　見張人ハ見張所ノ內外ヲ清潔ニシ火氣ニ注意スヘシ

第七條　見張人ハ他人ニ對シ叮嚀懇切ヲ旨トシ苟モ傲慢粗暴ノ行爲アルヘカラス

第八條　警戒ノ爲メ夜間巡視スルトキハ提灯ヲ携帶スヘシ

第九條　見張所ニ日誌ヲ備ヘ本規程ニ記載シタル事故アリタルトキハ勿論規程ナキコトト雖モ重要ト認ムル事竝ニ後勤者ノ注意ヲ要スル事項ヲ記載スヘシ

第十條　見張人勤務中ハ受持區域内ヲ不絶巡視警戒スヘシ

而シテ齋田地ノ警備ハ四月二十二日ヨリ十月七日ニ至ル百六十八日用水見張ハ四月二十二日ヨリ九月六日ニ至ル百三十七日、稻干場及撰米場ニ充テタル六ッ美第三尋常高等學校ノ警備ハ九月二十五日ヨリ十月十一日ニ至ル十六日、齋場ノ警備ハ九月十二日ヨリ同月二十一日ニ至ル十日ニシテ此延日數三百四十餘日其延人員ハ二千三百餘人ノ多キニ達シタリ、左ニ警備ニ關スル實際ノ狀況ヲ見ルニ、

一　警備者ト其臺帳　警備者ハ勤務時間三十分前ニ八幡社境内ナル悠紀齋田事務所ニ出頭シ氏名ヲ申出出勤ノ屆出ヲナスコトトシ事務所ニ於テハ備付ノ警備臺帳ニ對照シ氏名ノ所ニ係員捺印ヲナス

二　警備者ト其日誌　悠紀齋田警備心得第九條ニ基キ警備者ハ日誌ニ警備者ノ大字氏名トアル欄ニ自己ノ大字及氏名ヲ記シ下欄ノ警備中ノ狀況及必要ナル事項トアル所ニ左ノ事項ヲ記入スルコトトセリ

（イ）何時何分ヨリ何大字ノ何之誰ヨリ引繼ヲ受ケタリ

（ロ）建物及備付物品ノ異狀ノ有無

（ハ）警戒區劃ニ於テ注意ヲ加ヘシ事項及處置セシ大要

（ニ）警戒上將來必要ト認メタル事項

（ホ）後任警備者ニ警戒上申送リノ事項ノ大要

（ヘ）拜觀者ノ概數

三　警備巡察者　警備者以外ニ別ニ巡察者ヲ置キ警備者及用水見張人ノ勤務狀態ヲ視察セシム巡察者ハ在鄉軍人會員其任ニ當ルコトトナシ會員ハ交代シテ毎日一名ツッ出勤シ齋田附近及用水路ヲ絕ヘス巡察シ警備者ヲ督勵シ其狀況ヲ日誌ノ巡察事項欄ニ左ノ項目ニ分チ記載スルコトトセリ

（イ）巡察セシ時刻

（ロ）齋田附近ノ警備及用水見張人勤務ノ狀況

（ハ）警戒上特ニ必要ト認メタル事項

（ニ）巡察者ノ氏名

四　警備者ト服裝　齋田警備者ノ服裝ハ白丁樣ノ上衣ニ淺黃ノ袴用水見張人ハ白丁樣ノ上衣淺黃短袴ヲ穿チ何レモ白丁帽ヲ冠ラシム

五　用水見張人ト日誌　用水見張所ニ備付ノ日誌ニ出勤ノ際住所氏名ヲ記シ尙左ノ事項ヲ記載セシメタリ

（イ）前任者ヨリ引繼ヲ受ケタル時刻

（ロ）見張所ニ備付アル物品ノ異狀ノ有無

（ハ）警戒區域ニ於テ注意ヲ加ヘタル事項

（ニ）警戒上後任者ヘ申送ルヘキ事項

六　警備者及見張人ノ熱誠　前記ノ如ク警備者及見張人ハ六ッ美村青年會在鄉軍人會員村民ノ溢ルルハカリノ熱誠ニ依リ半年以上ニ亘ル長期間、敢テ倦怠ノ色ナク豫テ定メタル日割ニ依リ些ノ支障ナク行

ハレ豫定ノ期日ニ違フモノナカリシノミナラス必ス豫定時刻前ニ出頭シ競テ其任ニ當ラントスルモノノ如ク齋田警備者ノ如キハ終日寸時ノ休息スル遑ナク夜ニ至レハ蚊ノ襲來アルモ物ノ數トモセス偶々交代シテ休息セントスルモ黑布ヲ引キ廻セル小暗キ板張ノ處ニテ僅ニ其勞ヲ憩フノミ（燈火ノ爲メ螟蛾ノ來集スル慮アルヲ以テ黑布ヲ前面ニ張ル）又用水見張人ノ如キハ齋田ヨリ高橋用水水源迄約一里ノ間風雨ヲ冒シ或ハ夜陰ニ雜草ノ繁茂セル堤塘ヲ數次往復シ用水ノ清淨ヲ保チ之カ爲メ其通路ノ處ハ雜草踏ミ荒サレ殆ント發芽セサル迄ニ至レリ以テ見張人ノ忠實ナル窺ヒ知ルヘキナリ

以上ハ悠紀齋田奉賛會警備部ニ屬スル自治的警備方法ナレトモ、縣ハ夙ニ大正三年ニ於テ警察部警務課長警部森民重竝ニ安城警察署長田中信夫ヲ委員補助トシ、大正四年警察部警務課長警視古橋卓四郎、安城警察署長警部杉山善作ヲ委員及委員補助トシテ警備ノ監督竝ニ警戒ニ當ラシム。杉山警部ハ委員副長丸茂警察部長竝古橋警視ノ命ヲ承ケ專ラ警備ノ衝ニ當リ、警部補原再二、巡査部長稻住尙俊、同武澤常次郎等ト共ニ奉賛會警備部長山本幾太郎ト凝議ノ末、前記齋田及用水路ノ警備方法計畫ヲ立テタリ。而シテ警備ハ在鄕軍人會竝青年會員一般村民等之ニ當ルヲ以テ一名ノ警察官ハ常時監視竝指導ノ任ニ當リ其他風紀及雜沓取締ノ計劃ヲ立テタリ。

大正四年四月二十二日、安城警察署ニ於テハ齋田警備ニ關スル勤務規程ヲ左ヲ如ク定ム。

齋田警備勤務規程

第一條　齋田ノ警備ハ當分ノ內六ツ美村駐在員四名ヲシテ之ニ當ラシム

第二條　六ツ美村四駐在員ハ四日目毎ニ中島駐在所ニ至リ勤務ニ從事スルモノトス

第三條　警邏警察ノ區域ハ中島停車場ヨリ齋田ニ至ル迄ノ道路ト齋田ノ周圍及高橋用水路トス

第四條　警邏警察ノ際ハ概ネ左ノ事項ヲ注意スルヲ要ス

一　警備ニ從事スル青年會員及在鄕軍人竝ニ村民奉耕者ノ動靜ニ注意シ警戒員ニ付テハ其勤怠ヲ監視スルモノトス

一　附近竝ニ沿道ノ住民及ヒ拜觀人ヲシテ齋田灌漑用水ニ不淨行爲ヲ爲サシメサルコト

一　拜觀中地理、風俗、產業、敎育其他ノ事項ニ付テ問フモノアラハ懇切叮嚀ニ敎示スルモノトス

第五條　齋田ニ關スル取扱事項ハ細大洩サス電話報告シ機宜ノ處置ヲ執ルヘキ必要アルモノハ齋田事務所ト協議ノ上適當ノ措置ヲ取リ又ハ指揮ヲ受クヘシ。

第六條　中島安藤ノ住民ハ勿論六ツ美村民中傳染病ニ罹リ又ハ其疑アル患者ヲ發見シタル時ハ一面警察署ニ急報スルト同時ニ一面櫻井村駐在巡査ニ通報スルモノトス

第七條　學校職員生徒其他團體拜觀者ニ注意スヘキ必要アル時ハ引卒者ニ同行シ注意スヘシ

第八條　勤務員ハ常ニ服裝姿勢言語ヲ正シクシ最モ謹愼ニシテ敬禮ヲ誤ラサルヲ要ス

第九條　本規定ニ則リ勤務セシ事項ハ齋田ニ關スル日誌ニ詳記スルモノトス

第十條　日誌ニハ齋田ノ行事知名人士ハ勿論拜觀者ノ種類員數等ヲ記載スルモノトス

第十一條　齋田附近ニハ白痴、癲癇人、亂醉者及ヒ乞丐ニ紛ラハシキ徒ヲ近寄ラシメサルヲ要ス

第十二條　每日ノ警邏及ヒ警察ハ晝間三回夜間二回トシ左記ニ依リ從事スルモノトス

午前九時ヨリ　午後一時ヨリ　午後四時ヨリ

午後八時ヨリ　午前二時ヨリ

而シテ主トシテ此警邏ニ當リタル六ツ美村駐在所詰巡査ハ左ノ四名ナリ。

近藤庄太郎　鈴木新一　河合貴一　佐々外之助

始メ縣ハ大正四年五月中齋田經營竝ニ取締ノ必要上電話架設ノ必要アリトシ大禮ニ關スル臨時縣會ノ協賛ヲ經タル大禮費中ヨリ四百六拾參圓九拾錢ヲ支出シテ岡崎警察署ヨリ六ツ美村中島巡査駐在所ニ至ル警察電話ノ架設ヲ計畫シ五月二十三日工ヲ起シ、六月二日其竣工ヲ見タリ、右線路ノ延長二里十七町五十六間四尺、此設計竝架設ノ任ニ當リシハ警察部警務課勤務ノ警察技手大崎彦七ニシテ、縣ハ暴風警報ノ通達其他日常急速ノ通信ニ利便ヲ得タルコト勘カラス。

第六章　齋田耕種豫定

第一節　齋田作業豫定

悠紀齋田經營ニ關スル作業部タル縣立農事試驗場ニ於テハ前年度ノ實驗ニ鑑ミ山崎技師島村同場技師以下協議ノ上作業豫定ヲ左ノ如ク定メタリ。

四月十五日　標柱建設、竹矢來建替著手、忌竹注連繩、苗代打起塊碎及區劃設定、苗代肥料準備、苗代用農具類準備、用惡水路浚渫、氣象觀測開始、耕作人夫ノ選定

四月十六日　苗代整地及施肥農事試驗場ヨリ籾種交付

四月十七日　午前種子ノ鹽水撰ヲ行ヒ午後浸種ス翌日ヨリ日日水ヲ取換フ

四月十八日　本田打起及塊碎キ

四月二十日　竹矢來及門建替竣工、齋田內外清掃板式準備

四月廿一日　秧式

四月廿二日　午後種揚ケ、苗代代掻ノ上灌水、收納舍、農具舍建設工事著手

四月廿三日　播種當日ヨリ二日間灌水ノ儘トス

四月廿五日　實乾ヲ行フ晴天三日間繼續爾後ノ管理ハ凡テ作業方法豫定ニ從フ、發芽狀況調查

五月一日　蟲害豫察燈點火ヲ開始ス

五月十日　忌竹及注連繩取替

五月十三日　蛙除設簀取除

五月十五日　苗生育調查ヲ行フ附近苗代誘蛾燈ヲ點ス

五月二十日　螟蟲卵ノ摘採及捕蛾、苗生育調查播代手畔取崩

五月廿一日　本田畔塗ヲ行フ

五月廿五日　本田肥料準備（鰊粕五十貫、過燐酸石灰二十貫藁灰百貫）螟蟲卵摘採及捕蛾、苗生育調查

五月廿七日　本田耕作用農具類準備

五月三十日　螟蟲卵摘採及捕蛾、收納舍及農具舍、建築工事竣成

六月一日　用惡水路ノ浚渫

六月三日　本田打返ノ上灌水荒代掻ヲ行フ苗代雜草拔取

六月四日　本田施肥代掻、植付地割苗代螟蟲卵摘採及捕蛾、苗ノ調查、午後苗取及撰別、田植式準備、忌

六月五日　竹注連繩取替、畦畔草刈
六月六日　午前田植式、午後ヨリ挿秧ニ著手ス
六月七日　苗取撰別及挿秧
六月十日　午前中ニテ挿秧終了、午後跡片付ヲ行フ
六月十三日　螟卵摘採ヲ行フ
六月十六日　同上
六月十九日　同上
六月二十日　一番除草（雁行打）及生育調査ヲ行フ
六月廿一日　螟卵摘採及被害莖切取
六月廿四日　同上
六月廿五日　畦畔草刈
六月廿七日　螟卵摘採及被害莖切取
六月三十日　同上、生育調査
七月二日　二番除草ヲ行フ
七月九日　畦畔草刈
七月十日　三番除草、被害莖切取、生育調査、忌竹注連繩取替

七月二十日　被害莖切取、四番除草、生育調査
七月廿五日　畦畔草刈
八月十日　生育調査、畦畔草刈、收穫及調製用器具準備
八月十五日　忌竹注連繩取換
八月十七日　出穗始
八月二十日　畦畔草刈、生育調査
八月二十二日　出穗盛
八月廿五日　出穗終ル、被害莖切取
八月三十日　被害莖切取
九月五日　同上、落水シ田面ノ乾燥ヲ計ル畦畔草刈
九月十日　被害莖切取
九月十五日　豫察燈點火終了、生育調査
九月二十日　忌竹竝ニ注連繩取換、拔穗式準備
九月廿一日　拔穗式ヲ行ハル
九月廿四日　稻架ヲ準備ス
九月廿五日　成熟期、收穫ニ著手、架乾
九月廿六日　收穫及架乾

九月廿七日　架乾
九月廿八日　架乾
九月廿九日　扱落及籾調製
九月三十日　籾干
十月一日　籾干午後ヨリ夜ニ亙リ籾篩別及籾磨竝ニ玄米調製
十月二日　玄米調製及搗精
十月三日　搗精糠除及撰別
十月四日　搗精糠除及撰別
十月五日　糠除及撰別
十月六日　撰別
十月七日　同上
十月八日　同上
十月九日　同上
十月十日　同上
十月十一日　供納準備
十月十二日　縣廳ヘ送達

第二節　齋田作業方法豫定

而シテ同時ニ決定シタル作業方法豫定左ノ如シ。

種子　種子ハ農事試驗場ニ於テ採收セル純粹系統ノモノヲ用ヒ比重一、一四ノ食鹽水ニテ撰別シ充分洗滌シタル上直ニ浸種ス

浸種　清澄ナル水中ニ五晝夜浸漬ス、容器ハ木桶トシ時々水ヲ取換ヘ其都度籾ヲ攪拌シテ平等ニ飽水セシム播種ノ前日正午頃籾ヲ引揚ケ筵ニ入レタル儘室内ニ置キ微カニ幼芽ヲ萠出セシム

播種期　四月二十三日トシ雨天强風ノ場合ハ順延ス

苗代　肥料鰊粕及藁灰ヲ用ヒ蒔代一坪ニ付キ左ノ量ヲ用フ

鰊粕三合　藁灰三升

鰊粕ハ細粉トシ藁灰ハ三分目位ノ篩ニテ篩ヒ共ニ均等ニ撒布ス

苗代整地施肥　苗代ハ巾四尺ノ短冊形トシ周圍ニ低キ手畔ヲ設ケ相互ノ間隔二尺トス、整地ハ播種八日前(四月十六日)ヨリ行ヒ先土塊ヲ碎キテ均平シタル後區劃ヲナシ手畔ヲ作リ之レニ藁灰ヲ撒布シテ淺ク耕耙シ水ヲ灌キテ土ヲ練リ平鍬ニテ表面ヲ均シ鰊粕ヲ施シ小間淩ヲ以テ淺ク土ヲ掻キ再ヒ平鍬ニテ均ラシ少シク灌水シタル儘放置ス播種前日ニ至リ一旦排水シ小間淩ニテ淺ク掻キ更ニ鍬又ハ均シ棒ニテ充分均シタル上一寸許リ水ヲ湛ヘ翌朝ヨリ下種ス

苗代歩數及播種量　苗代ハ本田一段歩ニ付二十三歩ノ割合トシ一坪ニ付浸種後ノ籾二合ヲ播下シ竹箸ヲ

以テ種籾ヲ齊一ニ行キ渡ラシム

苗代灌排水　播種後三日間ハ稍深水ニ保チ種子ヲ萠芽スルニ至レハ毎日午前十時頃排水シ田面ヲ温メ發芽ヲ促進セシメ午後四時頃ヨリ成ルヘク溫キ水ヲ深ク灌漑ス、但シ雨天又ハ强風ノ日ハ終日深水ニ保タシム斯クスルコト十日許苗伸長スルニ至レハ常ニ淺ク灌水ス

本田整地　本田ハ四月中旬打起シ土塊ヲ碎キ置キ挿秧四五日前耡返シテ能ク刻ミ藁灰ヲ施用シ挿秧ノ前日灌水シテ一旦莞代掻ヲナシ鰊粕過燐酸石灰ヲ施シ再ヒ代掻ヲナシ區劃ヲ整定シテ挿秧ニ供ス

挿秧期　六月五日及六日トス

苗取撰別　苗ハ數本宛叮嚀ニ拔キ取リヨク根ヲ洗ヒタル後不良苗ヲ除去ス

挿秧株數及苗數　一坪ニ付五十四株（縦一尺横六寸六分七厘）一株ノ苗數八本

肥料　鰊粕過燐酸石灰藁灰ノ三種ヲ用フ其施用量左ノ如シ

一號田	鰊粕十一貫	過燐酸石灰五貫	
		藁灰二十貫	
二號田	同十一貫	同	
三號田	同八貫	同	
四號田	同七貫	同	

除草　除草ハ五回トシ左ノ時期ニ行フ

一番除草（雁爪打）　六月二十日

二番除草（手取）　七月二日

三番除草（同　）　七月十日

四番除草（同　）　七月二十日

五番除草（同　）　七月三十日

灌漑水　生育中ハ絶ヘス淺水トシ田面ヲ温メ肥料ノ分解ヲ促シ九月上旬ニ至リ落水シ各田ノ周圍ニ淺溝ヲ設ケテ田面ノ乾燥ヲ計ル

病蟲害ノ防除　苗代本田ヲ通シ病蟲ノ發生シ又ハ其前兆アリタル場合ハ最モ敏速ニ機宜ノ處置ヲナス、

稻螟蟲ニ對スル驅除豫防ノ豫定左ノ如シ

一移植十日前ヨリ六月三十日迄三日毎ニ苗代及本田ヲ巡視シ螟卵ヲ採集ス

一齋田ノ周圍凡ソ三十間以上ヲ離レタル處ニ數個ノ誘蛾燈ヲ具ヘ螟蛾ヲ誘殺シ且ツ他ニ便宜ノ個所ニ豫察燈ヲ點シテ螟蛾發生ノ時期程度ヲ檢ス

一六月二十一日ヨリ七月三十日迄ニ數回被害莖切取ヲ行フ

一八月二十五日ヨリ九月十日迄五日毎ニ被害莖ヲ切リ取ル

出穗成熟ノ豫定　出穗始八月十七日　出穗盛八月二十一日　穗揃八月二十五日　成熟九月二十五日

收穫　九月二十五日、二十六日ニ行フ其方法ハ各田ノ周圍道路ニ接シタル二三列ヲ除キ最モ優良ナル部分約一段五畝歩ヲ刈取リ一把十八株ツヽニ束ネ收納舍ノ前庭ニ運搬シ一段稻架ニ懸ク殘餘ノモノハ續イテ刈取リ齋田内ニ架掛ヲナス

扱落シ乾燥　架掛ハ三日間ニテ終リ扱落シ篩ヒタル後直ニ莚上ニテ籾乾ヲ行フ籾乾ハ晴天二日間トシ日

中數回手返ヲナス

籾磨、調製　籾乾ヲ終レハ直チニ籾磨ヲ行フ籾磨曰ハ從來形ノ木臼ヲ用ヒ其一番挽ノミヲ採リテ用ニ宛ツ

搗精　電力棒杵精米機ヲ用ヒ約二十時間搗精シ途中數回糠ヲ去ル

糠除撰別　搗精シタルモノハ白布ニテ作リタル長キ袋ニ約一升五合宛入レテ二時間許リ搖リテ糠ヲ去リ黒盆上ニテ撰別シテ不良米夾雜物ヲ除ク完成シタル白米ノ容量ハ一石五斗トシ白木造リノ櫃二個ニ收メテ保管ス

第七章　齋田祓式

第一節　祓式準備

玆ニ縣ハ齋田ノ耕作ニ著手スルニ先チ齋田地祓ノ式ヲ擧行スルコトニ決シ、悠紀齋田奉賛會ヲシテ之ヲ主催セシメントシ會長其他奉賛會役員ト協議シ曩ニ縣ノ委員會ニ於テ內定セシトコロニ基キ齋田地南方正門前ヲ以テ之カ式場ニ充テ祭壇竝幄舍ノ舖設ニ著手セシメタリ。

主基齋田ニ於テハ四月十六日祓式擧行、縣ハ委員補助屬藤岡長和ヲシテ之ニ參列ノ爲香川縣ニ出張ヲ命ス。四月十八日祓式式場視察ノ爲メ石口理事官、馬場屬、丹下技手、齋田地ニ出張シ奉賛會役員ト打合ヲ爲シ二十日ヨリ二十三日ニ亙リ、石口理事官以下庶務ニ從事シタル齋田委員ハ常ニ齋田地ニ在リテ企劃スルトコロアリ。

四月十五日祓式順序ヲ添エタル左ノ案內狀ヲ發送ス。

拜啓來ル四月二十二日午前十時三十分愛知縣碧海郡六ツ美村大字中島字上九ノ內大嘗祭悠紀齋田ニ於テ大嘗祭悠紀齋田祓式擧行候間御賁臨被成下度此段御案內申上候　敬具

大正四年四月十五日

悠紀齋田奉賛會長　正六位勳四等　井深基

殿

祓式順序

第一號砲　準備

祓所神座ヲ裝飾ス

第二號砲　式ノ開始

午前十時三十分祭官一同所定ノ座ニ著ス

次　來賓及奉仕者一同所定ノ座ニ著ス

（縱五寸四分橫三寸七分）

次 祓主祓詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次 齋官ノ一人大麻ヲ執リ同一人鹽湯ヲ執リ神籬神饌及來賓始齋官一同ヲ祓フ
次 降神ノ詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次 神饌ヲ供ス（此間奏樂）
次 齋主悠紀齋田祓祝詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次 齋主來賓以下玉串ヲ獻ス（玉串ハ齋官之ヲ附ス）
次 齋官二人大麻ヲ執リ左右ニ廻リ八箇所ニ於テ齋田ヲ祓フ
次 齋官二人鹽湯ヲ執リ左右ヘ廻リ八箇所ニ於テ齋田ニ祓フ
次 神饌ヲ撤ス（此間奏樂）
次 昇神ノ詞ヲ奏ス（此間一同敬禮）
次 齋主祭儀ノ畢レル旨ヲ來賓始一同ニ告ク
次 退出

注意 服裝ハフロックコート又ハ羽織袴、服制アル者制服著用アル者ハ之ニ相當スル制服著用ノコト

而シテ案内狀發送先左ノ如シ

農商務大臣　農商務次官
農產課長　有働同省技師
大禮使長官　大禮使次官
香川縣知事　同　縣内務部長
同綾歌郡長　同　主席郡書記
愛知縣知事　同齋田ニ關スル委員長
同委員補助　縣立測候所長
農務局長　農政課長
安藤同農事試驗場技師　有馬同省囑託
同典儀部長　同縣產業課長
同主席農業技手　同縣農務主任屬
同委員副長　同　委員
碧海郡選出貴衆兩院議員　縣會議長

同　郡部會議長　同　市部會議長
縣　農　會　長　同　副　會　長
碧海郡會議員　六ッ美村會議員
同村青年會長　同各支會長
同　副　會　長　碧海郡在鄉軍人會聯合分會長
縣内各新聞社社長　同支局主任
齋田用材料ノ主ナル寄附者其他

縣參事會員　碧海郡選出縣會議員
隣　郡　郡　長　隣接地町村長
碧海郡内町村長　六ッ美村各區長
同在鄉軍人分會長　碧海郡農會長
同通信社社長主任

尚大禮使長官、同次官、同典儀部長、農商務次官、農務局長、香川縣知事ニ對シテハ右會長ノ案内狀ノ外愛知縣知事ヨリ左ノ書面ヲ附シ、

拜啓陳者縣下ニ勅定ノ大嘗祭悠紀齋田ニ於ケル新穀栽培供納ノ義進行可致事ト相成祓式擧行ノ趣ヲ以テ悠紀齋田奉贊會長ヨリ別紙ノ通案内狀進達方申越ノ次第モ有之候間御臨場ノ榮ヲ得度此段得貴意候　敬具

而シテ農商務大臣ニ對シテハ會長ヨリ臨場願ヲ差出サシメ左ノ副申ヲ附シ進達セリ。

農發第一一九號

縣下ニ勅定ノ大嘗祭悠紀齋田ニ於ケル新穀栽培供納ノ義進捗可致事ト相成祓式擧行ノ趣ヲ以テ悠紀齋田奉贊會長ヨリ別紙ノ通臨場願進達方申出ノ次第モ有之候條御繰合御來縣相成候樣致度此段副申候也

愛知縣知事法學博士　松井　茂

大正四年四月十六日

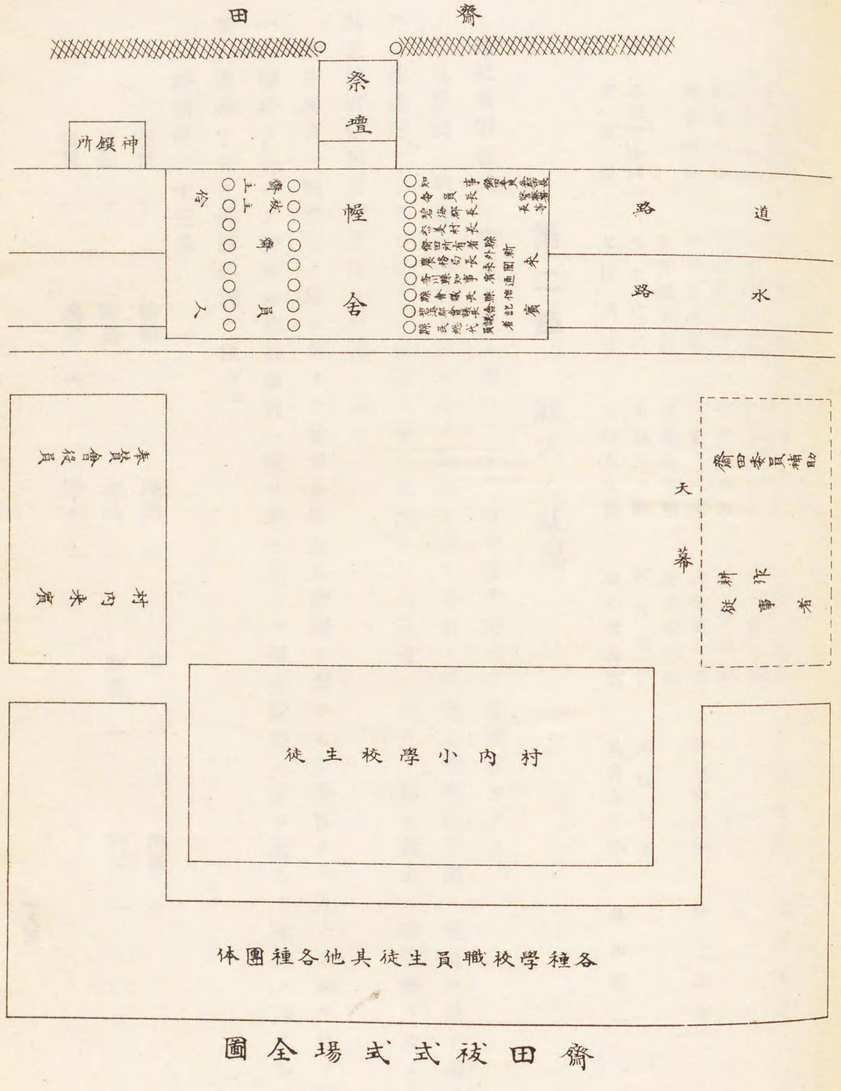
農商務大臣河野廣中殿

次テ縣委員ノ事務ノ日程竝ニ事務ノ分擔ヲ定ム、其分掌左ノ如シ

總務係	湯地内務部長	石口理事官	
	藤岡屬	角岡碧海郡書記	
接待係	澤田理事官	石口理事官	
	大槻屬	林農業技手	
受附係	都築農業技手	神谷農業書記	
式場係	井深碧海郡長	島村農事試驗場技師	山崎技師 馬場屬
	高橋農事試驗場技手	眞田農事試驗場技手	
新聞記者係	藤岡屬	岩槻農事試驗場技手	
寫眞係	丹下技手	古橋警部	
警備係	古橋警視	杉山警部	

而シテ奉賛會ニ於テハ別ニ左ノ諸係ヲ設ケ縣委員ト共ニ各般ノ設備接待ニ遺漏ナカランコトヲ期シタリ。其事務ノ分擔左ノ如シ。

接待係	角岡與吉	野々山卯三郎	早川龍介 鍋田恒雄
受付係	白岩久八	野村藤一郎	山岡種次郎 岡田勝次郎 杉田文九郎
式場係	渡部富右衞門	吉田鉄治	大村半一 新美長次郎 高木傳八 小林喜代三郎
新聞記者係	鵜野宇三郎	田中一巳	
警備係	山本幾太郎	志賀要吉	太田登喜次 山崎康一
神職係	伊奈增市	細井增太郎	高木傳八 市川善一郎 小林喜代三郎
鵜野宇三郎	畔柳善藏		
村内來賓係	杉浦藤助	畔柳廣吉	志賀逸造 杉田藤七 加藤梅三郎
	鈴木虎三郎		



齋田祓式式場全圖

耕作從事者係　清水伴　石川種吉　杉田文九郎　杉浦半藏　加藤惣吉
休憩所係　早川治三郎　大久保竹三郎　鳥山奥次郎
救護所係　竹田鎗太郎　中野直三郎　榊原勘助
宴會場係　岩井直三郎　中尾直一郎　近藤安次郎　早川瀧三郎　平井友市
講演會場係　米津榮次郎　神尾由五郎　鈴木竹三郎　河口乙吉
庶務係　長坂松二　稻垣秀二郎　村井猪作　鳥井太一郎　鳥居憲二
太田虎吉　二村久五郎　塚本常五郎

第二節　祓式ノ狀況

悠紀齋田祓式ハ豫定ノ如ク四月二十二日午前十時三十分開始シタリ。

此日齋田ノ南面正門前ニ白木造ノ祭壇ヲ設ケ其前ニ梁間七間桁行三間ノ幄舍ヲ建テ廻ラスニ注連繩ヲ以テシ地上ニ白砂ヲ布キ祭壇ニハ八足臺ノ備アリ、別ニ西方ニ神饌所ヲ設ク。其設備竝參列員配置概ネ別圖ノ如シ。

祭主來賓一同所定ノ座ニ著クヤ、祓主長坂社掌祓詞ヲ奏シ、次テ齋官ノ一人ハ大麻ヲ執リ同一人鹽湯ヲ執リテ神籬神饌及來賓一同ヲ祓ヒ、訖ルヤ祓主祭壇ノ前ニ進ミテ降神ノ詞ヲ奏シ次ニ奏樂ノ裡ニ神饌神酒ヲ供ス。

神饌總テ十三臺

和稻　一	荒稻　一	神酒　一	餅　一
川魚　一	野鳥　一	水鳥　一	海藻　一
生菓　一	菓子　一	鹽水　一	野菜　一
			海魚　一

神饌ノ傳獻訖ルヤ齋主神山社司神前ニ進ミ悠紀齋田祓式祝詞ヲ奏ス。

祝詞

此乃忌場乎又更爾拂比清米天伊豆莚彌佐伎敷豆忌竹刺林志端出繩引回良志伊豆乃神籬乎插樹天招奉利坐世奉流掛麻久母畏伎祓戸四柱乃大神等乃大前爾齋主縣社知立神社社司神山榮畏美畏美母白左久言卷母畏古加禮籾皇祖天神乃大御意乃隨爾此乃碧海郡六ッ美村大字中島乃御民勳七等早川定之助我所有流此乃田地乎以天大正乃今上陛下乃天日嗣乃高御座爾卽世給布禮典登共爾執行波世給布大嘗祭乃悠紀乃御齋田登卜倍定来志米給閉流事波古今爾比例無久尊志登母尊久芽出度登母愛度事乃極美爾奈母有介流故此郡此郷村乃光榮乃美奈良受廣久愛知縣乃名譽登縣知事郡長乎始米公民等諸爾至麻天深久厚久尊美奉利辱美奉利天入紐乃同心爾力乎協世天忌回利清回利乍端出繩引延忌垣結固米天八十日日波有禮籾今月乃今日乎生日乃足日登齋比定来天天津宮事乎以天傳給比敎給比流御法乃隨爾愼美敬比恐美恐美母祓清牟流事乎甘良爾間食志相諾比給比天各母各母分掌坐世稜威乃靈乎幸給比祓給比清米給比天今與利始天此乃地爾波穢止云布穢無久奉仕乎田人等爾罪登云布罪不令在春乃荒田乎打返須與利齋種蒔伎早苗採利玉苗植渡志田草取拔穗乃御儀爲行良流々爾至麻泥喪無久事無久令在給倍登御饌御酒鏡乃餠比乎始米海川山野爾生登志生布流雜々乃珍物爾堅鹽御水乎母取添横山如須置足波志天獻良久乎平介久安介久間食天幸久眞幸久守給比幸給倍登恐美恐美母白須

次テ玉串ノ奉奠アリ。其順序

悠紀地方長官（松井愛知縣知事）　齋主（碧海郡神職會長神山知立神社社司）

悠紀齋田委員長（代理石口理事官）　齋田所在郡長（井深碧海郡長）

齋田所在村長（早川六ッ美村長）　齋主基地方長官（代理岡本香川縣理事官）

農務局長（道家農務局長）　齋田所有者（早川定之助）

縣會議長（代理金原郡部會議長）　所在郡會議長（近藤碧海郡會議長）

縣内參列者總代（堀尾縣農會副會長）

次テ祓ノ行事アリ、齋官二人大麻ヲ執リ同二人鹽湯ヲ執リ各祭壇ヲ離レテ左右ヨリ齋田ノ四隅ヲ廻リ四周各二ケ所八箇所ニ於テ本田ヲ祓ヒ訖リテ奏樂ノ裡ニ神饌ヲ撤シ祓主昇神ノ詞ヲ奏シ、十一時五十分式ヲ閉チタリ。

式ニ奏仕セシ碧海郡神職會員ハ左ノ二十名ニシテ

神山　榮	長坂高太郎	牧　太刀太	牧　銀彌	牧　逆一	
牧　喜丸	赤堀孝次郎	久永章武	鈴木政治	鈴木宗義	
長坂正雄	小島　馨	神谷關三郎	神谷眞次郎	宮本竹治	
柘植能政	米津佐治兵衞	川喜田達次郎	伊豫田八十吉	近藤彦市郎	

式ニ參列シタル主ナル者ハ、道家農商務省農務局長、安藤同省農事試驗場技師、有馬同省囑託、岡本香川縣理事官、松井愛知縣知事、其他縣會議員、縣參事會員隣接郡長舊岡崎藩主本多子爵、稅務署長警察署長、縣郡公職者等ナリ。

式後式場ニ於テ松井知事ハ左ノ簡單ナル挨拶ヲ爲シ道家農務局長ヲ紹介ス。

本日ハ悠紀齋田ノ御祓ノ式カ目出度結了シマシテ眞ニ御同樣喜ハシイ次第ト存シマス諸君ノ御盡力ニ依ッテ縣廳側ト郡村ノ方トノ共同一致ノ實モ能ク擧リ悠紀齋田ノ用意モ結構ニ出來上リテ眞ニ喜ンテ居ル次第デアリマスカ

本日ハ愈々御祓式カ濟ンタノテ是カラカ本當ニ種蒔植付拔穗刈取等ヲ實行スルノテアツテ是迄ハ只用意ノ時代ニ外ナラナカツタノテアル故ニ今後ハ齋田ニ關係アル方々ハ益々一生懸命ニ身體ヲ大切ニシテ此目出度イ所ノ獻穀ノ責任ヲ完フスル樣ニ此上ナカラ充分ニ盡力ヲ願ヒタイト思フ

承ル所ニヨレハ昨年以來皆樣ノ盡力ニ依ツテ此村ノ青年ノ氣風モ大層善クナリ村勢モ頁好ニ向ヒツツアルト曰フノハ眞ニ欣悅ニ堪ヘナイ次第テアル殊ニ耕作者ハ郡內カラ評判ノ頁イ身體ノ丈夫ナ男女百人餘ヲ選ハレタト曰フコトテ眞ニ結構ナコトテアル又今日ハ態々道家農務局長閣下及主基地方長官代理岡本香川縣理事官竝本多子爵等カ此式ニ御出席下サレタノハ一同ト共ニ深ク感謝スル所テアリマス尙只今道家局長ニ御話ヲ願フコトニ致シマシタカラ御淸聽ニナリタイモノテアリマス私ハ是迄當地ヘハ度々來テ諸君ニハ屢々意見モ申述ヘテ居リマスカラ今日ハ別段何事モ申上ケヌ積リテアリマス以上折角ヲ目出度イ御祓式ニ臨ミマシテ悠紀ノ地方長官トシテ一言シタ次第テアリマス

次テ道家農務局長ハ大要左ノ如キ訓示ヲナシタリ

諸君今日ヲ以テ悠紀齋田ノ祓式ヲ擧行セラルルニ方リマシテ此嚴肅ナル式ニ參列スル事ヲ得タノハ洵ニ光榮トスル所テアリマス

御承知ノ通リ我皇室ニ於カレテ行ハセラルル所ノ大禮祭典ト米穀ノ關係ハ寔ニ密接ニシテ離ル可ラサル事ハ歷史ノ上ニ於テ明ナル事テアリマス、テ斯クノ如キ事モ畢竟スルニ報本反始ノ聖旨ニ基クノテアリマシテ又一ハ米ハ神明ノ作ル所ト云フ趣意テ卽チ此御趣意ヲ傳承セラレテ以テ此農事ノ改良發達ヲ御奬勵遊ハサレルノテアリマシテ卽チ此齋田ヲ設ケラレルノモ其趣意ニ外ナラヌノテアリマス、テ此度齋田ノ指定ヲ受ケラレタ所ノ本縣民ハ斯クノ如キ聖意ニ對シマシテ如何ニシテ報ヒラレルノテアリマセウカ惟フニ之レハ滿腔ノ誠意誠心ヲ以テ耕作ニ從事セラレ此新穀獻上ノ御用ヲ勤メラレルト同時ニ益々今後農事ノ改良發達ヲ圖ランケレハナラヌト思フノテアリマス本縣カ斯ノ如キ名譽ヲ擔ハレタト云フ事ニ就テ考ヘテ見マスルト此農事ハ寔ニ貴イモノテアリマス又重ンスヘキ產業テアリマシテ此事ニ就テ本縣ハ夙ニ農事上竝ニ敎育上ニ努力セラルル所カアツテ卽チ其結果トシテ斯ノ如キ名譽ヲ擔ハレル事ニナツタノテコサイマス

斯ノ如キ名譽ヲ擔ハレタ以上ニハ倘ホ其半面ニ於テハ重大ナル責任ヲ以テ居ラレル事ト信スルノテアリマス、テ此名譽ヲ完フスルニ當ツテ卽チ本縣ハ全國ノ中テ此名譽ヲ擔フタノテアリマスカ卽チ之レハ全國ニ向ツテ本縣カ農事上ニ模範タル事ヲ示スノテアリマス既ニ模範トナリ卽チ此齋田カ出來タ以上ハ各府縣ヨリ此齋田ノ狀況ヲ視察ニ參リマシテサウシテ善ヲ採リ範ヲ之レニ採ツテ以テ他縣カ又進ンテ往クノテアルト考ヘマス諸君ハ既ニ模範ト云フ事ノ抱負ヲ有タレテ名譽ヲ擔ツタ以上ハ今後益々此模範ヲ以テ進ンテ往カンケレハナラヌト思フノテアル

今度ノ名譽ヲ完フスルト同時ニ將來ニ於テ倘ホ此名譽ヲ完フスルノニハ將來モ戒シメナケレハナラヌ之レニ甘ンシテハ不可ヌト思フノテアリマス之レニハ何カ必要テアルカト云フタナラハ所謂官民一致シ協力シテ此農事ニ力ヲ盡スト云フ之レカ必要テアラウト思フノテアリマス又村ト致シマシテハ卽チ六ツ美村テ此村ハ名ノ如クニ既ニ協力一致ト云フ事ヲ現ハシテ居ルノテアリマス卽チ今回ノ此名譽ヲ完フスルニ於テ最モ必要ナルハ此協力一致ト云フ事テアル此村カ斯ノ如ク指定ヲ受ケタト云フ事ハ卽チ其結果テアル殊ニ本村ニ於テ共同一致ノ實ヲ既ニ示シテ居ルノハ此耕地整理テアル耕地整理ノ如キハ故鶴田翁ノ如キ他ニ卒先シテ此耕地整理ト云フモノヲ完成セラレタノテアル今日此村カ斯ノ如キ名譽ヲ負フノモ一ハ故鶴田君ノ力與ツテ大ナリト言ハンケレハナラヌ同君ハ必ス地下ニ於テ滿足セラレテ居ラフト思フノテアリマス倘ホ同氏ノ遺志ヲ繼イテ益々此本村ハ協力一致シテ風紀ナリ農事上ノ事ニ就テ力ヲ盡サレテ永遠ニ此名譽ヲ完フセラレン事ヲ切ニ希望スルノテアリマス又此齋田所有者テアリマス之レハ諸君御承知ノ通リ五千四百萬人ノ中ニ僅カ全國テ此齋田ノ指定ヲ受ケテ名譽ヲ擔フタ人ハ二人テアリマヌ一ハ卽チ此早川君テアリマス一ハ香川縣ノ綾歌郡山田村ノ岩瀨君テアリマス之レハ何レモ皆今日ニ於テ農事ニ精勵シ模範ヲ以テ任セラレテ居ル人テアリマセウ併シ乍ラ斯ノ如キ名譽ヲ擔フト云フ事ハ必ス一朝一夕ニ起リ卽チ祖先ノ遺志ヲ繼テ今日迄斯ノ如ク精勵セラレタ結果テアラウト思フノテアリマス此早川君ニ於テモ益々家政ヲ整ヘテ和合一致シテ永ク家名ヲ維持シ此名譽ヲ損シナイヤウニ之レヲ要スルニ今回ノ此名譽ヲ負ハレタト云フ事ハ卽チ本村竝ニ縣郡奉仕者ノ洵ニ名譽トスル所テアリマシテ卽

チ此本縣カ一致シテ農事上教育上ニ充分ニ力ヲ盡シテ此ノ譽ヲ完フスルト云フ事カ即チ皇室ナリ帝室ナリ聖旨ノ在ル所ニ副フ所以ト考ヘルノデアリマスカラ諸君ハ何ウソ今日ヲ記念トシテ尚ホ益々農事ノ改良發達風紀改發ト云フ事ニ御盡力アラン事ヲ望ミマス

今日ハ斯ノ如キ盛大ナル式典ニ列シマシテ寔ニ御同慶ニ存スル次第デアリマス玆ニ聯カ所感ヲ述ヘテ御喜ヒニ代ヘタ次第デアリマス

式ノ終了ト共ニ奉賛會ハ村社八幡社境内ニ宴會場ヲ設ケ來賓ニ午餐ヲ呈シ席上井深碧海郡長ハ奉賛會ヲ代表シテ簡單ナル挨拶ヲ爲シ尚來賓一同ニ祓式記念繪葉書ヲ配付シ其他郡農會、村農會等ニ於テモ印刷物ヲ贈呈シタリ。

尚同日午後一時ヨリ同村崇福寺ニ於テ開カレタル齋田講演會ニ就テハ第八章ニ於テ記述スルトコロアルヘシ。

第三節　祓式ニ於ケル警備及救護所

祓式ニ於ケル警備ハ在鄉軍人會青年會等ヲ督シテ奉賛會警備部之ニ當リ、縣ハ之ニ警部補一名、巡査部長一名、巡査拾參名ヲ配シ西尾鐵道中島驛ヨリ齋田ノ南方祓式式場ニ至ル各要部ノ警戒取締ニ當リ古橋警視專ラ式場ノ整理ニ從ヘリ。

當日ハ農商務省道家農務局長以下官公吏百數十名、縣郡會議員、各種學校職員生徒等約千名一般拜觀者三千五百名ニ上リシモ齋田地附近ハ縱橫ニ道路ノ通スルアリテ行通上混雜少ナク、事故ノ發生亦從ツテ皆無ナリキ。而シテ拜觀ノ群集ハ午後二時ニ至リ靜肅ニ退散シ平常ニ復シタルヲ以テ取締配置員ヲ解散セシム。

之ヨリ先、縣ハ祓式ニ際シ遠近ヨリ參觀者ノ來集スルモノ多ク雜踏ヲ來スヘキヲ慮リ日本赤十字社愛知支部ニ救護班ノ派遣方ヲ要求シタルニ同支部ハ救護醫員北川錠次郎、救護書記新田義比、救護看護婦大橋しずゑ稻垣いなヲ派出シ同村崇福寺門前ニ天幕張救護所壹ケ所ヲ開設シタリ。然ルニ夜來降雨アリシヲ以テ拜觀者比較的少ク被救護者ハ僅カニ腦貧血症小學校生徒男一名郡立農蠶學校生徒一名胃加答兒症同校生徒一名都合三名アリタルノミ。

第八章　齋田ニ關スル講演會

第一節　講演會ノ開催

大禮ニ關スル梗概ヲ說示シテ我國體ノ重ンスヘキヲ說クト同時ニ、悠紀齋田ノ勅定ヲ記念シ各種產業ノ開發ヲ計ランガ爲メ齋田ニ關スル講演會ヲ各地ニ開催セントスルノ計畫ハ既ニ大正三年三月中ニ成立シ開催ノ日時モ講師モ確定シ居タリシニ竟ニ中止ノ已ムナキニ至レルコトハ前編第七章第一節ニ述ヘタリ。

玆ニ諒闇明クルト共ニ同一ノ趣旨ニ基キ講演會ヲ開催スルコトトナリ、農商務省ニ對シテ講師ノ派遣ヲ求メ、竟ニ左ノ各所ニ於テ講演會ノ開催ヲ見ルニ至レリ。

第一日（四月二十一日午後一時）　會場　愛知縣會議事堂

演題及講師　齋田ト農業　有馬農商務省囑託
　　農事ノ改良　安藤農商務省農事試驗場技師
聽講者　名古屋市及愛知東西春日井各郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者約三百五十名
第二日(四月二十二日午後一時)　會場　碧海郡六ツ美村崇福寺
演題及講師　同　上
聽講者　被式ニ參列シタル縣内外ノ公職者竝ニ碧海幡豆郡ノ農業者學校職員生徒約五百名
第三日(四月二十三日午後一時)　會場　渥美郡役所
演題及講師　同　上
聽講者　豊橋市及ヒ渥美八名寶飯各郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者約三百五十名
第四日(四月二十四日午後一時)　會場　額田郡岡崎町公會堂
演題及講師　同　上
聽講者　額田郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者及縣立農林學校上級生徒約八百名
第五日(五月二十九日午後二時)　會場　海部郡津島町淨蓮寺
演題及講師　同　上
聽講者　海部郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者約四百名
第六日(五月三十日午後一時)　會場　中島郡一宮町公會堂
演題及講師　同　上

聽講者　中島丹羽葉栗各郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者約三百名
第七日(五月卅一日午後一時)　會場　知多郡半田町高等小學校
演題及講師　同　上
聽講者　知多郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者約四百名
第八日(六月一日午後二時)　會場　西加茂郡擧母町郡會議事堂
演題及講師　同　上
聽講者　西加茂郡ノ官公吏郡立農學校其他職員生徒及一般農業者約八百名
第九日(六月二日午後一時)　會場　南設樂郡新城町高等小學校
演題及講師　同　上
聽講者　南北設樂八名各郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者約千三百名
第十日(七月二十七日午後一時)　會場　北設樂郡田口町第八回立誓式記念會々場
演題及講師　齋田ト農業　有馬農商務省囑託
聽講者　北設樂郡ノ官公吏學校職員生徒及郡内青年會員約四百名
第十一日(七月二十九日午前十時)　會場　北設樂郡稻橋村壽常高等小學校
演題及講師　同　上
聽講者　北設樂郡西部各村公職者學校職員生徒一般農業者約三百名
第十二日(七月三十日午後一時)　會場　東加茂郡役所

演題及講師　同　上

聽講者　東加茂郡ノ官公吏學校職員生徒其他農業者約三百名

右講演會ノ開催ニ付テハ山崎、岩本ノ兩技師、交代講師ニ同行シテ開會ノ趣旨ヲ述ヘ、大槻屬、林農業技手、神谷、三輪農業書記交代之ニ隨行セリ。

第二節　各講師ノ講演

前節ニ於ケル講演會ノ講演中四月二十二日齋田地ニ於ケルモノノ速記ヲ左ニ揭ク。

農商務省囑託　有馬賴寧

齋田ト農業

私カ只今御紹介ヲ頂キマシタ有馬ト申ス者テコサイマス今日祓式ガ擧行ニナリマシテ此御目出度イ日ニ於キマシテ而カモ齋田ノ所在地テアル所ノ當六ツ美村テ以テ齋田ニ關係ノ有ル所ノ御話ヲ致シマスト云フ事ハ私ニ取リマシテ最モ光榮トスル所テコサイマス。

併シ乍ラ私ハ之レニ關シマシテ深イ所ノ研究ヲ致シタノテコサイマセヌカラシテ皆樣ノ御參考ニナリマスヤウナ御話ノ出來ナイノヲ深ク遺憾トスル所テゴサイマス唯齋田ニ關係致シマシタ事ノ概略ヲ述フルニ止メタイト思ヒマス且ツ時間モ甚タ短クアリマシテ到底詳シイ事ヲ御話スルタケノ遑カコサイマセヌカラ其邊ハ御許シヲ願ヒタイト思フノテコサイマス。

演題ニハ「齋田ト農業」ト認メテコサイマスケレトモ私ノ申上クル事ハ大嘗祭ノ一般ニ就テ御話ヲシタイト存シマス時間カコサイマセヌカラ大嘗祭ノ中ノ主モニ齋田ニ關係致シマシタ事即チ農業ト關係ノ有リマスル分タケ掻撮ンテ御話ヲ致シタイト存シマス幸ヒニ時間ノ餘裕カコサイマシタナラハ之レヲ擴メマシテ皇室ト農業ト云フヤウナ事ヲ少シ御話シテ見タイト思フノテコサイマス。

初メニ此講演ノ趣旨ヲ一寸申上ケタイト思ヒマス。

大嘗祭ト云フ御祭ハ　天皇カ卽位ノ禮ヲ御擧ケニナリマシテ後ニ引續イテ行ハセラルル所ノ　天皇御一代ニタツタ一度ノ最モ大切ナル所ノ御祭テコサイマス併シ之レハ單ニ皇室計リノ御祭典テアルハカリテナク吾々日本國民全體カ慶賀セナケレハナラヌ所ノ最モ大切ナ御祭テコサイマスカラ日本ノ國民ト致シマシテ此皇室ノ御祭典テアル所ノ大嘗祭ノ事ヲ知ルト云フ事ハ大イニ必要ナ事テハナカラウカト思フノデコサイマス特ニ當愛知縣ハ此大嘗祭ト最モ關係ノ深イ所ノ齋田ヲ選定ニナリマシタ所ノ最モ名譽アル縣テアリマスカラシテ其縣ニ籍ヲ置カレマスル所ノ皆樣ハ他ノ府縣ノ方々ニ比較ヲ致シマシテ更ニ大嘗祭ト云フモノト密接ノ關係ヲ御有チニナツテ居リマスカラシテ此齋田ノ事ニ就テ多少ノ事ヲ御承知ニナル事ハ又必要テアラウト思フノテコサイマス特ニ此大嘗祭ト申シマスル御祭ハ全ク農業ニ關係ヲ致シマシタ御祭テコサイマスカラ農業ニ從事ヲ爲サル所ノ皆樣ニ取リマシテハ最モ深イ所ノ因緣ノ有ル御祭テアルノテコサイマス

大嘗祭ノ御話ヲ致シマスル前ニ當リマシテ皇室ニ於テ行ハセラルル澤山ノ御祭ノ中ニ昔ヨリ農業ニ關係ノ有ル御祭ト云フモノカ澤山ニ在ルノテコサイマス卽チ祈年祭、神嘗祭、新嘗祭、大嘗祭、祈雨祭、祈晴祭等テ祈年祭ト申シマスルハ之レハ「トシゴヒノマツリ」ト申シマシテ昔ハ毎年二月ノ四日ニ行ハレルノカ例テアリマシタカ只今ハ二月ノ十七日ニ行ハセラルル事ニナツテ居リマス此御祭ハ又春ノ御祭ト申シマシテ之レハ其年ノ農業カ恙ナク行ハレテ國民ノ食糧テアル所ノ米カ充分ニ取レルヤウニト御祈リニナル所ノ御祭テコサイマス之レハ非常ニ古ク神代カラ行ハレテ居ル所ノ御祭テアルノテコサイマス次ノ神嘗祭ハ皆樣モ御承知ノ通リ其年ニ取リマシタ所ノ新シイ所ノ米ヲ他ノ神々ニ捧ケマスルニ先チマシテ先ス天照大神ノ在マス所ノ伊勢ノ大神宮ニ捧ケマシテサウシテ其年ノ農業カ神サンノ御助ケニ依ツテ終了スル事カ出來タト云フ事ニ就キマシテ親シク神サンニ御禮ヲ爲サイマス所ノ御祭テコサイマシタカ只今ハ十月十七日ニ行ハセラルルノテコサイマス其次ハ御承知ノ新嘗祭テコサイマス之レハ其年ニ出來マシタ所ノ米ヲ天照大神ヲ始メ總テノ神々ニ御捧ケニナリマシテサウシテ神ニ御恩ヲ御謝シニナル所ノ御祭テコサイマス其次カ卽チ大嘗祭テ此事ハ更ニ詳シク後テ申上ケマス

以上三ツノ外ニ昔ハ農業ニ關係ノ有ル所ノ祭カ此外ニモ澤山在ツタノテコサイマスカ只今存續シテ居ル所ノ御祭

ハ以上三ツテコサイマス現今ハサウ云フ事ハコサイマセヌケレトモ昔ハ旱天カ續キマシテ雨ヂ非常ニ希望シマスル時又ハ雨カ非常ニ降リマシテ晴レヂ希望致シマスル時トカ國民等ハ神樣ヘ或ハ雨ヂ祈リ或ハ晴ヂ祈ルト云フ事ハ各地ニ行ハレタノテアリマス之レハ今日テモ行ハルヽカ昔ハ特ニ其事カ多カツタノテアリマス之レハ單ニ國民ノミナラス皇室ニ於カレマシテ　天皇カ自ラ神樣ニ雨又ハ晴ヂ御祈リニナツタト云フ事ハ歷史ノ上ニ見ヘテ居ルノテコサイマス皇極天皇ノ如キハ　天皇ノ四年ニ旱天カ非常ニ續イテ人民カ雨ラ祈ル事カ非常ニ切ナルモノカアツタノテコサイマス然ルニ　天皇ハ自ラ川邊ニ御出テニナツテソウシテ天ニ向ツテ自ラ雨ヂ御祈リニナツタノテコサイマス然ルニ神モ之レニ感應ニナリマシテ其後雨カ引續イテ降リマシテ爲メニ人民ハ非常ニ悅ンテ夫レカラ皇極天皇ノ事ヂ至德天皇ト申シタト云フ事カ歷史ノ上ニ見ヘテ居リマス

斯ノ如ク皇室ニ於テ行ハセラルル澤山ノ御祭ノ中ニ農業ノ關係ノ在ル御祭ハ卽チ農業ノ奬勵農業ノ保護及ヒ農民チ慈ミ給フ所ノ御心カラノ御祭カ澤山ニ在ルノテコサイマス玆ニ御話致シマスル大嘗祭ト云フ事モ全ク此農業ニ關係ノ有ル所ノ御祭テコサイマス

大嘗祭ト云フ御祭ハ何ウ云フ御祭テアルカト申シマスルト云フト大嘗祭ハ前ノ新嘗祭ト全ク同一ノモノテコサイマシテ新嘗祭ハ每年行ハレルノテコサイマスケレトモ大嘗祭ノ　天皇御一代ニ一ツ又ハ一度ノ最モ大切ナル所ノ御祭テコサイマス

此ニツノ齋田カラ出來マシタ所ノ米ヂ持チマシテ　天皇カ自ラ之レヂ神々ニ御捧ケニナリマシテサウシテ神ニ其恩ヂ謝セラレルト云フ所ノ最モ大切ナル御祭テコサイマス

此大嘗祭ト云フ御祭ハ何時頃カラ始マツテ而シテ何フ云フ風ニ變遷ヂ經テ來タモノテアルカト云フ事ヂ極ク簡單ニ申上ケマス大嘗祭ノ起源ハ何時頃テアルカト云フ事ハ非常ニ古イ事テアツテ容易ニ夫レヂ知ル事ハ出來ナイノテコサイマス昔ハ此大嘗祭ト新嘗祭ト云フモノニ就テハ少シノ區別カ無カツタノテアリマス大嘗新嘗共ニ之レヂ新嘗ト云ヒ少シノ差別ト云フ事カ無カツタンテアリマス大嘗祭ト云フ字ヂ見ルヤウニナリマシタノハ天武天皇ノ時代テアリマス夫レカラ長イ間此ノ大嘗祭ト云フモノハ　天皇ノ御卽位ニ就キマシテ必ス行ハセラレテ居ツタノテコサイマス始メハ非常ニ此御祭ト云フモノハ質素ニ行ハレタノテアリマスカ藤原氏時代ニ世ノ中カ非常ニ奢侈ニ流レタ時ハ此大嘗祭ト云フモノモ非常ニ奢侈ニナリマシテ多クノ金ヂ費シタ爲メニ人民カ非常ニ苦シンタト云フヤウナ事カアリマシタ其時ニ關白カ特ニ陛下ニ申上ケテ大嘗祭カ續ク爲メニ人民カ困難ヂスルカラ質素ニ行ハセラレン事ヂ願ツタト云フヤウナ事モコサイマシテ神代カラ引續キマシテ長イ間衰ヘス行ハレマシタ所ノ此大切ナル大嘗祭モ武家カ勢力ヂ得マシテ兵馬ノ權モ總テノ權力ト云フモノカ朝廷ヂ離レテ幕府ノ方ニ移ツタ時ハ朝廷非常ニ御衰微ニナツテ大嘗祭ヂ行ハセラルル御費用スラモ之レヂ得ラレル事カ出來ナカツタノテコサイマス最モ大切ナル卽位ノ禮ハ　天皇カ御卽位ニナツテカラ二年或ハ三年ノ後ニ於テ始メテ行ハレルト云フ風ニ御衰微ニナツタノテコサイマス隨ツテ大嘗祭ノ如キ長イ間行ハレル事カ出來ナカツタノテコサイマス或時ハ攝政關白カ僅ナ所ノ金ヂ獻上致シマシテ其金ニ依ツテ辛ウシテ大嘗祭ヂ行ハレタト云フ事カコサイマス又大嘗祭ノ費用ヂ全國ニ課セラレテ全國カラ金ヂ集メラレタ事カコサイマス併シ乍ラ一般ノ國民ハ幕府在ツテ朝廷在ルヂ知ラヌ時テアリマシタカラ此最モ大切ナル大嘗祭ノ費用ヂ獻上スル事スラモ拒ンタ事カコサイマス

斯ノ如クシテ此最モ大切ナル大嘗祭ハ二百二十餘年間打絕ヘテ行ハセラレナカツタノテコサイマス此等ノ事ハ今日吾々カラ考ヘテ見マシタナラハ實ニ畏レ多イトモ何トモ申シヤウノ無イ事テコサイマス後土御門天皇ノ時カラ東山天皇ノ時迄二百二十二年ト云フ長イ間大嘗祭ハ打絕ヘテ行ハレナカツタノテコサイマシタカ東山天皇ノ時此御大切ナル大嘗祭カ始メテ行ハレタノテコサイマス此時ハ皇室ニ於カレマシテ大嘗祭ハ最モ必要テアルト云フ事チ御氣付ニナツテ……御氣付ニナツタト云フハ可笑イテスカ是非遣ラナケレハナラヌト云フ事ニ御氣ヂ付ケニナツテ卽位ノ禮ニ要スル費用ノ一半ヂ割イテ大嘗祭ノ禮ヂ行ハレタノテアリマス當時勢力有ル幕府ニ獻金ヂ望マレルハ朝廷ノ恥テアル幕府ノ力ヂ借リテ此大典ヂ行フハ皇室ノ威嚴ニ關スルト云フノテ幕府カラ金ヂ借リル事ヂ御嫌ヂ害シ其次ノ中御門天皇ノ時ハ此大嘗祭ト云フモノカ又行ハレナカツタノテコサイマス然ルニ其次櫻町天皇ノ時ヨリ此大切ナル大嘗祭ト云フモノカ再ヒ行ハレマシテ今日迄續イテ打絕ヘヽ行ハレル事ニナツタノテアリマス此大切ナル大嘗祭ノ復興ト云フ事ニ就テハ將軍德川吉宗カ非常ニ盡力シタト云フ事テコサイマス

昔カラ此大嘗祭ノ制度、大嘗祭ノ行ハレルニ就テハ何ニ依ツテ行ハレタカト云フト卽チ大寶令テコサイマス續イテ平安朝ノ時代清和天皇ノ御代ニ貞觀儀式ト云フモノカ御制定ニナリマシテ其後ハ主モニ此貞觀儀式ト云フモノニ依ツテ此大嘗祭ハ行ハレタノテコサイマス進ンテ醍醐天皇ノ御代ニ延喜式ト云フモノカ御制定ニナリマシテ明治天皇ノ御代マテハ主モニ貞觀儀式ト延喜式ニ依ツテ此大嘗祭ト云フモノハ行ハレテ來タノテコサイマス併シ乍ラ時勢ノ進ムニ連レマシテ昔ノ通リ總テ行ハレルト云事ガ困難テアリマシテ其結果御定メニナリマシタノガ卽チ登極令テコサイマス登極令ハ明治四十二年二月ニ御發布ニナツタノテコサイマシテ今日行ハレル所ノ卽位禮及大嘗祭ト云フモノハ卽チ此明治天皇ノ御定メニナリマシタ登極令ニ依ツテ行ハセラレルノテコサイマス

先ツ一番最初ニ大嘗祭ハ幾日ニ行ハセラルルカト云フ事ヲ御定メニナリマシテ之レハ先日來新聞ニ出テ居ルカラ皆樣モ既ニ御承知ノ事ト思イマスカ幾日ニ卽位ノ禮幾日ニ大嘗祭ヲ行フト云フ事カ御定マリニナリマスト其事ヲ宮中ニ在ル所ノ賢所、皇靈殿、神殿ト云フ三ツノ御社ニ御告ニナリ勅使カ伊勢神宮及神武天皇ノ山陵竝ニ光格仁孝孝明、明治ノ前四帝ノ山陵ニ參向ニナツテ此事ヲ御奉告ニナルノテコサイマス

大嘗祭ノ一般ニ就キマシテ申上ケレハ殆ト際限ノナイ非常ニ長イ事ニナリマスカラ私ハ唯農業ニ關係アル齋田ノ事ノミ申上ケマスカ悠紀、主基ト云フ此二ツノ齋田ハ何ウ云フ風ニシテ定マルカト申シマスト登極令ノ內ニ齋田點定ノ儀ト云フカコサイマス之レハ登極令ニハ齋田ハ單ニ之レヲ勅定スルトコサイマシテ何ウ云フ方法ニ依ツテ此齋田ヲ定メルト云事ハ別ニ御定メニナツテ居ラナイノテコサイマス併シ乍ラ昔カラ此齋田ヲ御定メニナル所ノ方法ハ或ルトノ方法ニ依ツテ御定メニナルノテコサイマス之レモ龜トノ仕方ノ極ク大體ヲ申シマスト云フト龜ノ甲羅ヲ取リマシテ夫レヲ火ニ炙リマス所ノトノ法ニ照ラシ合セマシテ夫レニ依ツテ悠紀、主基ノ二ツノ國ハ龜トノ法ニ依ツテ卜定ニ鏡ノヤウニ綺麗ニ表面ヲ研キマシテサウシテ一方ニ圖ノヤウナ形ノ四ヲ作ルノテアリマス夫レヲ竹ニ挾ミマシテ波々迦ト申シマスル所ノ櫻ノ一種ノ木カコサイマス其木ヲ燒キマシテ其木ノ上ニ此龜ノ甲ヲ翳シマシテ此凹ノ關係カラ此裏側ノ方ニ種々ノ形ノ龜裂ヲ生スルノテコサイマス其龜裂ヲ昔カラ傳ハツテ居リマス所ノトノ法ニ照ラシ合セマシテ夫レニ依ツテ悠紀主基ノ二ツノ齋田ヲ何處ノ國ニスルカト云フ事ヲ御定メニナルノテコサイマス之レヲ

司ル所ノ人ヲト部氏ト申マス只今テモト部氏ト云フ姓ノ在ルハ斯フ云フトノ事ニ携ハル家テコサイマス之レヲ行ヒマスハ何處テアルカト申マストト神殿テ先程申シマシタ如ク宮中ニハ三ツノ御社カ在リマシテ中央ニアリマスノカ賢所ト云ツテ天照大神ヲ御祀リスル宮テ在リ左ノ方ハ皇靈殿ト申シマシテ皇室ノ御代々ノ天皇ヲ御祀リスル宮テ右ノ方ニ神殿ト申シテ總テノ天神地祇ヲ御祀リニナツテ居ル御宮カコサイマス只今ノ登極令ニハ齋田點定ノ儀トコサイマスカ昔ハ此事ヲ國郡ト定ト云ツタノテコサイマス卽チ悠紀、主基ノ二ツノ國ハ龜トノ法ニ依ツテ卜定ニナルノテコサイマス一番初メニ大嘗祭カ行ハレタ所ノ先程申上ケマシタ天武天皇ノ時ニ點定ニナリマシタ所ノ齋田ハ何處テアルカト申シマスト其一ツハ卽チ悠紀ノ方ハ尾張國ノ山田郡、主基ノ方ハ丹波國訶沙郡ト云フ所テコサイマス大嘗祭ノ一番初メニ行ハレタ時天武天皇ノ時悠紀ノ祭田トシテ點定サレタノハ尾張愛知縣テアルト云フ事ハ當縣カ大嘗祭ト離ル可ラサル關係ヲ有ツテ居ル一ツノ好イ例テアルト思フノテコサイマス其後代々ノ天皇ノ時ニ行ハレマシタ所ノ大嘗祭ノ齋田ハ時代ニ依ツテ各々國カ違ツテ居リマシテ東ノ方ハ遠ク遠江、西ノ方ハ備中ニ迄及ンテ居ルノテコサイマス澤山ノ齋田ノ中ニ當愛知縣ニ關係ノ有リマスルノハ三ツ程コサイマス卽チ天武天皇ノ時ノ尾張國ト光格天皇ノ時ノ三河國幡豆郡ニ齋田カ點定ニナツタノテコサイマス醍醐天皇ノ時カラ悠紀ハ近江國、主基ハ丹波備中ト云フ事ニ御定メニナツテ了ツタノテコサイマス夫レテアリマスカラシテ醍醐天皇カラ後ハ外ノ國ニ齋田カ選定ニナツタ事ハ無イノテコサイマス明治天皇ノ時ニハ卽位ノ禮ハ京都テ行ハレマシタケレトモ大嘗祭ハ明治四年ニ東京皇城內ノ吹上御苑テ行ハレタノテコサイマス隨ツテ齋田ハ東京チ中心ト致シマシテ東及ヒ西ノ二ツノ地方ニ點定ニナツタノテコサイマス

基ニ選定ニナツタノテコサイマス

夫レカラ悠紀、主基ト申シマスル二ツノ言葉ノ意味ハ何テアルトト云フ事テアリマシテ主基ト云フ事ハ卽チ忌ミ清メルト云フ事テコサイマシテ何レモ清淨ト云フ事テコサイマス昔ハ悠紀、主基ト云フ事ニ就テ種々ノ字カ用キラレテ居ツタノテコサイマス悠紀チ齋紀、由貴、由機等ト書キ主基チ須岐、須貴、須機、次等ト書イタノテコサイマス主基ノ方ニ「次」ト云フ字カアリマスルカラ或人ハ主基ノ方ハ悠紀ニ次クモノテアルト云フ訛チ爲ス人カコサイマスカ之レハ單ニ主基ト云フニ「次」ト云フ字チ用キタ

ト云フタケテ別ニ主基ノ方ハ輕イト云フ意味デハナイノデコサイマス

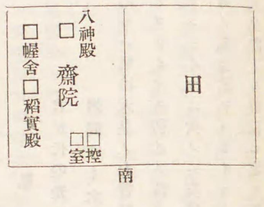
悠紀主基ヲ定メマス所ノ方向ハ何ウ云フ風ニ定マルカト申シマスト登極令ニコサイマス通リニ大嘗祭ヲ行ハセラルル所ノ土地ヲ中心ト致シテ東及ヒ南ノ地方ヲ悠紀トシ西及ヒ北ノ地方ヲ主基トスルト云フ事ニナツテ居リマス併シ乍ラ昔カラ悠紀主基東西ト云フ事ハ之レハ顯側シテ居ルヤウナ事モ其例カ二三アルノデコサイマス先程申シマシタ明治天皇ノ時ノ悠紀主基ハ丁度其例デアリマシテ甲斐ノ方ハ主基ニ方ルノデアルガ甲斐ノ方カ悠紀ニナツテ居リマス而シテ安房ノ方ノ東ニ方ル方カ却ツテ主基ニナツテ居リマス併シ登極令ニハ只今申シタヤウニ定マツテ居ルカラ今後ハ東西カ顛倒スルヤウナ事ハ無カラウト思ヒマス別ニ之レハ間違ツテ居ルト云フ事デハナク東西カ顛倒シテ居ルト云フ御話ニ過キナイノデアル

齋田ノ大キサハ何ノ位デアルカト申シマスト今回ハ當縣モ四段歩香川縣モ約四段歩ニ少シ多イノデコサイマスカ昔ハ三段歩テアツタ事モアリ又六段歩モアツタ事モコサイマス齋田ニハ控田ト云フモノカコサイマシテ今日ノ如ク農業カ進歩致シマシテ洪水ノ虞レトカサウ云フ風ノ事カ段々ニナクナリマシタカラシテ其必要ハコサイマセヌケレトモ昔ハ隨分危險カコサイマシタカラシテ此控田ト云フモノカ多少必要テアツタノデコサイマス或時ハ洪水ノ爲メニ此齋田ガ流レテ了ツタト云フヤウナ事モアルノデコサイマス明治天皇ノ時ニハ甲斐ノ國ノ方ニハ控田カコサイマシタケレトモ安房ノ國ニハ此控田カ無カツタノデコサイマス而シテ安房ノ方ハ御選定ニナラナカツタルノデコサイマス

時ニハ此控田ト云フモノハ御選定ニナラナカツタルノデコサイマス

齋田ニ關係致シマシタ最モ必要ナル所ノモノハ卽チ拔穗式デコサイマス拔穗使カ帝室カラ差遣ニナリマシテ拔穗使カ齋田ノ側テ式ヲ行ハレルノデコサイマス此拔穗使ニ來ラレル所ノ人ハ昔ハ中納言位ノ人カ見ヘマシタ明治天皇ノ時ハ大嘗典カ見ヘテ居ルノデコサイマス卽チ只今テ申シマスレハ掌典長ト云フヤウナ位置ニ相當サレル人テアラウカト思フノテアリマス之レヲ以テモ如何ニ拔穗式ト云フモノカ大切ナ祭リテアルカト云フ事ヲ知ル事カ出來ルノテアリマス

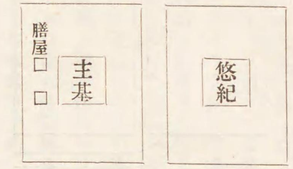
拔穗式ト云フモノハ何處テ行ハレルカト申シマスト私ノ申シマスル事ハ今迄ノ例ヲ申上ケルノデコサイマスカラ今回行ハセラルル事カ私ノ申上ケル通リテアルト云フ譯テハコサイマセヌカラ其御積リテ御聽キヲ願ヒタイト思ヒマス圖ノ如ク齋田ノ隣リニ齋院ト申シマスル所ノ僅カ計リノ土地カ設ケラレマシテ之レハ約三畝歩計リテコサイマス拔穗ノ式カ行ハレル所ハ卽チ此齋院ノ內テコサイマシテ齋院ニ出來マス所ノ建物ハ正面ニ在リマスルハ八神殿ト申シマシテ其外幄舍稻實殿及ヒ右方ニ在ルハ外ノ者ノ控ヘテ居リマスル控室テアリマス夫レテ拔穗式ト云フモノハ何ウ云フ風ニシテ行ハレルカト申シマスルト拔穗使カ到著サレテ休憩サレル所カコサイマス今回ハ行ハレマスケレトモ以前ハ川邊ノ祓ト申シマシテ拔穗式ヲ行ハレル前ニ拔穗使カ身體ヲ清メラレル儀式カコサイマス卽チ圖ノ如ク側ニ在ル所ノ川ヘ休憩所カラ往カレマシテ此川ノ線テ以テ或御祭……一寸儀式ヲ擧ケラレマシテ其處テ齋戒沐浴ヲ致シマシテ夫レカラ直ク齋院ニ參ルノテコサイマス拔穗ノ式ト云フモノハ何ウ云フ風ニスルカト申シマスト拔穗使ノ外ニ約七人計リノ人カ隨行シテ參リマシテ其外ニ村ノ主モナル人カ約四五人計リ選定ニナリマシテ夫等ノ人ヲ雜色ト申シマシテ控所ニ控ヘテ居ルノテコサイマス先ツ最初ニ拔穗使カ齋田ノ中ニ這入ラレマシテ最モ好ク出來テ居ル一番清淨ノ所ノ眞ン中ノ稻ヲ極リ少シ計リ持ツテ來ラレタ鎌テ刈リ取ラレルノテコサイマス其後ニ雜色カ這入リマシテサウシテ必要タケノ稻ヲ刈リ取リマス夫レカラ其稻ヲ此齋院ノ一部ニ設ケラレマシタ所ノ架ニ懸ケテ乾カシマシテサウシテ扱キ落シ又籾乾臺ノ上テ夫レヲ乾シマシテ夫レヲ向フカラ御持チニナツタ所ノ辛櫃ノ中ニ其米ヲ納メマシテサウシテ行列テ作ツテ京都ノ方ヘ夫レヲ御持チ歸リニナルノテコサイマス其御持歸リニナリマシタ所ノ米ハ何ウ云フ風ニ爲サルカト申シマスト今回ハ此村ノ方カラ獻上ニナリマス所ノ精米一石ト云フモノカ御用ニナルノテコサイマスカ昔カ神サンニ御捧ケニナリ御飯ト及ヒ白黑ノ二ツノ御酒ノモノハ何處テ造ラレルカト申シマスト京都ノ御所ノ北ノ方ニ齋場ト云フモノカ設ケラレマシテ清淨ナル所ノ此齋場ノ中テ其御飯ヤ又白黑ノ御酒ト云フモノヲ御作リニナルノテコサイマス只今京都ノ北ノ方ニ大嘗畑ト云フ地名



カコサイマス夫レハ卽チ當時ノ齋場ノ跡テアルト云フ事ヲ申シ傳ヘテ居リマス

大嘗祭ノ御祭リカ行ハレル所ヲ大嘗宮ト申シマス之レハ何處ニ出來マスカト申シマスト昔ハ大極殿ノ南庭ニ設ケラレタノテコサイマス之レハ御祭ニ先チマシテ僅ニ一週間計リ前ニ此建物カ建テラレルノテコサイマス圖ノ如ク

大嘗宮



右ノ方ニ在ルヲ悠紀殿ト申シ左ノ方ニ在ルヲ主基殿ト申シマス　天皇ハ群臣ヲ隨ヘ先ツ最初ニ悠紀殿ノ方ニ出御ニナリマスサウシテ此悠紀殿テ此悠紀ノ卽チ此六ツ美村ノ田カラ出來マシタ御米ヲ以テ造ツタ御飯ト白黑ノ御酒ヲ此悠紀殿ニ御捧ケニナルノテコサイマス其時ニ悠紀地方ノ知事卽チ愛知縣ノ知事ハ樂人ヲ率キマシテサウシテ茲ニ出マシテ此悠紀地方卽チ愛知縣ノ風俗歌ト云フヲ奏スルノテコサイマス此事ハ後テ申シ上マス夫レテ悠紀殿ノ方ノ御祭リハ宵ノ中卽チ夕方カラ夜中迄行ハレマシテ夫レカ濟ミマスト天皇ハ再ヒ此主基殿ノ方ヘ參ラレマシテ卽チ前ト同シヤウニ今度ハ主基ノ方ニ出來マシタ御飯ト御酒ヲ以テ同シヤウニ此主基殿ノ神樣ヲ御祭ニナルノテコサイマス悠紀殿ノ方ノ御祭ハ宵ノ御祭主基殿ノ方ノ御祭リト申スノテコサイマス圖ノ中ノ膳屋トアルハ「カシハヤ」ト申シマスカ此處ハ神樣ニ供ヘル種々ノ神饌ノ調理ヲ致ス所テコサイマス

風俗歌

君が代の光にいとゝあらはれて甲斐の白嶺のかひはありけり

岩間ゆく水のみどりも長狹川いさよふ瀨々の末深むらむ

之レハ明治天皇ノ大嘗祭ノ祭典ノ時ノ風俗歌テコサイマシテ初メニ書キマシタノハ甲斐ノ方ノ白嶺ト申シマス所ノ名所カ在リマスノテ其名ヲ歌ニ詠ミ込ンタノテコサイマス次ノハ安房ノ長狹郡ノ風俗歌テコサイマシテ卽チ長狹川ト云フ有名ナ川カコサイマス此事ハ後テ申シ上マス夫レテ悠紀殿ノ方ノ御祭リハ宵ノ中卽チ夕方カラ夜中迄行ハレマシテ夫レカ濟ミマスト天皇ハ再ヒ此主基殿ノ方ヘ參ラレマシテ卽チ前ト同シヤウニ今度ハ主基ノ方ニ出來マシタ御飯ト御酒ヲ以テ同シヤウニ此主基殿ノ神樣ヲ御祭ニナルノテコサイマス悠紀殿ノ方ノ御祭ハ宵ノ御祭主基殿ノ方ノ御祭リト申スノテコサイマス圖ノ中ノ膳屋トアルハ「カシハヤ」ト申シマスカ此處ハ神樣ニ供ヘル種々ノ神饌ノ調理ヲ致ス所テコサイマス

風俗歌

君が代の光にいとゝあらはれて甲斐の白嶺のかひはありけり

岩間ゆく水のみどりも長狹川いさよふ瀨々の末深むらむ

之レハ明治天皇ノ大嘗祭ノ祭典ノ時ノ風俗歌テコサイマシテ初メニ書キマシタノハ甲斐ノ方ノ白嶺ト申シマス所ノ名所カ在リマスノテ其名ヲ歌ニ詠ミ込ンタノテコサイマス次ノハ安房ノ長狹郡ノ風俗歌テコサイマシテ卽チ長狹川ト云フ有名ナ川カコサイマス此事ハ後テ申シ上マス夫レテ悠紀殿ノ方ノ御祭リハ宵ノ中卽チ夕方カラ夜中迄行ハレマシテ夫レカ濟ミマスト天皇ハ再ヒ此主基殿ノ方ヘ參ラレマシテ卽チ前ト同シヤウニ今度ハ主基ノ方ニ出來マシタ御飯ト御酒ヲ以テ同シヤウニ此主基殿ノ神樣ヲ御祭ニナルノテコサイマス悠紀殿ノ方ノ御祭ハ宵ノ御祭主基殿ノ方ノ御祭リト申スノテコサイマス圖ノ中ノ膳屋トアルハ「カシハヤ」ト申シマスカ此處ハ神樣ニ供ヘル種々ノ神饌ノ調理ヲ致ス所テコサイマス

マスケレトモ今日ハ大嘗祭ノ節ニ大饗ト申シマシテ二日ニ亙ツテ群臣ニ宴ヲ賜リマシテ　天皇陛下モ齋田ニ出來マシタ所ノ米ヲ以テ造ツタ御飯及ヒ御酒ヲ召上リ又之レニ參列ヲ許サレタ群臣ニモ之レヲ賜ハルノテコサイマス卽位禮ニ引續イテ大嘗祭夫レカラ大饗ト云フモノカ終了ヲ致シマス而シテ　天皇陛下及ヒ皇后陛下ハ御同列ニテ伊勢ノ大神宮ト神武天皇ノ山陵ト光格、仁孝、孝明、明治ノ四帝ノ山陵ニ御參向ニナリマシテサウシテ東京ノ方ニ還幸ニナルノテコサイマス

此齋田ト申シマスモノハ先程モ一寸申上ケマシタカ此悠紀、主基ト云フ二ツノ齋田ヲ御定メニナリマシタト云フ事ハ大嘗祭ニ御捧ケニナリマス所ノ米ハ日本全國カラ御集メニナリマスト云フ事ガ根本ノ御趣旨テアルノテコサイマスカ今日ノ如ク交通カ開ケマセヌ昔ニ於キマシテハ日本全國カラ米ヲ御集メニナルト云フ事ハ非常ニ困難テアリマシタカラ其處テ悠紀、主基二ツノ齋田ヲ御定メニナリ其處テ出來タ米ヲ以テ全國ノ米ニ代ラセラレルノテ卽チ悠紀、主基二ツノ齋田ハ日本全國ノ米ヲ代表スルト云フ意味ニナルノテコサイマス卽チ今回點定サレタ六ツ美村ノ悠紀齋田ハ東及ヒ南ノ地方遠クハ樺太、北海道ニ及ヒ又主基ノ香川ノ齋田ハ北及ヒ西ノ地方遠クハ朝鮮臺灣、日本ノ領土全體ニ亙ツテ此二ツノ齋田ト云フモノカ日本全國ヲ代表スル所ノ米ヲ差上ケルノテコサイマスカラ隨ツテ此六ツ美村ニ齋田ノ定メラレタト云フハ決シテ六ツ美村ノ所ノ村テアリマスカラ六ツ美村ニ取ツテハ非常ニ光榮テ又悠紀齋田ヲ點定サレタ愛知縣ハ他府縣ニ比較シテ非常ニ光榮テ隨ツテ其責任モ亦頗ル重クナケレハナラヌノテアリマス

大嘗祭ニ　天皇カ親シク御自分テ總テノ物ヲ御捧ケニナリマス所ノ神樣ハ決シテ皇室ノ御先祖皇室ノ神樣ト云フ計リテハアリマセヌ其總テノ神樣ノ中ニハ吾々臣民ノ祖先ニシテ功有ツテ神ニ祀ラレタト云フモノモ澤山ニ這入ツテ居ルノテアリマス又此大典ニ參列ヲ許サレマシテ親シク　陛下ノ御祭ヲ拜觀スルト云フ人ハ高位高官テアツテ極ク少數ノ人テアリマスカ決シテ　天皇陛下ハ此高位高官ノ人ト共ニ此慶ヒヲ分タウト云フノテハコサイマセヌ若シ幸ヒニシテ土地カ廣ク此五千萬ヲ容レルタケノ餘地カ在ツタラ必ス吾々五千萬同胞ヲ御招キニナツテサウシテ其慶ヒヲ吾々五千萬同胞ニ御分チニナラウト思ヒマス土地カ狹イ爲メニ特ニ少數ノ

人ノ參列ヲ許サレルノテ卽チ此處ニ參列セラレルノハ五千萬ノ同胞ヲ代表スル所ノ人テアリマス之レヲ過去ニシテハ吾々ノ祖先ヲモ御祭ニナリ又現在ニシテハ吾々代表者ヲ御招キニナリ宴ヲ賜フテ皇室ハ常ニ吾々國民ト慶ヒチ分タウト云フ有難イ思召テコサイマスカラ吾々ハ皇室ノ大典ニ際シテ益々忠君愛國ノ精神ト云フモノヲ養ハナケレハナラナイノテアラウト思ヒマス

大嘗祭ヲ初メト致シマシテ先程カラ申シマシタル皇室ニ於テ行ハセラレル祭典ノ中ニハ農業ニ關係ノ有ルモノカ澤山在リマス斯クノ如ク皇室ニ於セラレマシテハ農業ノ繁榮又農民ヲ慈ミ給フト云フ有難イ思召カアルノテコサイマス昔カラノ歷史ヲ見マスルト云フト雄略天皇ハ其皇后ヲシテ自ラ養蠶ヲ御學ハセニナツタ事カコサイマス又或天皇ハ皇后ト御同列テ以テ親シク農事ノ實況ヲ覽ハセラレタト云フ事カコサイマス又陸奥國カ開ケヌト嘆カレ人民ノ多イ所カラ澤山ノ人ヲ陸奥ノ國ヘ送ラレサウシテ陸奥國ヲ開ケル樣ニ致サレ人民ニ對シテハ或ハ物ヲ賜リ或ハ爵位ヲ賜開墾シ或ハ灌漑ノ便ヲ圖リ其他農業ノ改良進歩ト云フ所ニ力ヲ致サレ人民ノ苦衷ヲ御察シニナリマシタ御製モ決シテ少クナイ

リ農事ヲ御奬勵ニナツタト云フ事ハ吾々日本ノ歷史ヲ讀ム者ハ澤山ニ其事實ニ遭遇スルノテアリマス此等カラ考ヘテモ吾々農業ニ從事スル者ハ特ニ皇室ノ有難キ思召ニ對シテ益々農業ニ奮勵セナケレハナラヌト思ヒマス明治天皇ノ御詠ミニナリマシタ何萬ト云フ御製ノ中ニ吾々農民ノ苦衷ヲ御察シニナリマシタ御製モ決シテ少クナイ

あつしさもいはれざりけりにふかへる水田に立てる賤を思へば

此御製ノ如キ吾々農業ニ從事スル者ノ感激措ク能ハサルモノテアリマス彼ノ日露戰爭ノ時ニ御詠ミニナリマシタ有名ナル

子等は皆いくさのにはに出ではてて翁やひとり山田守るらむ

此御製ニ對シテ自分ノ子供カ召集サレ年取ツタル老人ハ自暴自棄ニ陷ツテ今迄耕ヤシタ田モ畑モ放リ出シテサウシテ何モシナイテ遊ンテ居タ老人カ　陛下カ如何ニ一般ノ國民ヲ御軫念遊ハサレルカト云フ事ヲ此御製ニ依ツテ伺ヒ奉リ夫レカラ奮然トシテ前非ヲ悔イテ非常ニ熱心ニ耕作ヲ始メタト云フ美談カコサイマス又明治天皇ハ嘗テ大石正巳氏カ農商務大臣テアリマシタ時ニ不用テアル所ノ山林ノ拂下ノ御裁可ヲ　陛下ノ御前ニ執奏シタ事カコサイマス明治天皇カ仰セラレマスニハ昔カラ我國ノ習慣トシテ森林ノ下草ト云フモノハ附近ノ百姓カ總體ニ之レヲ刈リ取ツテ牛馬ヲ養フト云フ習慣カアル若シ山林カ不用テアルカラト云フテ之レヲ個人ノ所有ニ歸セシメタナラハ附近ノ百姓カ非常ニ困難ヲスル事ハ大テアルカ夫等ノ用意ハ充分ニ行屆イテ居ルカト御尋ネニナリマシタ大臣ハ非常ニ恐レ入ツテ直チニ其調ヘヲ致シマシタ所カ幸ヒニ夫等ノ用意カ充分ニ屆イテ居ツタンテアリマシタカラ其事ヲ上奏致シマシタ所カハシメテ　陛下ニハ之レヲ御裁可ニナツタト云フ事カコサイマス又今日毎年二百十日ノ天候ト及ヒ各地ノ農作物ノ被害ノ狀況ト云フモノハ新聞ニ現ハレマスカ之レハ何時頃カラ始マツタモノカト云フト嘗テ品川彌二郎子カ內務大臣テアツタ時一日　陛下カラ急ナ所ノ御召カアツテ御前ニ出マシタ　陛下ハ大臣ノ顏ヲ御覽ニナリマシテ風ハ何ウタト云フ事ヲ御尋ネニナリマシタ大臣ハ　陛下ノ思召カ何處ニアラセラレルカト云フ事カ判リマセヌノテ暫ク默ツテ控ヘテ居リマシタ所　陛下ハ今日ハ二百十日テアルト云フ事ヲ仰セラレマシタ大臣ハ茲ニ於テ　陛下カ農家ノ厄日テアル二百十日ニ就テ如何ニ御軫念遊ハサレテ居ルカト云フ事ヲ察シ奉リマシテ直チニ各府縣ニ通牒シテ二百十日ノ天候ト農作物ノ被害ニ就テ調査爲サシメテ奏上シタノテアリマス之レハ今日二百十日ノ天候ト農作物ノ被害ト云フ事カ內務省ニ報告サレル始メテコサイマス照憲皇太后陛下及ヒ皇后陛下ニ於カセラレマシテハ畏クモ自ラ養蠶室ヲ御建テニナリ養蠶ノ道ヲ御學ヒニナツテ居リマス決シテ之レハ　陛下ノ御慰ミテハアリマセヌ私ハ之レニ依ツテ一般農民カ如何ニ業ニ苦シムカト云フ事ヲ親シク御自分ニ御實驗ニナルト云フ有難イ思召カラ出テ居ルノテアラウト私ハ察シ奉ルノテアリマス

斯クノ如ク我農業ト云フモノハ皇室ニ非常ニ深イ所ノ御恩顧ヲ蒙ツテ居ル所ノモノテコサイマス農業ニ從事スルモノ一般國民トシテモ勿論又特ニ農業ニ從事シテ居ル所ノ者ハ此　陛下ノ有難イ皇室ノ思召ニ對シテ大イニ報イ奉ル所カナケレハナラナイト思ヒマス　天皇陛下カ功勞アツタモノニ對シテ優渥ナル御詔ヲ賜ルト云フ事カ必スアリマス

日本ノ最モ大切ナル所ノ忠君愛國ト云フ國民性ハ何處カラ出ルカ之レハ農村ノ獨占スヘキモノテナイト云フ事ハ勿論テアリマセウ我日本國民ハ誰シモ忠君愛國ノ精神ハ有ツテ居リマスカ特ニ此精神ハ農村ニ於テ涵養サレ農村ニ於テ保持セラレルト云フ事ハ誰シモ認ムル所テコサイマス農村ニ於テ此忠君愛國ノ精神カ涵養サレルト云フ事ニ就キマシテ神祇ヲ敬フ……神樣ヲ敬フト云フ精神カ其根本ヲ爲シテ此國民性ヲ養成スル上ニ於テ神祇崇敬ト

云フ事ハ非常ニ與ツテ力アル事ト私ハ思フノテコサイマス日清戰爭ノ時ニハ吾々ノ同胞ニシテ支那ノ探偵ヲ勤メタモノカアルト云フ事ヲ聞キマセンテシタ然ルニ日露戰爭ノ時ハ我同胞ニシテ露國ノ探偵ヲ勤メタモノカコサイマシタ進ンテハ更ニ皇室ニ對シテ畏レ多イ所ノ事ヲ企テタ少數ノ人間カ在リマシテ此等ノ人間ハ何處ノ地方カラ最モ出シタカト云フ事ヲ考ヘテ見マスト吾々ガ最モ尊ハナケレハナラナイ所ノ神武天皇ヲ祀ツタ所ノ御宮ヲ壞シテ了ツタリ皆カ尊敬セナケレハナラナイ所ノ澤山ノ神社ヲ無暗ニ合併シテ少シモ怪マナカツタト云フ所カ最モ多ク此不忠ナル所ノ人間ヲ出シテ居ルノデアリマス忠君愛國ノ精神ト云フモノハ必シモ神樣ヲ敬フト云フ許リニ依ツテ養ハレルト云フ事ヲ申上ケラレンテハアリマセヌケレトモ此日本ノ最モ大切ナル所ノ國民性卽チ忠君愛國ノ精神ト云フモノカ只今御話シタ事ニ依ツテ少クトモ神祇……此神樣ヲ敬フト云フ事ニ依ツテ其大部分カ養ハレルト云フ事ハ之レヲ斷言シテ憚カラナイト思フノテアリマス

皇室ノ最モ大切テアル所ノ御一代ニタツタ一度ノ此大嘗祭ト云フモノカ此農業ニ最モ深イ關係ノ有ル御祭テアリ且ツ大嘗祭ノ基トナル所ノ米ヲ作ル所ノ齋田カ當愛知縣ニ撰定ニナツタト云フ事ハ實ニ愛知縣民全體ノ名譽テアル又其齋田カ撰定ニナツタ所ノ此六ツ美村ハ香川縣ノ綾歌郡ノ山田村ト共ニ全國ニタツタ二ツシカナイ名譽アル所ノ村テアリマス何ウカ此非常ニ大キイ所ノ名譽ヲ辱シメルヤウナ事カアツテハ單ニ六ツ美村許リノ不名譽テハナイ實ニ愛知縣全體ノ不名譽テアルノテアリマス夫レテ此愛知縣全體ノ名譽ト云フモノハ一ニ此六ツ美村ノ諸君ノ双肩ニ懸ツテ居ルト言ハナケレハナライノテアリマス先程モ知事閣下及ヒ農務局長閣下ノ御演說ノ中ニモアリマシタ通リニ何ウカ此責任ヲ完フサレルト共ニ將來ニ於テハ農事ノ點ニ於テモ其他ノ總テノ點ニ於テ此六ツ美村ト云フモノカ愛知縣ヲ代表シ又日本國全體ヲ代表スルヤウナ立派ナ村ニナラナケネハナラナイト思フノテアリマス齋田ノ事ニ就キマシテハモツト詳シイ話カ致シタイノテアリマスケレトモ安藤技師ノ御話モアリマスルシ時間モ甚タ切迫致シテ居リマスルカラ殘念テアリマスケレトモ御話ヲ之レ位ニ止メテ置キタイト思ヒマス

終リニ臨ンテ此名譽アル所ノ此六ツ美村ニ於キマシテ最モ光榮アル所ノ諸君ノ前ニ於テ私カ不束ナル所ノ身ヲ以テ淺薄ナル智識ヲ以テ調ヘタ所ノ甚タ纒ラナイ御話ヲ長々ト致シマシテ御清聽ヲ汚シタト云フ事ハ私ノ深ク御詫ヒヲスル所テコサイマス甚タ纒ラナイ事ヲ申シ上ケマシタカ之レヲ以テ今日ノ講演ヲ終リタイト思ヒマス

米作ノ改良

農商務省農事試驗場技師　安藤廣太郎

諸君本日ハ大正ノ御代ニ於テ最モ光榮アル大嘗祭ノ悠紀齋田ヲ本村ニ定メラレマシテ其齋田ノ事務ノ第一ノ御秡式カ滯リナク終了シマシタト云フ事ハ諸君ト共ニ御同慶ニ存シマス次第テコサイマス

私ハ幸ヒニ此幸榮アル式場ニ參列スルノ榮ヲ得マシテ更ニ此處ニ諸君ニ御目ニ懸ツテ此處ニ演題ヲ揭ゲテアリマス米作改良ト云フ事ニ就テ暫ク諸君ノ御清聽ヲ汚シタイ思ヒトマスル

先刻來有馬君カラ御話ノアリマシタ通リ我農業ト皇室トノ關係ノ深イ事ハ有馬君ノ御話テ既ニ御承知ニナツタ事ト思ヒマスカ古ク我國ハ天照大神ノ時カラ稻カ出來タト云フ事カ記錄ニアリマスカ之レヲ吾々カ技術的ニ解釋シマシタナラハ既ニ米ト云フモノカ我建國ノ創メ天孫ノ尊カ大八洲國ニ降臨サレタ時既ニ栽培セラレタト云フ事ガ考ヘ得ラレルノテアリマス又我國ヲ豐葦原瑞穗國ト昔カラ申サレテ居ツタ之レハ我田引水カ知レヌカ其時分カラ米カ出來テ稻ノ實カ房々トシテ穰ツテ居ツタト云フ事カ想像サレルノテアリマス

斯ノ如ク我國ハ古來米作ヲ以テ立ツテ居ル國テアリマシテ又今日ニ於キマシテモ世界中テ米ノ出來ル事ニ於キマシテハ我國カ最モ秀テテ居ルト思ヒマス斯ウ云フ風ニ昔カラ米カ出來尙ホ今日テモ栽培ノ技術ニ於テ世界ニ冠タル我國ノ米ノ現狀ヲ調ヘテ見ルト日本テ出來ル米カ日本人カ食ヘルタケ充分ニ有ルカ何ウカ栽培ノ起源カ最モ古ク又栽培ノ技術カ世界ニ冠タル我國ノ如キ不足シテ居ルヤウナ事ハアルマイカト考ヘテ見ルト殘念乍ラ日本テ出來ル米ノ分量カ未タ吾々日本人ヲ養フタケニ足ランノテコサイマス卽チ近年ノ平年產額ヲ二十年、三十年前カラ比ヘテ見マスト非常ニ殖ヘテ居ルカ夫レト同時ニ人間ノ數カ段々殖ヘテ居リマス爲メ年々二百萬石乃至三百萬石ノ米カ外國カラ這入テ來ル斯フ云フ風ニ古クカラ米カ出來ル又作リ方モ世界第一番ト自分モ認メ人モ認メテ居リ乍ラ尙ホ食フタケノ米カ足ラント云フハ甚タ殘念ノ次第テアルト思フノテアリマス抑々國ヲ立テテ往キマス上ニ於テ其國カ立派ニ各國ノ間トノ生存競爭ニ打勝ツテ其獨立ヲ完フシテ往クト云フ事ニハ或ハ陸軍ノ設備或ハ海軍ニ對シテハ船ヲ造リ又商工業モ充分發展サセンケレハナラヌカ第一此食物ノ獨立ヲ圖ルト云フ事カ根本ノ問題テハナイカト思ヒマス

昨年諸君モ御承知ノ通リ歐羅巴ニ於テ非常ナ大戰爭カ始マツタノテアリマスカ是等ノ戰爭ノ現狀ヲ考ヘテ見マシテモ戰爭ヲシテ居ル各國カ如何ニ自分ノ國ノ食物ニ苦心ヲシテ居ルカト云フ事ハ諸君カ日々見ラルル新聞ニ始終書イテアル通リダト思ヒマス

彼ノ聯合軍ノ一テアリマタ我國ノ同盟國テアル英吉利ハ澤山ノ軍艦殆ト獨逸ニ二倍スル軍艦ヲ以テ戰爭ヲシテ居ルノテアリマスカ英吉利カ斯ウ澤山ノ軍艦ヲ常ニ準備シナケレハナラヌト云フ事ハ一面ニ於テハ殖民地カ世界各地方ニ擴カツテ居ルカラ之レヲ保護スル事モ一ツ必要テアリマスカ其小麥カ極ク尠イノテアリマス夫レテアリマスカラ英吉利ノ國ヲ守ツテ往キマスルニハ食物ヲ外カラ入レナケレハナラヌ夫レヲ充分ニ國人ノ餓ヘナイヤウニスルニハ外カラシテ敵國ノ軍艦ニ穀物ノ輸入ヲ邪魔サレナイヤウニセネハナラヌト云フカ又目的ノ一ツニナツテ居ルト思フ英吉利テ出來ル麥ノ分量ト云フモノハ恐ラク英吉利國全體ノ國民ニ與ヘルニハ一箇月若クハ二三箇月シカ支ヘラレンノテアリマシテ大部分ハ北米或ハ南米其他ノ諸國カラ供給シテ居ルノテアリマシテ若シ英吉利カ今日ノ軍艦ヲ有タスシテ少ナイ軍艦テアツタラ今度ノヤウナ大戰爭ニナルト一日モ支ヘル事カ出來ナカツタノテナイカト思ヘルノテアリマス一方聯合軍ヲ對手ニ戰ツテ居ル獨逸ハ何ウカト云フト諸君モ新聞テ見テ居ラレル通リ頗ル頑强ニ戰ツテ居ル英吉利佛蘭西露西亞ヲ對手ニシテ塊太利ト共ニ殆ント獨逸一國テ三箇國ヲ對手ニ能ク向ツテ居ル原因ヲ考ヘテ見マスルト獨逸ニ於テハ工業ガ近年發達シテ來タ關係モアリマスカ一面農業ノ發展ニ獨逸カ如何ニ力ヲ入レテ居ルカト云フ事ヲ考ヘテ見タラ今日頑强ニ戰フハ偶然テナイト云フ事カ考ヘ得ラレルノテコサイマス

獨逸ハ此農業ノ奬勵發展ト云フ事ニ就テハ非常ニ國カ世話ヲシテ居ルノテアリマス例ヘハ農事試驗場ノ如キ各州ニ在リ其數亦多クサウシテ夫等ヲ實行スルニ就テハ各州各地ニ農會カ非常ニ能ク仕事ヲシテ居ル日本ノ農會トハ稍趣ヲ異ニシテ農會ノ活動カ實ニ目覺ジイノテアリマス其マシテモ獨逸人カ常ニ頭ニ在リマス所ハ何處テアルカト云フト云フト此糧食ノ充實ヲ圖ルト云フ事カ主テアリマス獨逸ノ現在ノ食料品ハ何ウテアルカ年々多數ノ小麥カ南米或ハ埃太利カラ這入リ又多數ノ米カ印度邊カラ這入ルカ若シ戰爭ニナリサウト云フ場合ニ斯ウ云フモノカ這入ツテ來ヌ時ハ獨逸ノ國ハ餓ヘンクレハナラヌカ夫レニ對シテ

吾々農業者カ常ニ心得ヘキ事ハ何テアルカ戰時ニ對スル獨逸ノ食料ヲ如何ニスルカト云フ事ヲ獨逸テハ農業ノ教育ヲスル農科大學或ハ農學校ト云フ所テハ毎時モ農學ノ先生カ年々繰返シテ話ヲスルノテ農事ノ教育ヲ爲スニ方リ戰時ニ於ケル獨逸ノ食料ヲ充分ニスル事ヲ常ニ考ヘテ置キ又何ウ云フ風ニセンケレハナラヌト云フ研究ノ材料ヲ常ニ與ヘテ居ルノテアリマス夫レテアリマスカラ年々農業ハ進歩シ產物モ殖ヘヲ居ル又戰爭ノ始マリマス前昨年ノ五月頃獨逸ノ雜誌テ獨逸ハ戰爭ヲシテモ決シテ糧食ニ困ラントト云フコトカ記載シテアルノヲ見タ斯ウ云フ風ニ獨逸カ三國ヲ對手ニシテ頑强ニ戰爭スルハ種々ノ原因モアラウカ糧食ノ供給カ充分出來ルト云フ自信力モ一ツノ原因テアラウト思ヒマス

夫レテアルカラ國カ各列國ノ間ニ立ツテ甚タ面倒ナ生存競爭ノ中ニ立ツテ我國カ一等國ノ一ツトシテ將來各國ト競ツテ往キマスルト國ノ原テアル食物即チ日本テ申セハ米ノ產額ヲ增シテサウシテ如何ナル場合ニモ食物ニハ心配ハナイト云フ事ヲ吾々農業ニ從事シテ居ルモノハ奮發ヲセンケレハナラヌト思フ前申シタヤウニ英吉利或ハ獨逸ノ狀況ハ夫レテアリマスカ之レハ戰爭前ニ考ヘテモ此等ノ國ハ常ニ糧食ノ事ニ就テ心配シテ居ル仮令國テ出來ルト云フモノハ非常ニ農業ノ忽セニス可ラサルト云フ事ヲ國内ノ有識者カ考ヘ非常ニ覺リマシテ今日ニ於テハ農業ニ就テ非常ナル農業ノ發展ニ努メテ居ルノテコサイマス英吉利ハ御承知ノ如ク我國ト違ヒマシテ商工立國ト云フヤウナ思想ヲ以テ非常ニ外ニ製造品ヲ澤山出シテ其金テ穀物ヲ輸入シテ食ツテ居ル國テコサイマス四五十年前テアリマスサウシテ小麥ノ値段ノ下ルヲ防ク爲メ重イ輸入稅ヲ課シテ國内ノ工業派ノ意見カ勝ヲ占メ外國品ト競爭スルニハ生產費ヲ安クセネハナラヌ夫レニ對シテハ小麥ヲ安クセネハ不可ヌ故ニ輸入品ニ重稅ヲ課スルハ國内ノ工業ヲ發展サセル途テナイト云フ考ヘカラ輸入稅ヲ撤廢シテ其結果ハ何ウナツタカト云フト英吉利ノ小麥ノ栽培ハ非常ニ衰微シ隨ツテ農村モ衰ヘ農村ノ子弟ハ悉ク都會ニ集マリ田舍ニ居ルモノハ詰マリ老幼トイフ風ニ段々小麥カ出來ナクナツテアリマスサウシテ一面都會ニ澤山出タ田舍ノ人ハ何ウテアルカトイフト澤山ニ都會ニ集マツタ爲メ職業ヲ求ムル事カ出來ス其結果浮浪者トナツテ都會ニ彷徨シタ者カ段々多クアツタノテコサイマス夫レテ英吉利ノ爲政者及ヒ有識者カ之レニ鑑ル所アリ此十年來非常ニ注意シ

マシテ地方ニ於キマシテ或ハ大キイ官有地等農業者ニ拂下シテサウシテ地主タラシメ又一面ニ於テ農業ノ技術ヲ益々進メナケレハナラヌト云フノテ大學或ハ地方ノ農學校ニ居ル人ヲ金テ買ツテ以テ技術ヲ奬勵シサウシテ一旦衰ヘタ農業ヲ再ヒ盛ンニシテ出來得ル限リ英吉利内テ糧食ヲ餘計取ルヤウニト考ヘテ之レヲ實行シテ居ルノテコサイマス

獨逸ニ於テハ今申シタヤウニ年々農業ノ發展ニ留意シテ居リマスカ殊ニ戰時ニ際シテハ非常ニ最善ノ注意ヲ拂ツテ糧食ニ注意ヲシテ居ルノテ新聞ニ依ルト食物ヲ制限スル爲メ麵麭ヲ買フニ一々切手ヲ出シ一人前ニ就テ一ツノ切手ヲ遣ルト云フ風ニシテ居リマス或ハ馬鈴薯ヲ食ヘル場合皮ヲ剥イテ食ヘテモ其皮ヲ塵芥ノ中ニ棄テナイテ別ニ貯メテ置ケト云フ命令カ出タトカテ之レヲ惡ク解釋スルト獨逸ハソロ〳〵食物カ無クナツタモウ今ニヘタハルタラウト解釋出來ルカ私ハサウ解釋スルハ寧ロ間違ツテ居ルト思フ彼ノ注意深イ獨逸テアルカラ今日食物カ足ラヌ爲メサウ云フ命令ヲ出シタノテハナク戰爭カ永ク續クト云フ見込ヲ立テ永ク續クニ就テハ食物カ充分要ル夫レテ今ノ間ニ食物ノ險約ヲスルニシテモ充分ニ喰ハナイテハ國民カ戰サヲスル事カ出來ヌカラ餘分ニ澤山麵麭ヲ與ヘルト喰剩シカ出來ル其喰剩シテ棄テルノハ勿體ナイ夫レテ一人前分ハ充分ニ與ヘ其餘分ヲ喰剩シテ一箇月テモ二箇月テモ充分糧食ヲ續カセルヤウニシヤウトシテ居ルノテアラウト思フ馬鈴薯ニシテモ同シテ倘ホ聞ク所ニ依ルト本年ハ殊ニ馬鈴薯ヲ盛ンニ栽培シテサウシテ夥ノ不足ヲ馬鈴薯ヲ以テ補ツテ往ク〳〵云フ事テアル吾々日本人ハ馬鈴薯カ代リニナルト云フト可笑シク思フカ獨逸ヤ佛蘭西ハ麵麭ト馬鈴薯カ常食テアツテ馬鈴薯カ無イト殆ト危險テアルト佛蘭西邊テハ言ツテ居ル夫レテ馬鈴薯カ在レハ糧食ヲ充分支ヘテ往ク事カ出來ルノテアリマス又亞米利加合衆國ハ御承知ノ通リ土地ノ廣イ割合ニ人ノ數カ割合ニ少ナイノテ日本人カ今迄往ツテ隨分大キイ儲ケヲシタノカアリマスカ此國ハ非常ニ廣ク人カ少ナイカラ糧食等ノ心配ハ無論ナイノテアリマス糧食殊ニ小麥等ハ輸出國テアリマシテ澤山外國ヘ出スカラサウ云フ心配ハナイカ矢張亞米利加テモ將來ヲ慮リ農業ノ仕方ニ於テ種々考ヘテ居ルノテアリマシテ即チ亞米利加ノ一部分テハ肥料等ハ無論日本ノヤウニ遣リマセンテ作リ取リニシテ二三年作ツテ出來ナクナルト又他ノ新シイ土地ニ往ツテ作ルト云フ風テアリマシテサウ云フ事ヲシナイテ一定ノ土地カラ充分參ノ取レルヤウニ注意セナケレハナラヌ單リ農業ノミナラス山林ニシテモ鑛山業ニシテモ總テノモノニサウ云フ天然ノ利源ヲ空シクシテハ不可ヌカラ之レヲ宜ク保存シテ何時迄モ役ニ立ツ樣ニシナケレハナラヌト云フノテ利源保存ト云フ事カ識者ノ間ニ大變八釜敷クナリ夫レニ對スル會ヲ作リ或ハ夫レニ對スル研究カ進ンテ來タ斯ウ云フ風ニ食物ニナルモノカ澤山出來外ニ輸出スル國テスラサウテ又英吉利テモ出來ルタケ自分ノ國テ食ヘルタケ作ラウトシテ居ル歐羅巴殊ニ亞米利加等ノ大國カサウテコサイマスカラ夫等ノ大國ニ比シテ工業ノ方面モ甚タ劣ツテ居リ國ノ富……金ノ有ル事モ彼等ニ劣ツテ居ル我國ニ於キマシテハ何ウシテモ糧食ノ獨立即チ米ヲ充分ニ日本ニ作ツテ日本人カ食フタケノ米ハ少シモ外カラ入レナイヤウニスルト云フ事カ吾々農民ノ充分ニ考ヘ又充分ニ努メナケレハナラヌ事テコサイマス夫レタケノ米カ餘計出來ルト出來ヌトニ就テ考ヘルト一年ニ參千五百萬圓ノ金ヲ海外ニ支拂フノカ支拂ハスニ濟ムノテコサイマスサウシテ日本ノ國ニ夫レタケノ米カ出來ルカラ日本ノ國ニスルト其倍ノ利益ニナルト云フ事ニナル然ラハ斯ウ云フ糧食ノ獨立ト云フ事カ出來得ルカ何ウカト云フ問題ニナルノテコサイマスカ之レハ私ハ現在這入ツテ來ル二三千萬石ト云フモノハ平年數量五千萬石ニ對シマスルト僅ニ五分ニ當ルノテアリマシテ即チ之レヲ小サク考ヘマスト一石取ル場合ニ五升宛餘計取ツテ往ケハ夫レテ宜シイノテアリマス一石ニ對スル五升位增ストテ云フハ幷ンナニ六ケシイ事テハナイテアラウト思ヒマス人或ハ斯ウ云フ事ヲ言フカ知レタ日本テハ栽培ノ技術カ今云フ通リ世界一テアリ又種類モ澤山在ル中カラ今迄ノ人カ苦心シテ試ミテ來タカラ之レカラ先今迄ノヤウニ增ス譯ニハ不可ヌト云フ議論ヲスル人カアラウカ私ハ今迄ノ人カ其處迄遣ツタカラ農業即チ稻ヲ作ルナリ作物ニ對スル學問カ今日程進ンテ居ナイ時代ニ於テスラ昔ノ人カ夫レ程ノ事ヲ遣ツタカラ今日學問ノ進ンタ時代ニ於テハ昔ノ人ノ遣ツタ二倍三倍ノ仕事カ僅カノ年月ニ遣リ得ラレル又遣ラナケレハ先祖ニ對シテ五升ト云フ事ハ私ハ夫レタケノモノヲ增ストト云フ事ハ決シテ六ケシクナイノテ諸君カ少シク勉强シテ下サレハ容易ニ出來ル事ト信シテ居リマス無論農業ノ性質ト致シマシテ澤山ニ米ヲ取ルニハ種々ノ方法カアルカコサイマス唯一ツノ方法テアルヘキモノテアリマセンテ或ハ一面ニ於テハ土地ヲ增サナケレハナラヌ今日原野トナツテ散在シテ居ル土地モ即チ手數ヲ懸ケテ開墾シ或ハ水利ノ便ヲ付ケタラ立派ナ水田ニナル所カ日本全國ニ少ナクナイ此等ノ土地改良モ必要テ又栽培法ノ改良或ハ肥料

ノ遣リ方等ニモ改良ヲ加ヘタナレハ之レニ依ツテモ充分ニ收穫ヲ增ス事カ出來ル又其外栽培法ハ從來ノ儘テアツテモ今迄作ツテ居ツタ種類ヨリモツト餘計取レ且ツ品質モ宜イト云フ種類ヲ成ル可ク作リ又在來ノ種類ノ中カラ擇リ出スト云フ事モ今日ノ學問上出來ルカラサウ云フモノヲ擇リ出シテ諸君カ栽培ヲセラレルト云フ事ニナレハ容易ニ其目的ヲ達セラレル之レハ仕事ヲスルニハ一人々々仕事ヲシテモ到底二三千萬石ノ米ヲ急ニ增ス事ハ出來ヌカラ農家又ハ農家ノ團體テアル農會或ハ官衙所謂行政廳ト官民一致テ遣レハ其目的ヲ達スル事カ出來ルト思フ何故官民一致テナイト其目的ヲ達セラレヌカト云フト簡單ニ申スト農業ハ外ノ工業ト違ヒ ゞシテ先ツ第一ニ要ルモノカ土地テアリマス土地カ在ツテサウシテ一面ニハ太陽ノ熱所謂御天道樣ノ御蔭テ出來ルノテアリマシテ幾ラ土地カ在ツテモ年中日カ照ラネハ米ハ一粒モ出來ヌ此二ツノモノカ主モナルモノテ其後ノ肥料トカ栽培法ハ人間カ力ヲ加ヘテ始メテ役ニ立ツヤウニナルノテアリマシテ夫レテアリマスルカラ農業ヲ營ムニ就テハ先ツ土地ト云フモノカ一番肝腎テアル太陽ノ光リトカ熱ト云フモノハ吾々皆平等ニ貰フカラ無料ト考ヘテ宜イ農業ハ一人ノ人ノ栽培スルハ二町カ三町歩如何ニ多クテモ五六町歩ニ過キヌノレニ反シテ工業所謂種々ノ製造工業ハ自分ノ好キナ所ニ工場ヲ立テ或ハ克ク賣レル場所都會地ニ工場ヲ建テル事モ出來又地方ニ工場ヲ建テル事モ出來ル此製造工業ノ方ハ到ル所ニ工場ヲ設ケ又地面カラ申セハ僅ナ面積ノ土地ニ於テ全國ヲ引受ケテ差支ヘナイタケノ設備ヲスル事モ出來ル一例ヲ申セハ日本ニ澤山ノ紡績會社カ在ル其會社ハ何處ニ在ルカト云フト都會近傍ニ在ツテ土地ノ面積カラ云ヘハ非常ニ小サイ面積テ而カモ日本內地ノ需用ヲ充タシ其上海外ニ輸出スルタケノ事ヲシテ居ル之レヲ面積カラ云フト極ク僅少ノ面積テ仕事ヲシテ居ル工業テアレハサウ謂フ僅カナ面積テ仕事カ出來ルノテ若シ工業家ノ間ニ或ル一種ノ技術上ノ……判リ易ク言ヘハ專賣特許ノ加キ今迄外ノ會社カ遣ツテ居ツタヨリモツト安ク且ツ早ク出來ルヤウナ方法ヲ考ヘテ其特許ヲ得マスト他ノ會社ト充分競爭カ出來ル或ハ一ツノ製造會社テ澤山ノ製造會社ト競爭シテ夫レヲ皆壓倒シテ自分ノ會社テ出來タ物ノミヲ世ノ中ニ賣ル事カ出來得ルノテアリマス又製造品ニシテモ工場ヲ橫ニ擴ケストモ二階三階ト云フ風ニシテ上ニ增セハ僅ナ面積テモ澤山ナ仕事カ出來ル夫レテ製造工業ニ於テハ技術上ニ於テ外ノ會社ニ知ラレナイ所謂安ク品物カ出來ルト云フ秘密カ大切テ其安ク出來ルト云フ秘密ヲ有ツテ居ル會社ハ繁昌シテ外ノ會社ハ潰レテ了フノテアリマス夫レ故工業的ノ會社ハ專賣特許或ハ

技術ノ特別ノ發明トカ云フ事カ八釜敷ク非常ニ重要ノモノニナツヲ居リマスカ農業ハ何ウカト云フト多クテモ一人五六町歩ヲ栽培スルニ過キヌカラ如何ニ其農家カ栽培上ニ於テ非常ナル發明ヲシマシテモ發明者自身ニ利益スル所ハ僅ニ五六町歩カラ生產スル物ニ過キナイノテアリマス又發明シメ爲メ自分ノ所ノ物テ他ノ者ノ作ツタ物ヲ壓倒シテ自分ノミテ日本全國ニ供給スルト云フ事ハ出來ヌ夫レ故農業ハ幾ラ立派ナ秘密方法ヲ考ヘテモ製造工業ノヤウナ仕事ハ出來ヌ又一面ニ於テ農家カ惡ク申セハ其日サヘ食ツテ往ケハ差支ナイトスレハ隣ノ人カ進步的ナ巧イ仕事ヲシテ往ツテモ自分ハ昔通リ遣ツテ居ツテ夫レテモ食ヘヌ事ハナイ詰マリ善イ事ヲ考ヘテモ自分一個トシテハ多クノ利益ヲ得ル事カ困難テ又勉强セスシテモ食ヘナイカラトテ人ノ厄介ニナラヌト云フノカ卽チ農業ノ性質テアル夫レテアルカラ農業ヲ進メテ所謂進步サセヤウト云フ風ニ考ヘマスト唯一人カ二人ノ進步的ノ考ヘヲ有ツテ居ル人ノ頭タケテハ充分ニ之レヲ行フ事カ出來ヌ又他スレハ直ク夫レニ影響スルカ農業テハ如何ニ發明カ出來テモ其人一人タケテハ豪イ儲ケヲスルコトカ出來ス又他ニ影響シナイノテアリマス

夫レテ一國ノ農業ヲ發達サセルニハ何ウシテモ一所ツテ互ヒ〳〵ニ研究スルト云フ風ニナラネハナラヌシ又一面ニ於テ國家自身カ此農業ノ發達ニ力ヲ添ヘ農業ヲ保護シ團體ト共ニ働キ農家ト一致シ協力シテ農業ヲ助クルト云フヤウニセネハナラヌ所謂我農業ノ收穫ヲ多クシテ糧食ノ獨立ヲ圖ルニ就テハ耕地ヲ殖ヤシ栽培法ノ改良及ヒ種類ノ改良ト云フ事ニ就テモ矢張リ國家ト農業ノ團體トカ協力シテ仕事ヲシテ往カナケレハナラヌノテアリマス夫レテアリマスルカラ我國ニ於テモ以前カラ此農業ニ對シテハ政府カ相當ノ金ヲ出シテ居ル例ヘハ耕地整理ニ對シテハ耕地整理費ノ補助ヲスルトカ又各地方ノ農業ヲ奬勵スル農會ト云フ者ニハ僅テアルカ政府カ補助ヲシテ居ル又サウ云フ團體ノ成立ヲ奬勵シテ居ルトカ政府ト農家ト協力シテ仕事ヲセネハナラヌト云フ事實テ明ニシテ居リマス又一縣ニシテ考ヘテモ本縣ニ於テハ農事試驗場カ立派ニ出來テ居リ又農會モ立派ナノカ在ル一面米種改良ト云フ事ニ就テモ少ナカラス金ヲカケテ居ラレルト云フハ行政廳カ縣下ノ農業ヲ進步サセル爲メ金ヲ支出シテ居ルト云フ事ニナル夫レテ此等ノ施設ト相俟ツテ農家諸君カ實際稻ノ耕作ヲスル時分ニ於テ充分ニ農事試驗場或

ハ農會ト御相談ニナツテ今日最モ宜イトイフ方法ニ依ツテ仕事チシテ往カレルトイフ事カ我國ノ米作改良上最モ必要ナ事テアル尚ホ少シク其中テ内容ニ就テ一二申シテ見ルト例ヘハ耕地整理トイフヤウナ事ニ就テハ耕地整理ノ方カアリマスカラ私ハ申シマセヌカ此栽培法ノ改良トイフ事ニハ植方ノ改良モアリ或ハ肥料ノ遣リ方ノ改良モアリマス近年各地ニ於テ多收穫ノ試ミトイフヤウナ事カアル又本縣ニ於テハ昨年サウイフ懸賞カアツタトイフ事テアルカ今迄三石取ル等ト言ツテ居ツタカ今日テハ三石取ル事ハ敢テ珍ラシクナクナツタ多收穫ノ懸賞等ニ依ツテ見ルト或ハ五石、六石取ル事カ出來タ地方カアルトイフ事モアラウカ兎ニ角夫レダケ取リ得ルハ我農業カ夫レダケ進ンタトイフ證據ニモナル併シ乍ラ吾々農業者トシテ此米チ作ツテ往クトイフ事モ百姓ノ仕事ト申シマスカ矢張リ之レモ經濟チ離レテハ不可ヌ事テアリマシテ如何ニ米カ餘計取リタイトイフテモ不經濟ノ作リ方チシテハ決シテ賞メタ話テハナイノテアリマス夫レテアリマスカラ一般農家諸君ニ對シテ私ノ望ム所ハ出來ルダケ米チ餘計取ツテ頂キタイカ夫レニ對シテハ常ニ米チ作上ニ於テ經濟ト云フ事チ考ヘル例ヘハ米ハ五石取ツテモ肥料代ニ四五拾圓使フト云フ事カアツタラ其農家ハ損チシテ居ルト思フ殊ニ昨年及ヒ今年ニ懸ケテ米ノ安イ時代ニハサウテアリマスカラ仕事チスルニ就テ出來ルダケ多ク取ルニ就テモ共費用チ成ルタケ減スル事ノ出來ル肥料チ遣ルニ就キ從來ノ肥料ノ遣リ方テ充分取レヌトシタラ何ウ云フ風ニ肥料チ調合シタラ米カ餘計取レ得ルカ又調合ニ當ツテモ何ウイフ肥料チ使ツタラ最モ安ク上ルカ或ハ判ランケレハ試驗場ニ相談シ或ハ郡ニ居リマスル農業ノ技術者ト相談サレテ宜イノテアリマスカラサウイフ方々ト相談シテ其地方ニ於テ適當ナ且ツ値段ノ安ク上カルヤウナ方法チ考ヘテ如何ニ肥料チ遣ランケレハナラヌト思フ尚ホ栽培ノ方ニ就テモ多ク米チ取ルトイフ事ニ就テモ矢張リ苗代時代ニ宜ク考ヘテ夫レニ對シテ厚播キ薄播キチ考ヘ又苗ノ出來過キルヤウナ所ハ少シ肥料チ減ラシ適當ノ方法テ遣ラネハナラヌカ更ニ植付ケル一週間十日前ニハ場合ニ依ツテ安イ肥料チ遣ルカ必要ト思フ本縣ノ齋田モ厚過キナイヤウ又薄過キナイヤウ其地方ニ適シタヤウニスル必要カアルノテ薄イノカ或地方ニ於テ宜イトイツテ決シテ何處テモ宜イノテハナイ寧ロ薄過キルヨリ厚過キルカ米チ餘計取ルニハ利益テハナイカト考ヘマス其外ノ細イ事ニ就テハ地方ノ事ニ就テ知リマセヌ私カ申スヨリ便宜之レハ地方ニ居ラレル郡ノ技術家或ハ農事試驗場ニ一々御相談ナスツタラ適當ナ方法カ

得ラレルト思ヒマス栽培法ニ就テハサウテアリマスカ更ニ數量チ增ス一ノ方法トシテハ第三ニ申シマシタ植イ種類チ作ルトイフ事テアリマスカ從來吾々ノ作ツ居リマスル米ノ種類ハ隨分澤山アリマス此等ハ皆吾々ノ祖先カ非常ニ苦心シテ撰ミ出シタモノテアリマスカ今日ニ於テモ此等ニ劣ラナイモノカ吾々ハ能ク知ラナイノテアルカ自然ニ出來ツツアル或ハ人工テモ出來得ルノテアル殊ニ近年此等ニ就テハ學問カ進ミマシタ結果今迄ノ人カ苦心チシテ得タタケノ成績チ得ルノテアリマスカラ此等ノ方法ニ依ツテ植イモノチ選ミ出ストイフ事モ今日テハ敢テ困難テハナイノテアリマス此等種類ノ選ミ方トイフハ或ハ諸君カ自ラ遣ラレルニハ非常ニ手數カ懸ラウカ既ニ本縣ノ農事試驗場テハ夫レニ對スル仕事チシテ居ラレルカラ遠カラヌ中ニ植イ種類モ段々出テ來ルト思ヒマス又何ウイフ植イ種類カ出テ來テモ其儘打遣ツテ置テハ効カ無イカラ是非諸君ノ間ニ擴メテサウシテ在來ノ種類ヨリモモツト米チ餘計取ルヤウニ考ヘナケレハナラヌカ夫レチ遣ルニハ夫等ノ種類チ得ル爲メ種チ取ル場所チ作ラネバナラヌカ聞ク所ニ依レハ本縣ハ各郡ニ既ニ採種田ノ設ケカアリ又各町村ニ於テ近來氏神サンノ神田カ大分出來ルヤウニナリ其神田ニハ或ハ此採種田トシテ使ハレテ居ル所カ澤山在ルヤウニ承ハツテ居リマシテ甚タ本縣ノ農業ノ爲メ喜ハシイト考ヘテ居リマス此等採種田ニ種チ作ル時分ニハ餘程注意シテ試驗場カラ廻サレタ種テアレハ採種田ニ作ル場合他ノ種類ト混セナイヤウニ或ハ其種類カ惡クナラナイヤウニ充分注意シテ夫等ノ點ニ注意シテ貰イ種類ハ早ク弘メル事ニ注意サレン事チ希望スルノテコサイマス

斯ウイフヤウナ方法ニ依リマシテ小ハ一地方大キク言ヒマスレハ日本全國ニ對シテ米ノ數量チ增シテ我國糧食ノ獨立チ圖ルトイフ事チ官民カ一致シテ往キマシタナラハ容易ニ達シ得ラレルト思フ一石ニ對シテ五升トイフ事ハ或ハ農家諸君ニ對シテハ何ンテモナイ事テ夫レハ取レル事ハ何ンテモナイカ甚タ面倒ナ事チシテ取ルヨリ寧ロ放ツテ置イテ取ラントテモ宜イトイフヤウナ考ヘテアルカ知レヌカ農家諸君ニ於テ一石ニ對シテ五升ノ數量ハ甚タ少ナイヤウテアルカ諸君カ其氣ニナツテ五升宛餘計取ルヤウニ考ヘ又日本全國ノ農家カ其通リ考ヘタラ今日外國カラ這入ル二三千萬石ノ米ノ代價參四千萬圓ハ一石ニ對シテ五升餘計取ルニ依ツテ之レチ防ク事カ出來出ス金ハ出サス日本テ米カ出來ル故差引七八千萬圓ノ利益ハ立所ロニ得ラレル

夫レテ此等ノ事柄ハ官民一致シテ何ウシテモ上ハ政府カラ農家諸君吾々一所ニナツテ大イニ我國米作ノ數量ヲ增加シタイト思フノテコサイマス本村ハ前ニ申シタヨウニ此光榮アル大嘗祭悠紀齋田カ選定サレマシテ單リ本村ノ榮譽ノミナラス本縣全體ノ榮譽ノ事ト思フノテアリマスカ私ハ此榮譽アル大正四年ヲ機會トシテ或ハ記念林トカ又種々ノ記念事業ヲ計畫サレル事ト思フカ其事業ノ一トシテハ農家諸君ハ縣廳農會ト連絡サレテ我國ノ米ヲ增ス一原因タル米ノ品種改良トイフ事ニモ力ヲ致サレテ本縣下ニ立派ナ採種田ヲ設ケラレテサウシテ或ハ郡或ハ町村ニ其種カ及ンテ往ツテ本縣下ノ米ノ栽培法カ一面ニ於テ改良サレ夫レト相俟ツテ愛知縣下ノ米作改良トイフモノカ大正四年ノ悠紀齋田ノ記念トナツテ今日ヨリモ著シク進歩シタトイフ事ヲ見得ル樣ニ此ノ記念事業カ農會縣廳等ト協力シテ諸君ノ手ニヨツテ愛知縣下全般ニ行ハレン事ヲ希望シテ已マンノテアリマス餘リ下ラヌ事ヲ長ク申シマシテ此邊テ止メテ置キマス

第九章　齋田經營ニ關スル經費豫算

第一節　齋田ニ關スル縣豫算

齋田經營ニ關スル經費ニ就テハ既ニ大正三年齋田點定ノ當初ヨリ農商務省竝ニ香川縣ト協議スルトコロアリ。縣ハ常ニ齋田所有者ニ多大ノ負擔ヲ爲ササラシメンコトヲ期シ齋田ノ耕種供納竝ニ式典等ニ要スル大體ノ經費ノ見積ヲ爲スト共ニ其經費ノ性質ニ基キ縣郡村竝ニ齋田所有者ノ費用ノ分擔ヲ定メタリ。爾來此方針ニ基キ齋田經營ニ關スル準備完成シ費用ノ種類等從ツテ具體的ニ見積リ得ルニ伴ヒ各費目ニ於テ增額ヲ要スルモノ生シ、大要左ノ如ク費用ノ分擔ヲ定メタリ。

科目	縣郡村所有者合計	縣	郡	村	所有者
事務費	一、七二九・五二〇円	九六四・五二〇円	二〇〇・〇〇〇円	五〇・〇〇〇円	二五・〇〇〇円
雜給	一九五・〇〇〇	百圓　囑託員手當			貳拾七圓村委員手當延百八十三人分平均一人一日拾五錢〇四拾八圓小使一人八箇月分一箇月六圓〇貳拾圓臨時人夫延四十人分一人五拾錢〇計金九拾五圓
旅費	八八九・二一〇	五百五拾七圓四拾七錢管內旅費〇貳百五拾七圓五錢管外旅費〇計金八百拾四圓五拾貳錢		五拾圓　概算	拾五圓　出縣旅費拾圓　京都行旅費計金貳拾五圓
需用費	六四五・〇〇〇	五拾圓　電話通信料	五拾圓　通信運搬費百五拾圓　印刷費計金貳百圓	拾圓物品借上料〇百拾五圓消耗品費〇百四拾圓印刷費〇參拾圓通信運搬費〇百圓呈茶費〇計金參百九拾五圓	
建築費	一、四三五・〇〇〇	五六五・〇〇〇			
齋院費	五〇〇・〇〇〇	五百圓　齋院地均作物賠償借地料	八〇〇・〇〇〇	一五〇・〇〇〇	二一〇・〇〇〇
標識費	七五・〇〇〇	貳拾圓四隅標識四本一本ニ付五圓〇五圓中央標識一本〇五圓運搬費〇貳圓建築費〇貳拾圓揮毫料〇拾參圓標識仕上料〇計金六拾五圓		拾圓　案內標杭	注連繩製作及取付六回分一回五圓
注連繩費	三〇・〇〇〇				參拾圓　蔀繩及大工人夫賃
竹柵建設費	二〇〇・〇〇〇				八拾圓　百貳拾圓　竹及柱木

收納舍農具舍肥料舍建築費	六〇〇・〇〇〇	六百圓　收納舍農具舍肥料舍建築費
見張所建設費	三〇・〇〇〇	參拾圓　見張所一箇所建設
作業費	一、五二五・〇〇〇	八九八・〇〇〇
種子代	一〇・〇〇〇	拾圓　種子代
肥料代	四〇・〇〇〇	四拾圓　肥料代
器具費	五七九・〇〇〇	百六拾壹圓　農具代
被服費	三五〇・〇〇〇	四拾六圓　縄以下十八廉代
消耗品費	一二六・〇〇〇	三百七拾圓　延千二百三十四人平均一人參拾錢
耕作人夫賃	三七〇・〇〇〇	拾圓　齋田區劃整理及畦砂
齋田區劃整理費	一〇・〇〇〇	
作物賠償費	四〇・〇〇〇	
式典費	一、九六一・五一〇	一、三三五・〇一〇

五圓　神官手當
〇五圓　奏樂人手當
〇壹圓　貳拾錢　案内狀
〇拾五圓　來賓接待
〇拾圓　茶菓概算
〇參拾四圓六拾錢　祭場設

被式費	七八二・一一〇	備材料〇八圓　祭場設備人夫〇八拾貳圓　祭場設備材料〇四拾五圓　參列員席足場人夫〇拾圓　天幕新調〇十九拾六圓　天幕運搬費〇四拾圓　借入三坪分〇貳拾圓　天幕運搬費〇六拾貳圓　借入損料五間同運搬費十五張ノ〇七圓　五錢　茶碗五百個〇五圓　五拾錢　土瓶十個〇〇五圓　徽章五百人分〇〇五圓　計金貳百七拾六圓五拾錢
拔穗式費	五六九・七〇〇	五圓　神官手當〇五圓　奏樂人手當〇壹圓　貳拾錢　案内狀〇拾五圓　來賓接待〇拾圓　茶菓概算〇參拾四圓六拾錢　祭場設備人夫〇〇參百九拾貳圓　足場材料〇貳百圓　天幕運搬費〇四拾貳圓　借入損料五間同運搬費十五張ノ〇七圓　五錢　茶碗五百個〇五圓　五拾錢　土瓶十個〇〇五圓　徽章五百人分〇〇五圓　計金貳百七拾六圓五拾錢
田植式費	六〇九・七〇〇	拾四圓　案内狀 貳百六拾貳圓五拾錢　來賓接待 計金貳百七拾六圓五拾錢
		拾六圓　案内狀 參百圓　來賓接待 計金參百拾六圓
		拾七圓　供物及供物臺

| | | |

算ニ照シ、奉贊會及齋田所有者ノ支出スヘキ經費ヲ豫定スルト共ニ縣ニ於テ支出スヘキ經費豫算ヲ決定セント欲シ、原口理事其衝ニ當リ、專ラ馬場屬ヲシテ其構成組立ヲナサシメ、大槻屬、神谷農業書記之ヲ補助シテ齋田ニ關スル經費豫算案ヲ作リ、後ニ石口理事官、湯地内務部長ノ査定ヲ經、知事ハ大要左ノ如ク決定シタリ。（奉贊會ノ經費豫定ハ本章第二節ニ掲クルモノト大同小異ナルヲ以テ之ヲ略シ所有者ノ經費豫算ハ之ヲ本章第三節ニ掲ク）

科目	豫算高	積算
齋田監督費	三、九五七・〇〇〇円	
手當	三五〇・〇〇〇	五十圓　式典ニ關スル囑託員手當 五拾圓　編纂ニ關スル囑託員手當 貳百五拾圓　繪畫ニ關スル囑託員手當 計金參百五拾圓
旅費	七八〇・〇〇〇	貳百六拾壹圓拾六錢　管外旅費 内　百參拾壹圓四錢　上京　旅費 八拾四圓拾貳錢　香川縣行旅費 四拾六圓　京都行旅費 五百貳拾六圓七拾四錢　管内旅費 内　參百參拾貳圓五拾九錢　試場掛員旅費 九拾九圓五拾五錢　在廳員旅費 九拾四圓六十錢　郡役所員旅費 計金七百八拾七圓九拾錢（外ニ拾錢切上）
備品費	三一・〇〇〇	參拾圓　標本　代 壹圓七拾五錢　印章　代 計金參拾壹圓七拾五錢（外ニ貳拾五錢切上）
消耗品費	九二・〇〇〇	參拾四圓八拾七錢五厘　常用用紙代 貳圓五拾錢　原稿用紙代 貳拾五錢　水繩代 壹圓拾錢　漉紙代 貳圓　謄寫版原紙代 九拾錢　インキ代 五拾圓　繪畫材料代 計金九拾壹圓六拾貳錢五厘（外ニ參拾七錢五厘切上）

圖書及印刷費	一、七九五・〇〇〇	參百圓　讀本一二千五百部代 千圓　記錄參考圖書代 五拾圓　記念寫眞代 貳百圓　感謝狀代 四拾五圓　寫眞代 計金千七百九拾五圓
通信運搬費	四〇〇・〇〇〇	貳拾五圓　讀本送料 貳百圓　記錄送料 五拾圓　記念寫眞送料 貳拾五圓　感謝狀送料 參拾圓　電報電話代 七拾圓　郵便切手代 計金四百圓
雜費	五〇〇・〇〇〇	貳百圓　悠紀地方獻物費 參百圓　雜費 計金五百圓
悠紀齋田奉贊會補助費	二、五〇〇・〇〇〇	貳千五百圓　一般事業補助 五百圓　指定事業補助（齋田地模型製造費）
合計	六、四五七・〇〇〇	計金貳千五百圓

大正四年五月、大禮ニ關スル諸般ノ經費豫算ヲ審議セシメンカ爲メニ臨時愛知縣會ヲ召集スルヤ、知事ハ大禮ニ關スル警察諸費、大典記念事業ニ關スル各種補助費ノ豫算等ト共ニ大正四年度歲入歲出追加豫算歲出臨時部第七款勸業費ノ中ニ齋田監督費金參千九百五拾七圓ヲ、同第八款勸業補助費ノ中ニ悠紀齋田奉贊會補助金貳千五百圓ヲ計上シタリ。

然ルニ縣會議員多數ノ意向ハ、斯ノ如キ光榮アル事業ニ要スル經費ヲ決議スルニ當リ、既存款項目ノ追加豫算トシテ協贊センヨリハ更ニ進ンテ大禮奉祝ニ關スル經費ノ一款ヲ新設スルヲ適當トスト曰フニ在リシヲ以テ、縣ハ豫算ノ編成ヲ變更スルト共ニ、大正四年度所屬歲出

費目中ニ大禮奉祝費ノ一款ヲ新設スルノ同意ヲ得、大正四年度歳入歳出追加豫算歳出臨時部第十三款大禮奉祝費第一項大禮記念事業費中ノ一目トシテ齋田翼贊費金六千四百五拾七圓ヲ計上シ、滿場一致ノ可決ヲ得テ、茲ニ齋田ニ關スル縣經費豫算ハ其確定ヲ見ルニ至レリ。縣會カ此ノ豫算ヲ審議スルニ方リ、專ラ奉祝ノ誠意ヲ表セントスルノ態度ニ出テシハ、曩古ノ大典ニ遭遇セシ國民ノ至情トシテ素ヨリ其所ナルヘシト雖、理事者トシテハ特ニ其公明ニシテ謹肅ナル議員ノ態度ヲ目視シ、衷心喜悦ニ堪ヘサリシモノアリ。故ニ茲ニ之ヲ特記シテ以テ永ク後世ニ傳フ。

第二節　奉贊會ノ經費豫算

悠紀齋田奉贊會ハ既述ノ如キ目的ノ下ニ大正四年四月ヲ以テ既ニ其成立ヲ告ケ、右ノ經費豫算ヲ議決シタリ。

悠紀齋田奉贊會收支豫算書

收入

科目	豫算額	附記
第一款　補助金		
一　縣費補助	五、七二九・〇〇〇	縣費ヨリ補助
二　郡費補助	二、二〇〇・〇〇〇	郡費ヨリ補助
三　村費補助	一、五〇〇・〇〇〇	村費ヨリ補助
第二款　雜收入		
一　不用品賣拂代	三九・〇〇〇	不用品賣拂代見積
合計	五、七二九・〇〇〇	

支出

科目	豫算額	附記
第一款　事務所費		
一　事務員給	二七〇・〇〇〇	事務員一箇月參拾圓九箇月分
二　役員辨當代	二〇〇・〇〇〇	役員辨當代出勤延人數二千人一人拾錢
三　小使給及人夫賃	二二・〇〇〇	小使一人八箇月分一箇月九圓此金七拾貳圓雜用人夫百人分一人五拾錢此金五拾圓
四　役員及職員旅費	一〇〇・〇〇〇	役員及職員旅費概算
五　事務所及物品借上料	一八・〇〇〇	事務所借上料八箇月一箇月壹圓此金八圓物品借上料拾圓概算
六　點燈及薪炭費	一三〇・〇〇〇	點燈費八拾圓概算薪炭費五拾圓概算
七　消耗品費	一〇〇・〇〇〇	諸用紙代、朱肉雜費其他概算
八　通信運搬費	一六五・五〇〇	郵便切手及電報電話料
九　撮影費	一〇〇・〇〇〇	寫眞原版百回分一回壹圓
第二款　標識費	三三・〇〇〇	
一　中央標識及四隅標識費	二三・〇〇〇	標識仕上料拾五圓標識運搬費五圓建設費參圓
二　案內標建設費	一〇・〇〇〇	案內標四本一本貳圓五拾錢
第三款　建設物費	八一〇・〇〇〇	

一 注連繩費	三〇・〇〇〇	注連繩壹圓參拾壹圓分
二 門建設費	三〇・〇〇〇	概算
三 竹柵建設費 收納舍、農具舍調製舍建設費	五〇・〇〇〇	概算
四 潔齋場修繕費	六五・〇〇〇	建坪三十二坪五合一坪貳拾圓
五 見張所建設費	二〇・〇〇〇	
第四款 被服費	三〇・〇〇〇	
一 奉耕者被服費	四〇三・〇〇〇	
二 撰別人被服費	三二八・〇〇〇	耕作用男被服百着分一着貳圓五拾錢此金貳百五拾圓
第五款 式典費	八五・〇〇〇	耕作用女被服三十四着分一着貳圓此金六拾八圓
一 祓式費	一、四四八・〇〇〇	米撰別人用前垂百人分一人五拾錢此金五拾圓
二 田植式費	四八六・〇〇〇	同日當七百人分一人五錢此金參拾五圓
三 抜穗式費	五〇〇・〇〇〇	
第六款 接待費	九二六・〇〇〇	
一 接待費	九二六・〇〇〇	
第七款 警備費	四一三・五〇〇	
一 齋田見張人手當	二七七・五〇〇	警備日數百八十五日一日五人延人員九百二十五人一日一人參拾錢
二 水路見張人手當	一三六・〇〇〇	警戒人數百七十日一日四人延人員六百八十人一人一日貳拾錢
第八款 豫備費	五〇〇・〇〇〇	
一 豫備費	五〇〇・〇〇〇	
合計	五、七三九・〇〇〇	

（耕作用男被服百着分一着貳圓五拾錢此金貳百五拾圓／耕作用女被服三十四着分一着貳圓此金六拾八圓／米撰別人用前垂百人分一人五拾錢此金五拾圓／同日當七百人分一人五錢此金參拾五圓）

（案内狀印刷及郵便切手代拾圓、祭壇及神饌所建設代貳拾參圓、供物及供物臺拾七圓、神官奏樂人手當拾圓、祭場用天幕一張買入代六拾圓、來賓用天幕借入代始メ式場設備費七拾圓概算、折詰二百五十人前一人五十錢此金百貳拾五圓、宴會場設備費百拾圓、來賓徽章及其他雜費參拾七圓／案内狀及郵便切手代拾六圓、供物及供物代拾七圓、神官及奏樂人竝ニ早乙女手當拾五圓、式場設備費八拾六圓、折詰四百三十人分一人五拾錢此金貳百拾五圓、宴會場設備費四拾七圓、記念章調製其他雜費九拾圓概算）

（勅使始接待費參百八拾圓、繪葉書五千組一組五錢此金貳百五拾圓、六ツ美案内、齋田地案内、碧海郡案内、其他印刷代百七拾圓、茶菓代八拾圓、茶器買入代其他雜費四拾六圓）

茲ニ於テ四月十六日奉贊會ハ各經費豫算ヲ具シ左ノ如ク縣費補助ノ申請書ヲ提出シタリ。

縣費補助ノ義申請

一金貳千貳百圓也

悠紀齋田奉贊會收支豫算別紙之通相定候間何卒特別之御詮議ヲ以テ前記金額御補助被成下度此段申請候也

大正四年四月十六日

悠紀齋田奉贊會長　井深　基

愛知縣知事法學博士松井茂殿

之ニ對シ縣ハ六月十七日左ノ指令ヲ發シ請書ヲ徵シタリ。

指令農發第二一四號

悠紀齋田奉贊會

大正四年四月十六日付申請其會會費中ヘ縣費補助ノ件聞屆ケ金貳千圓ヲ交付候條別紙命令書ノ各項ヲ遵守スヘシ

大正四年六月十七日

愛知縣知事法學博士　松井　茂

命令書

第一條　悠紀齋田奉贊會ハ左ニ揭クル事項ヲ爲スヘシ

一祓式御田植祭ヲ擧クルコト

一齋田ヲ說明スヘキ書冊齋田ノ經過ヲ記述シタル書冊繪葉書ヲ發行スルコト

一潔齋場見張所收納舍農具舍調製舍竹柵門標識注連繩ヲ建設スルコト
一耕作竝ニ調製從事者ニ一定ノ被服ヲ給與スルコト
一齋田及其用水路ニ警備人ヲ置クコト
一齋院ノ基礎工事及抜穗式附隨ノ施設ヲ爲スコト

第二條　悠紀齋田奉贊會ハ左ニ揭クル事項ニ就テ豫メ知事ノ承認ヲ受クヘシ
一重要ナル金品ノ寄附採納ニ關スルコト
一重要ナル印刷物ノ配付ニ關スルコト
一財產ノ處分ニ關スルコト
一諸規程ニ關スルコト

第三條　悠紀齋田奉贊會ハ前各條ノ規定ニ據ルノ外知事ニ於テ必要アリト認メ發スル命令ヲ遵守スヘシ

第四條　本命令書ニ對スル請書ヲ七日以內ニ差出スヘシ

大正四年六月十六日

愛知縣知事法學博士　松井　茂

因ニ齋田所在ノ碧海郡ニ於テハ同郡會滿場一致ノ協贊ヲ得テ金貳千圓ヲ、六ツ美村ハ同村會ノ協贊ヲ得テ金壹千五百圓ヲ、何レモ悠紀齋田奉贊會ニ補助シテ同會ノ事業ヲ翼贊シタリ

第三節　齋田所有者ノ經費豫算

齋田ニ關シ施設經營スヘキ事業ニシテ耕種肥培其他新穀調製ニ屬セサル事項ハ殆ント縣若クハ奉贊會ニ於テ經營スルコトトシ、夫々豫算ヲ定メタルコト、既ニ前二節ニ述ヘタルトコロノ如シ。故ニ齋田所有者ノ經費トシテ豫定スヘキモノハ耕作調製ノ外、本人ノ各地往復旅費其他諸雜費ニ過キサルヲ以テ玆ニ縣カ見積リタル齋田所有者ノ支出スヘキ耕作調製費豫算ヲ揭出スルニ止メン。

科目	豫算高	積算
耕作調製費	一、二七〇・〇〇〇	
諸給與	三七二・〇〇〇	貳百六拾七圓　耕作男女延五百三十四人辨當料百〇五圓　選別人延七百人辨當料
農具費	五七九・〇〇〇	精米機外百九廉代
消耗品費	二六〇・〇〇〇	繩外十八廉代
種子代	一〇・〇〇〇	
肥料代	四〇・〇〇〇	錬粕外二點代

第十章　御田植祭準備

第一節　田植唄ト各種印刷物

齋田田植ニ際シ田植唄ヲ作成シ之ヲ早乙女ニ謠ハシメントスルノ議ハ既ニ大正三年中農商務省ニ於ケル香川縣トノ打合ニ於テ內定シタルトコロナリ。爾來縣ハ熱田神宮其他縣下

著名ノ神社ノ御田植祭ニ於ケル行事竝ニ田植唄ヲ調査シ、同時ニ齋田地附近ニ於ケル俚謠ノ歌詞竝ニ歌曲ヲ蒐集考究スルトコロアリ。

大正四年ニ至リ、歌詞ハ齋田ニ關スル委員岡部熱田神宮宮司ニ於テ選ハシムルコトトシタリ。始田植唄ノ選擇ハ山崎技師ニ於テ擔任スルコトトシ縣委員會ニ於テ内定シタリシカ、同技師ハ到底其任ニ非ストナシ之ヲ固辭シタニルヨリ竟ニ岡部宮司ヲシテ之ニ當ラシムルコトトナシタルナリ。

茲ニ於テ五月十五日委員岡部讓ハ左ノ歌詞ヲ選ヒテ縣ノ委員會ニ提出セリ。

御田植唄　　岡部讓

今日の良い日の御田植はじめ稻の萬歳御世の數
やがて世界のむつみの種も悠紀の御田より出るやうに

菅の小笠にそろひの著もの苗もそろへば氣も揃ふ
三河萬歳萬歳稻の穗に穗出るよに祈らむしよ

（註）祈らむしよは祈りましやうの方言

早苗うえましよ眞すぐに植ゑうすぐは神樣およろこび

右ハ委員會ノ協議ヲ經、知事ハ之ヲ河村宮内次官ニ内示シテ其指示ヲ覓メタルニ何等意見

ナシトノ回報ニ接シ五月二十日竟ニ確定ノ上發表シタリ。

之ヨリ先、田植唄ノ聲調ヲ何ニ取ルヘキヤノ議ハ委員間ニ於テ屢々審議セラレタルトコロニシテ歌曲ヲ新作スヘシトノ計畫無キニ非サリシカ習得ニ困難ナルト地方ノ山川風土ニ釀成セラレ數百年ノ洗練ヲ經テ齋田地附近ノ風物ト適合スルニ至リシ地方固有ノ俚謠ニ遠サカルノ憾アリ。茲ニ於テ齋田地ノ村長ニシテ悠紀齋田奉贊會顧問兼庶務部長タル早川龍介ハ專ラ歌曲ヲ在來ノ俚謠中ヨリ採擇スルノ衝ニ當レリ。

由來同地方ノ俚謠ニシテ人口ニ膾炙スルモノ尠カラス現ニ米搗唄、草採唄ノ類ハ今尚ホ行ハルル處ナルモ一般ノ俚謠ハ明治初年放歌ノ禁以來多ク廢絶ニ歸シ、田植唄ノ如キハ後ニ正條植ノ普及ニヨル作業方法ノ變更等ニ因リ今日ニ於テハ殆ント全ク行ハルルモノ無シ。早川村長ハ人ヲ派シテ古老ヲ集メ舊來行ハレタル俚謠ヲ聽取スルニ碧海郡南部地方ト碧海郡北部地方トハ自ラ多少ノ歌曲ニ差違アルヲ知リ、碧北地方ニ行ハレタル所謂「五萬石」ノ聲調ヲ採用セントシ俚謠ニ堪能ナル早川逆次郎、杉田末吉等ヲシテ主トシテ傳授ノ任ニ當ラシム。

蓋シ五萬石トハ「五萬石でも岡崎樣は、城の下まで船が著く」ノ俗謠ニヨリテ知ラルル舊岡崎藩主本多氏ノ領地内ニ於テ多ク行ハレタルモノナリ。

早川村長ハ假ニ田植ノ唄ヲ作リ前記早川杉田等ヲシテ耕作從事者ニ傳習セシメ、後縣ニ於テ歌詞ノ決定發表アルヤ直チニ之ヲ習得セシムルニ力ヲ致セリ、今之ヲ洋樂音譜ニ寫シタル青柳名古屋市第二高等小學校訓導ノ調査ニ基キ雜誌「音樂」ヨリ其要領ヲ採錄セントス。

縣ハ御田植祭準備ニ先チ當日以後拜觀者ニ配布シ又ハ關係者ニ送付スヘキ小冊子ノ刊行ヲ企テ、之ヲ「悠紀齋田案內」ト題シ、他ニ一枚刷ノ「悠紀齋田一斑」ト共ニ悠紀齋田奉贊會ヲシテ出版セシムルコトトセリ。

茲ニ於テ齋田ニ關スル委員補助縣屬藤岡長和碧海郡書記富川仙之助ハ縣廳ノ一室ヲ臨時編纂室ニ充テ奉贊會ノ委囑ニヨリ、左ノ目次ニヨリ悠紀齋田ノ一斑ヲ記述編纂シタリ。

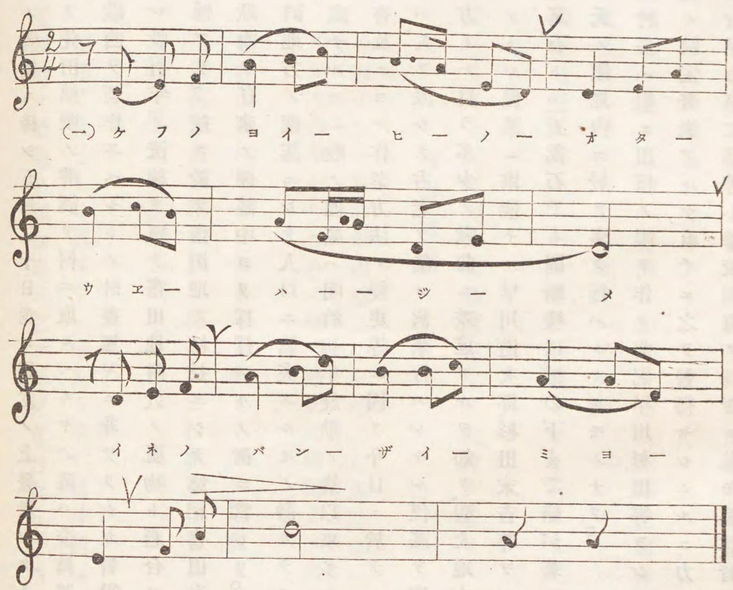
悠紀齋田案內目次

第一　大嘗祭ト齋田
　御卽位ト大嘗祭ー大嘗祭ト齋田
第二　悠紀齋田ノ點定
　齋田ノ決定ー知事ノ諭告ー縣ノ委員ト悠紀齋田奉贊會
第三　齋田地附近ノ概觀
　郡ノ概觀ー六ツ美村ノ位置及地勢沿革ー產業ー敎育
第四　齋田ニ關スル施設竝式典
　齋田地區劃其他ノ設備ー附隨ノ設備ー耕作從事者及警備者ー式典
第五　齋田ニ關スル作業
　種子「萬歲種」ー農具ー作業方法豫定
第六　齋田ノ點定後ニ於ケル郡村ノ狀況
　郡ノ狀況ー六ツ美村青年會ノ活動同在鄉軍人會ノ活動ー六ツ美村ノ施設ー齋田點定ト美談

右ハ四六版四十頁ノ小冊子ナリト雖、十葉ノ寫眞版竝ニ地圖一葉齋田區劃圖一葉ヲ附シ御田植祭前ニ於ケル經營ノ一斑ヲ說明シタルモノナリ。而シテ更ニ其梗概ヲ摘錄シタルモノ

悠紀齋田御田植歌

極めて緩徐に



此ノ樂譜ハ始メ一人ノ奉耕者ニ就テ寫生シタ然ルニ準據スヘキ處ナク只口授ノ略法ニ據レルコトトテ其者獨特ノ謠ヒ方ニ化シ樂譜ニ寫シテモ毫モ信憑スヘカラサルヲ悟リ第二回目ニハ男女十數人ニテ齊唱セシムルコトトシタ斯クスレハ各自獨特ノ唱ヒ方チスル者カアツテモ多クノ聲ニ打消サレ且裝飾音ヲ豐富ニ附ス者モ又ハ貧弱ナル者モ調子拍子ノ多少ノ差異モ凡テ平均シ得テ其共通點ヲ樂譜ニ寫スコトカ能キ眞ヲ傳ヘテ譯ラサルニ庶幾カランカト思惟シタカラテアル此ノ方法テ大體ノ輪廓ヲ寫シ其後數回修正シタル樂譜ヲ觀テ余カ唱謠者ノ地位ニ立チ奉耕ノ男女ニ批評セシメ而シテ訂正數個所ニ及ンテ完成シタ然ルニ日本樂特有ノ裝飾音タル曠梅其他ノ極微ノ事項ニ至リテハ之ヲ徵細ニ樂譜上ニ表シ得ナカツタ從ツテ此樂譜ハ田植謠ノ極致ヲ傳フルモノテハナイカラ樂譜通リ特ニ唱歌流ニ謠ツテハ何等ノ曲趣カ無イ。

備考

一　第十四小節目ノ默符個所ニハ太鼓ヲ二ツ打入ルル故ニ第一章ノ詞ハ太鼓一ツ打入レテ謠出セトモ（便宜上實際ハ弱ク更ニ二ツ打ツ）第一章ヨリ第二章ニ移ル時ハ都合上三ツ打入ルルモノトス

二　一章ノ譜中樂譜ニ表示シタル黑點ニテ太鼓ヲ打鳴ラス

三　徵細ナル裝飾音ハ止ムナク省略セリ

四　拍子ハ場合ニ依リ詞ニ依リテ多少崩レテ唱謠スルカ如シ例ヘハ第五小節目ノ前ノ八分音符ハ時ニ附點八分音符トナリ次カ十六分音符ニ謠フカ如シ

五　調子ハ始メDヨリ若クハ Des ヨリ始マルコトアリ兎ニ角此ノ兩調ヲ上下シツツアレトモ記譜ノ便宜上Dヨリ初メタリ

ハ「悠紀齋田一斑」ニシテ前者三千部後者千部ヲ印刷ニ附シタリ。

齋田ニ關スル記念繪葉書ノ發行又夙ニ縣ニ於テ計畫シタル處ニシテ大正三年中縣立圖案調製所中野工業技師其任ニ當リ、三枚ヲ一組トセル圖案ヲ作成シタリシカ、後大正四年稿ヲ改メテ知事ノ決定ヲ仰ケリ、悠紀齋田奉贊會成立スルヤ此事業亦之ヲ奉贊會ニ移シ竟ニ六月ヲ以テ三枚組繪葉書ヲ五千部發行シタリ。

今之カ解說書ヲ左ニ採錄セン。

第一葉　御卽位式ノ意ヲ寓セルモノ……御卽位式ヲ行ハセラルヘキ紫宸殿南庭ノ橘及ヒ櫻ヲ金泥ニテ表ハシ地ノ五色ハ玉敷ノ庭ノ錦旛ノ色ニ據レリ寫眞ハ六ツ美村ノ地理的代表物タル村社八幡社ニシテ同社ハ齋田潔齋所農具舍收納舍其他事務所出張所ノ所在地ナリ

第二葉　大嘗祭ノ意ヲ寓セルモノ……地ノ淺綠ハ、大嘗宮ノ簀子及ヒ御通路ニ敷カルヘキ葉薦ニシテ配スルニ大嘗祭ノ心葉ヲ以テセリ心葉ハ中古冠ノ巾子ノ前ニ掛ケタル造花ノ飾ニシテ位階ノ高下ニヨリ梅山吹藤等アリタルニ由ナレト此度ノ大嘗祭ニハ男子ハ心葉ヲ用ヒラレサルカ如シ寫眞ハ悠紀齋田地全景及齋田所有者ノ肖像ナリ

第三葉　悠紀齋田ノ意ヲ寓セルモノ……地ニ稻穗ノ波ヲ表ハシ龜甲ハ齋田點定ノ龜トノ御儀ニ取リ、右ニ忌竹ノ竹葉ヲ、左ニ榊葉ヲ配シ、知事郡長村長ノ肖像ヲ寫眞版トセリ

右ノ外、田植式記念繪葉書一千部ヲ發行シ當日ノ來賓ニ配布シタリ。右ハ名古市中區南園町浪越寫眞製版所坂野悅次郎ノ篤志寄附ニ係ル。（坂野悅次郎ハ曩ニ齋田祓式ニ於テモ記念繪葉書七百部ヲ無償奉贊會ニ提供シ、三枚組記念繪葉書ノ如キモ二千部ハ無償三千部ハ實費ヲ以テ納入シタル者ナリ）。

第二節　農商務省ニ於ケル打合

五月十三日農商務省農務局長ヨリ知事ニ對シ齋田ニ關スル打合會アリ十五日午前十時迄ニ當該係官ヲ出頭セシメラレタシト曰フニアリシヲ以テ縣ハ山崎技師藤岡屬ヲ上京セシム十五日午前十時農務局長室ニ於テ打合會アリ、列席者左ノ如シ。

農商務省　道家農務局長　有馬同省囑託

愛知縣　山崎技師　藤岡屬

香川縣　岡本理事官

而シテ農務局長ハ曩ニ四月六日ノ打合會ニ際シ愛知、香川ノ兩縣ヨリ提出セシ協議事項中其回答ヲ後日ニ留保セラレタル各種事項ニ關シ其後宮內省ト協議ノ上決定セシ點ヲ說明セラレ、有馬同省囑託之ヲ補充シ、兩縣派遣官ヨリ微細ナル點ニ關シ質問スルトコロアリ、其內容ハ主トシテ拔穗式竝ニ供納ニ關スル事項ニシテ決定ノ結果ハ後ニ同省ヨリ印刷ノ上送附セラレタリ、其事項左ノ如シ。

第一　拔穗ニ關スル件

一　齋院ノ大サハ間口十間奥行ハ十二間トス、外ニ二間併セテ十五間ヲ要ス尙之ニ關シテハ更ニ大禮使ヨリ圖ヲ以テ之ヲ示スヘシ

二　齋院ノ位置ハ齋田ニ必スシモ隣接スルコトヲ要セス

三　齋院ノ方角ハ齋田ノ西方ニ在ルヲ原則トシ神殿ハ東面スルモノトス
悠紀齋田ニ於ケル現在ノ豫定地ハ不可ナルヲ以テ西方ニ適當ナル地ヲ撰定スルコト
主基齋田ニ於テハ西方ニ適當ノ地ナキヲ以テ現在ノ豫定地ヲ以テ之ニ當テ齋田ノ西方ニ入口ヲ設クルコト

四　齋院ニ建設スル建物（竹矢來ヲ含ム）ノ費用ハ大禮使ノ負擔ナルモ土工費ニ就テハ別ニ協議ス總テ齋院ノ設備ニ就テハ造營部ト協議ノ上決定ス

造營ニ用フル材ハ總テ皮付ノ黑木ニシテ杉松何レニテモヨシ其大サハ造營部ノ定ムル所ニ依ル尙ホ若干ノ藁ヲ要ス

五　齋院ノ建築著手時期及其完成時期ハ造營部ト協議ノ上決定ス

六　齋院ノ建築ニ付キ係官出張ノ有無ハ造營部ト協議ノ上決定ス

七　齋院建物ノ床ノ高サハ造營部ノ定ムル所ニ依ル

八　休憩所ヨリ祓所ニ至ル道順ニ就テハ特ニ指令スヘキコトナキモ尙此事ニ關シテハ更ニ實地ニ就キ協議ノ上決定ス

九　川中潔齋場（祓所）設置ノ要ナキモ他ニ祓所ヲ設クルノ要アリ其ノ大サハ間口五間奥行三間半ヲ要ス但建物ヲ要セス（祓ハ抜穗式ノ前日ナルヲ以テ抜穗使ハ齋田地ニ一泊ス）

一〇　抜穗式ノ日取ハナルヘク豫定ノ日ニ行フモ前後二三日ノ遲速ハアルヘシ

一一　抜穗式ハ實際ノ收穫期以前ニテモ成熟シ居レハ差支ナシ

一二　抜穗式ハ悠紀主基何レヲ先ニスルモ差支ナシ

一三　抜穗式ハ晴雨ニ拘ハラス之ヲ行フ

一四　抜穗式ノ順序ハ追テ之ヲ定ム

一五　抜穗式ニ參列ヲ許サルルモノハ次第書ト共ニ決定スルモ多分內務部長勸業課長位ナルヘシ尙郡村長竝ニ所有者ニ對シテハ特別ノ取扱ヲナスコトヲ考究スヘシ

一六　抜穗式ニ參列ヲ許サルル者ノ服裝ハ小禮服（燕尾服）ナリ

一七　抜穗式ニ要スル神饌ハ其地ニ於テ適宜買上ケラルルヲ以テ豫メ用意ヲ要セス神官モ要セス

一八　抜穗ノ數量及抜穗ノ方法ハ次第書ニ依リ定マル

一九　抜穗ニ要スル器具ハ大禮使ヨリ供給スルヲ以テ準備ヲ要セス

二〇　抜穗ハ持歸ラルルコトナシ

二一　式當日齋田所有者耕作從事者竝ニ雜用人夫ノ服裝ハ次第書ニ依ルモ大禮使ヨリ支給スル白丁ヲ用フ

二二　抜穗使一行ノ人數ハ次第書ニ依リテ定マルモ四人位ナルヘシ

二三　抜穗使ノ行列ハ特定セラルヘキ程ノモノナシ服裝ハ休憩所ニ於テ更メラル

二四　抜穗使警衛ノ程度ハ勅使ニ同シ

二五　抜穗使休憩所及宿所ノ設備ニ就テハ特ニ設備ノ要ナシ乘物ハ人力車ニテヨシ

二六　抜穗式當日抜穗使一行ノ晝餐ニ就テハ特ニ指定スルコトナシ